

主体性を発揮する児童生徒の育成

平成28年度「学びの変革」パイロット校事業

神石高原町立三和中学校区

学習指導案集



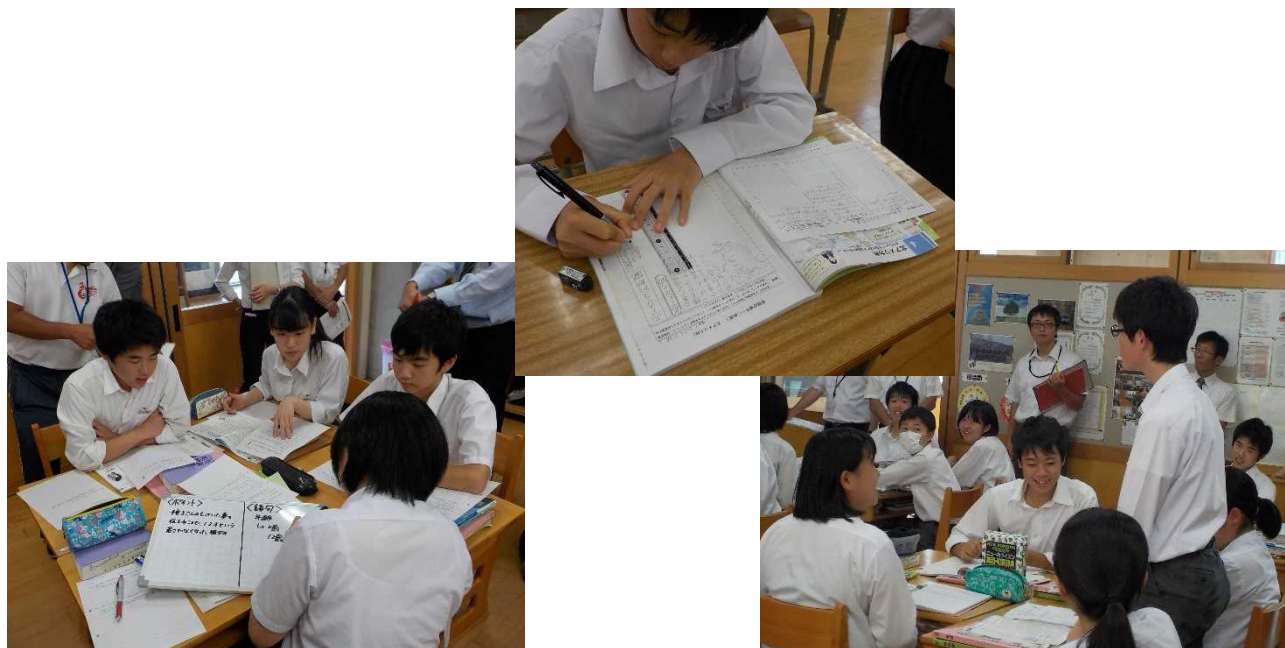
神石高原町立来見小学校・三和小学校・三和中学校

平成29年3月

平成 28 年度 三和中学校 実践記録

目 次

番号	学年	教科	単元名	授業者	ページ番号
1	1年	国語科	誰に翻訳を依頼する？	黒田 裕太郎	1～9
2	1年	社会科	アジア州（西アジア）	佐野 元章	10～16
3	2年	社会科	車輪が支える日本ー！その理由を見つけよう	佐伯 啓樹	17～23
4	2年	数学科	連立方程式	出原 孝則	24～31
5	2年	数学科	かっこいいTシャツのデザインを作ろう	出原 孝則	32～42
6	2年	理科	化学変化と原子・分子「酸素がかかわる化学変化」	赤木 尚徳	43～49
7	2年	理科	我が家の節電計画	赤木 尚徳	50～59
8	1年	音楽科	混声合唱のよろこび 「桜の季節」	向田 あかり	60～68
9	2年	保健体育科	JOC への提言～オリンピック種目への道～	宮原 亮太	69～75
10	1年	技術分野	材料と加工法（木材の特徴ー木質資源の有効利用ー）	西江 克信	76～81
11	1年	外国語科	Lesson 5 “Our New Friend”	藤井 大介	82～88
12	3年	外国語科	Welcome to Jinsekikogen!～英語マップで魅力紹介～	安原 千尋	89～95
13	3年	外国語科	旅行のプレゼンターになろう！～関係代名詞を利用して～	安原 千尋	96～103
14	1年	総合	我が町と平和（地域探訪Ⅰ）	秋山・黒田・西江	104～109
15	1年	総合	未来の神石高原町に必要な仕事を考えよう（地域探訪Ⅱ）	秋山・黒田・西江	110～115



誰に翻訳を依頼する？

本単元で育成する資質・能力

情報収集力、情報活用力、表現力

日 時 平成29年2月16日（木）5校時（14:00～14:50）
場 所 1年A組教室
学年・組 第1学年A組（男子14名，女子9名，計23名）

単元について

本単元は、学習指導要領「読むこと（エ）文章の構成や展開，表現の特徴について，自分の考えを持つこと。」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ（イ）語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し，語感を磨くこと。」を承けて設定したものである。

本単元で扱う「少年の日の思い出」は、ヘルマン・ヘッセによる自伝的短編で、平成28年度の国語教科書に収録されているものは、すべて高橋健二による翻訳である。この翻訳文には、登場人物の心情を読解するうえで、注目すべき表現が見られる。具体的には、「熱情」「悪徳」などの独特の言いまわしや、「四つの大きな不思議な斑点」を主語にした擬人法などである。これらの表現が、登場人物の心情を読解するうえで、大きな役割を果たしている。そのため本教材は、表現の特徴や、語句の果たす役割について考えさせるうえで、適切である。

また、「少年の日の思い出」には、高橋に師事した岡田朝雄による翻訳も存在しており、平成14年度の三省堂の教科書に、読書教材として収録されている。高橋訳と岡田訳とでは、それぞれ文体が異なるため、比較することで、文章表現について考えをもつ契機にすることができる。

そこで、本単元では、2つの翻訳文を比較することを通して、表現の特徴や語句の果たす役割などの国語科の「見方，考え方」を基に自分の考えを述べる力を付けることをねらう。

本単元を通して付けた力は、総合的な学習の時間【地域探訪Ⅱ】において活用したい。当該単元においては、小グループで地域に係わる発表をする。その際、表現の特徴や語句の果たす役割について考えを述べる力が付いていれば、それぞれの発表を評価し、よりよく改善していくことができる。

なお、平成28年度の広島県「基礎・基本」定着状況調査には、金子みすゞによる2つの詩を比較し、論を組みたてる問題（五2）が出題されている。このことから、文章を比較して考えをもつ学習が効果的であるといえる。

生徒観

表現の特徴や語句の果たす役割について考えを述べる力を測定するために、以下のレディネステストを実施した。

レディネステスト 平成28年12月19日 生徒22名に実施

設問1 内藤濯訳の「星の王子様」と、池田夏樹訳の「星の王子様」の違いを箇条書きするもの。
設問2 内藤濯訳の「星の王子様」と、池田夏樹訳の「星の王子様」のどちらの続きを読みたいか、立場を決めて理由を記述するもの。

その結果は次の通りである。

設問 1 について

類型 1 : 違いを複数書いている。	40.9% (9名)
類型 2 : 違いを 1 つ書いている。	36.4% (8名)
類型 3 : 違いを書いているが、不適切である。	22.7% (5名)
類型 4 : 無回答	0%

設問 2 について

類型 1 : 設問 1 の答えを根拠に用いている。	59.1% (13名)
類型 2 : 設問 1 の答えを根拠に用いていない。	40.9% (9名)
類型 3 : 無回答	0%

設問 1 の結果から、「2つの文章を比較して、違いを書く」ことに課題があると考えられる。77.3%の生徒が、違いを書くことはできているものの、36.4%の生徒は、違いをひとつしか書けていないためである。

また、設問 2 の結果から、「2つの文章の違いを、考えの根拠として用いる」ことにも課題があると考えられる。40.9%の生徒が、設問 1 の解答 (= 2つの文章の違い) を根拠とせず、無関係な事項を根拠としていたためである。

以上の結果から、表現の特徴や語句の果たす役割について考えを述べる力は十分に育っていないと判断する。

さらに、設問 1 において「適切な解答」(類型 1, 類型 2) をしていた生徒 17 名について、解答の質的分析を行ったところ、以下のような結果となった。

設問 1 の「適切な解答」の質的分析 (17名)

類型 A : 文章の全体的な違いを記述している	94.1% (16名/17名)
類型 B : 文章の部分的な違いを記述している	41.2% (7名/17名)

※ 数値はのべ人数。両方を書けている生徒は、両方にカウントした。

類型 A には、具体的か抽象的か、常体か敬体かなどの全体的な印象を記述したものを分類した。

類型 B には、文章中から語句を引用したうえで、違いを記述した解答を分類した。

生徒解答の傾向は、類型 A に偏っており、全体的な印象をつかむことはできるが、語句に着目することは不得意である傾向が見てとれる。

以上の傾向から、まず、文章の語句に着目して違いに気づかせる指導が必要である。さらに、これらの違いを根拠として論を組み立てるように、指導していく。

指導改善のポイント

【本校の育成しようとする資質・能力】

- 課題発見力 ○課題解決力 ○情報収集力 ○情報活用力 ○表現力・コミュニケーション力
- 主体性・積極性
- 自らへの自信

■単元学習後の具体的な姿に到達するための指導

生徒に、語句について理解を深め、文章表現について考えをもつ力をつけるために、日々の授業に

において、次の（１）～（３）のことに継続して取り組む。

- （１）個人思考の場面では、特定の表現に着目し、どのような効果があるかを考えさせる。
- （２）集団思考の場面では、小グループで情報を交流することにより、どんな論が組み立てられるか考えさせる。
- （３）授業のまとめの場面では、小グループそれぞれの論を発表しあうことを通して、自ら考えたことの妥当性を検討させる。

■小学校及び既習事項との連続性を生かした指導

日常的に辞書を用いて、語彙を増やしていくように指導する。

■広島版「学びの変革」アクション・プラン（アクティブ・ラーニング）の取組について

<主体性>

- 生徒自らに選択させる。（A・L視点①）
 - ・ 2つの翻訳文のどちらを支持するか選択させることで、主体的に学習に取り組めるようにする。
- 生徒が自分事として当事者意識を持てる課題を設定する。（A・L視点②）
 - ・ パフォーマンス課題を設定することで、2つの翻訳文のどちらかを支持するという学習活動に必然性を与え、主体的に取り組めるようにする。

<協働性>

- 必然性のある小グループ活動をさせる。（A・L視点③）
 - ・ 自分の考えをもち（正）、他の人の異質な考えを取り入れ（反）、新しい知見を生み出す（合）対話的な学びを行う。

単元の評価規準

<単元の目標>

表現の特徴や語句の果たす役割について考えを述べることができる。

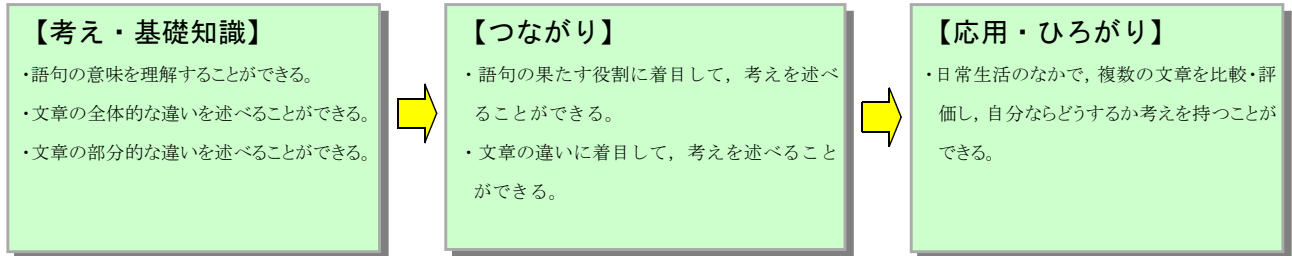
<単元の評価規準>

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・ 文章表現の違いに関心をもち、文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えを持つようとしている。	・ 文章表現の特徴に気づき、自分の考えを持っている。	・ 語句の文脈上の意味を捉え、それが文章の中で果たしている役割を考えている。

資質・能力	評価規準		
	C	B	A
情報収集力	読解のポイントとなる表現の特徴や、語句の果たす役割を読みとれていない。	読解のポイントとなる表現の特徴や、語句の果たす役割を読みとっている。	自ら着眼点をもって、表現の特徴や、語句の果たす役割を読みとっている。
情報活用能力	2つの文章の違いの1つを根拠として、考えを述べている。	2つの文章の違いを複数、根拠として、考えを述べている。	2つの文章の違いを複数、根拠として、具体的な表現を指摘し、考えを述べ

			ている。
表現力	表現の特徴や語句の果たす役割について、考えを表現することができていない。	表現の特徴や語句の果たす役割について、考えを表現することができている。	表現の特徴や語句の果たす役割について、考えを表現し、反対派にも意見をとり入れられている。

「誰に翻訳を依頼する？」のICEモデル



指導と評価の計画

(全 1 1 時間)

次	学習内容	評 価				
		関	読	伝	評価規準 (評価方法)	資質・能力 (評価方法)
1	2つの翻訳文 (1)	課題の設定				
	サリンジャー「ライ麦畑でつかまえて」の2つの翻訳文を比較することを通して、本単元のゴール (パフォーマンス課題) を理解し、学習の見通しをもつ。(1)	○			どのような違いに着目して「少年の日の思い出」を読むか、計画を立てている。(観察・ワークシート)	情報収集力 (観察・ワークシート)
2	高橋健二訳の読解 (5)	情報の収集				
	高橋健二訳「少年の日の思い出」の冒頭部を読み、物語がどのように展開するか予測したうえで、本文を通読する。(1)		○		文章全体の構成について理解し、冒頭部分の効果について考えることができる。(観察・ノート)	情報収集力 (観察・ノート)
	本文の叙述を根拠にして、僕とエーミールの人物像を読解する。(1)		○		僕とエーミールの人物像が対比的に表現されていることに留意して、人物像を説明できる。(観察・ノート)	情報収集力 (観察・ノート)
	僕がクジャクヤママユを盗む場面を読み、擬人法が効果的に使われていることを理解する。(1)			○	「四つの大きな不思議な斑点」が僕を「見つめた」という擬人法に、どのような効果があるか説明できる。(観察・ノート)	情報収集力 (観察・ノート)
	クジャクヤママユを盗んだあと、僕の心情がどのように変化していったか読解する。		○		表現の特徴に注意しながら、僕の心情の変化を読みとれる。(観察・ノート)	情報収集力 (観察・ノート)

	(1)				
	結末部を読み、「少年の日の思い出」についての感想をもつ。(1)		○	終末部の表現から、僕とエーミールの心情について読みとれる。(観察・ノート)	情報収集力(観察・ノート)
	パフォーマンス課題(1)			整理・分析	
3	岡田朝雄訳の「少年の日の思い出」を読み、高橋健二訳との違いを探す。(1)	○	◎	小グループの論議において、自分が見つけた違いを積極的に述べている。(観察) 必要に応じて語句を引用しながら、文章の違いを書くことができる。(ノート)	表現力(観察) 情報活用力(ノート)
	パフォーマンス課題(4)			まとめ・表現	
4	高橋健二訳を支持するか、岡田朝雄訳を支持するか、立場を決めて考えを述べる。(本時3/4)		◎	○ 文の成分や表現技法に着目して、言葉の果たす役割を考えている。(観察) ◎ 国語的な視点で文章を比較し、文章表現について考えをもつことができる。(観察・ノート)	表現力(観察・ノート)
	出版社への質問状を完成させる。		○	文章表現についての最終的な意見をまとめることができる。	表現力(作品)

パフォーマンス課題

海外の文学作品は、複数の翻訳者によって翻訳されているものがあり、翻訳者によって文章も異なっています。ヘルマン・ヘッセ「少年の日の思い出」には、高橋健二さんによる翻訳と、岡田朝雄さんによる翻訳があります。

光村図書の「少年の日の思い出」は、高橋健二さんによる翻訳です。ほかにも多くの出版社が、高橋健二さんによる翻訳を採用しています。一方で、三省堂は、岡田朝雄さんによる翻訳を採用しています。

それぞれの教科書会社が、高橋健二さんまたは岡田朝雄さんを採用しているのは、何故なのでしょう。出版社への質問状を完成させて、調査してください。

解答フォーマット

私たちは国語の授業で、「少年の日の思い出」の高橋健二訳と、岡田朝雄訳を比較する学習をしました。私は、その学習を通して、(高橋訳・岡田訳)が優れていると考えました。

確かに、(高橋訳・岡田訳)は、です。

しかし、(高橋訳・岡田訳)は、です。

従って、私は(高橋訳・岡田訳)が優れていると考えました。

多くの出版社が高橋訳を採用しているなかで、(御社でも高橋訳・御社では岡田訳)が採用されています。差し支えなければ、採用の理由をお聞かせいただければ幸いです。よろしくお願いたします。

尺度 (評点, レベル)	予備的ループリック 記述語 (パフォーマンスの特徴)
3 理想的	<p>全体をつらぬく分析の観点を明らかにしたうえで、複数の語句を引用して根拠とし、自ら支持する翻訳文の良さを説明することができる。</p> <p>確かに、岡田訳のほうが、登場人物の人物像が生き生きと表現されています。</p> <p>例えば、高橋訳では「ぼくは生まれて初めて盗みを犯した。」と訳されているところが、岡田訳では「ぼくは生まれて初めて盗みを犯してしまった。」となっています。このような文末から、ぼくの後悔の気持ちを読みとることができます。</p> <p>しかし、高橋訳のほうが、登場人物の人物像が好ましいと考えます。</p> <p>例えば、ぼくが謝罪してちょうの収集を全部あげるといったことに対して、高橋訳のユーメールは、「結構だよ。」と答えているのに対して、岡田訳では「どうもありがとう。」と答えたうえで断っています。このユーメールの人物像は、あまりにも嫌味で、読者が共感できないと考えました。</p> <p>以上の理由から、私は高橋訳のほうが優れていると考えました。</p>
2 合格	<p>複数の語句を引用して根拠とし、自ら支持する翻訳文の良さを説明することができる。</p> <p>確かに、高橋訳ではクジャクヤママユを「ちょう」としているのに対して、岡田訳ではクジャクヤママユを「蛾」と表現しており、美しいイメージがしにくいところがあります。</p> <p>しかし、岡田訳のほうがリズムのよい文章だと考えます。</p> <p>例えば、高橋訳では「四つの大きな不思議な斑点が、挿絵のよりはずっと美しく、ずっとすばらしく、僕を見つめた。」と訳されているところが、岡田訳では「四つの大きな不思議な眼がぼくをじっと見た。図版で見たのよりも、はるかに美しく、すばしかった。」となっています。岡田訳は一文を短くすることで、リズムよく表現しています。</p> <p>また、高橋訳で「僕は突然、自分は盗みをした、下劣なやつだということを悟った。」と訳されているところは、岡田訳では「ぼくは突然知った。盗みを犯してしまったことを。自分が卑劣な奴だということを。」となっています。ここには倒置が使われており、岡田訳のリズムのよさが現れています。</p> <p>以上の理由から、私は岡田訳のほうが優れていると考えました。</p>
1 乗り越えさせたい実態	<p>複数の語句を引用して根拠とし、自ら支持する翻訳文の良さを説明することができていない。(記述語は省略する。)</p>

本時の学習

(1) 本時の目標

- ・異なる立場の意見を聞くことを通して、文章表現について考えを深められる。

(2) 本時の評価規準

- ・国語的視点で、文章表現について考えをもっている。(読むこと)




(3) 本時に身に付けさせたい資質・能力

表現力

(4) 準備物

教科書 掲示物 ホワイトボード

(5) 本時の展開

学習活動	指導上の留意事項 (◇)	評価規準 (評価方法)	資質・能力 (評価方法)
1 学習内容を確認する。[5分]			
○パフォーマンス課題を知る。 【本時の目標】	◇高橋訳を支持する立場と、岡田訳を支持する立場とに分かれて、小グループになる。	 	
異なる立場の意見を聞くことを通して、よりよい質問状を完成させることができる。			
○本時の流れを知る。	◇例文を見せることで、「確かに～しかし」の有用性を理解させる。本時は、「確かに～しかし」を使うことで、反対の意見を踏まえて、意見を書き直すことを理解させる。		
2 交流と発表。[40分]			
○小グループの意見を発表する。(15分)	◇前時までには発表内容をまとめ、練習させておく。 ◇分かりやすい発表ができるように、音読やホワイトボードを活用して発表することを推奨する。 ◇質問状の修正に活用できるように、意見の根拠をメモするように指示する。		
○メモした内容を全体で共有する。(5分)	◇適宜板書する。		
○小グループの発表を承けて、前時に考えた個人の意見を赤ペンで修	◇「確かに～しかし」を使うことで、反対意見もふまえるようにする。	・国語的な観点で、文章表現について考えをも	表現力 (観察・ノート)

正する。(10分)

◆とりいれる意見を推薦する。

っている。(観察・ノート)

【理想的な解答の例】

確かに、岡田訳のほうが、登場人物の「人物像」が生き生きと表現されています。

例えば、高橋訳では「ぼくは生まれて初めて盗みを犯した。」と訳されているところが、岡田訳では「ぼくは生まれて初めて盗みを犯してしまった。」となっています。このような「文末」から、ぼくの後悔の気持ちを読みとることができます。

しかし、高橋訳のほうが、登場人物の「人物像」が好ましいと考えます。

例えば、ぼくが謝罪してちょうの収集を全部あげるといったことに対して、高橋訳のメールは、「結構だよ。」と答えているのに対して、岡田訳では「どうもありがとう。」と答えたくえで断っています。このメールの「人物像」は、あまりにも嫌味で、読者が共感できないと考えました。

以上の理由から、私は高橋訳のほうが優れていると考えました。

○修正した質問状の内容を、発表する。(7分)

◇高橋訳を支持する立場と、岡田訳を支持する立場の双方について、意図的指名を行う。自分の意見と比較させることで、振り返りにつなげる。

3 本時のまとめをする。[8分]

○本時の振り返りをする。

◇本時の授業を通して、「なるほど」と思ったことをまとめさせる。
◇指導者から、本時の活動を評価するとともに次時の予告をする。

板書計画

少年の日の思い出

ねらい

異なる立場の意見を聞くことを通して、
よりよい質問状を完成させられる。

本時の流れ

- 一 グループ発表
↓意見の根拠をメモする
- 二 メモの交流
- 三 質問状の修正
↓赤ペンで直しをする
- 四 振り返りをする

学習した知識

- | | | | | |
|-----|----|-----|----|-----|
| 一文 | 文末 | 主語 | 述語 | 修飾語 |
| 人物像 | 倒置 | 擬人法 | 直喩 | 隠喩 |
| 反復 | | | | |

アジア州－経済成長による社会の変化をテーマに－

本単元で育成する資質・能力

「課題設定・解決力」「情報収集・活用力」「表現力・コミュニケーション力」

日時 平成28年6月6日(月) 5校時(14:00~14:50)
 場所 1年A組教室
 学年・組 第1学年A組(男子12名, 女子12名, 計 24名)

単元について

本単元は、学習指導要領の地理的分野(1)世界の様々な地域における、「ウ 世界の諸地域」中の「(ア) アジア」にあたる。ウ「世界の諸地域」では、各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、それを基に主題を設けて、それぞれの州の地域的特色を理解させるとある。また、主題の設定においては教師によって設定されるものであるとされていることから、教科書の主題に沿って、本単元のアジア州の主題を「経済成長による社会の変化」とした。

単元構成としては、まず単元の導入では、「身近なものから見たアジア」について、「経済の成長」に関する学習テーマが設定できるよう興味・関心をもたせていく。また、地球儀や地図帳などを活用しながら、アジア州の自然環境、産業、生活・文化、歴史的背景などの特色について概観させる。さらに、アジア州の地域的特色と課題を多面的・多角的に考察し、その成果を様々な手法で表現させていく。

本時では、アジア州の中でも鉱産資源により「近年著しい経済成長」をした「西アジア」について、経済成長を支える要因を資料から見出し追究させていく。終末では「西アジア」は宗教・民族を背景とした紛争が絶えず、深刻な難民問題を抱えている地域であることも追究資料からつかませたい。また、我が国とのつながり、そして自分たちの生活との関連についても考えさせたい。

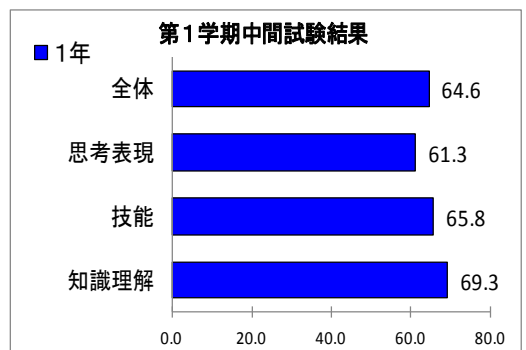
生徒観

本学級生徒は、第1学期中間試験において、全体では、平均正答率が64.6%であった。正解率60%以上の生徒の割合は66.7%、正解率30%未満の生徒の割合は8.3%であった。

観点別では、「社会的な思考・判断・表現」が、61.3%、「資料活用の技能」が、65.8%、「社会的な事象についての知識・理解」が、69.3%であり、「社会的な思考・判断・表現」や「資料活用の技能」に課題があり、「社会的な事象についての知識・理解」も十分とはいえない。

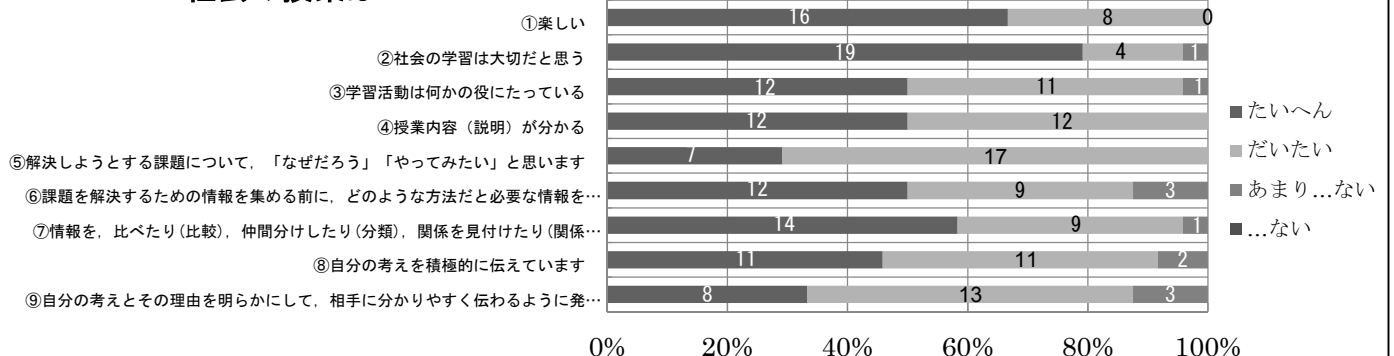
本学級生徒は、全員が宿題はきちんとやってきている。しかし、中間試験時のワークの提出状況を見ると、基礎的な事項を徹底して習得しようとした形跡が少ない。もっと日常的に基礎的な事項の習得ができるよう工夫する必要がある。また、文章表現による解答を求めた記述問題については、無解答率が14.6%あり、考えたことを文章で表現する力に課題がある生徒がいる。これまでの授業の中でも、探究し調べたり分かたりしたことを資料から見つけ出し、表現することに課題がある。

また、5月に実施したアンケートによると、「授業では、解決しようとする課題について、『なぜだろう』、



社会の授業は

(人数/24人)



『やってみよう』とします」,「授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝わるように発表を工夫しています」の「たいへん思う」と答えた生徒の割合がそれぞれ 28.0%, 32.0% と他の項目より低く、課題設定の場面、発表などの表現する場面に課題があることが分かった。

指導改善のポイント

【本校の育成しようとする資質・能力】

- 課題設定・解決力 ○情報収集・活用力 ○表現力・コミュニケーション力
- 主体性・積極性 ○自らへの自信

■単元学習後の具体的な姿に到達するための指導

生徒が課題意識を持ち、めあてを設定したり、既習事項や教科書や地図帳・副教材等から習得したことを用いて説明したり、記述したりできるようにするために、日々の授業において、次の(1)～(4)のことを継続して取り組む。

- (1) 課題設定の場面で、生徒に疑問や違和感、必要性等を持たせる工夫をし、生徒自らの課題意識へとつなげ、「めあて」を持たせる。
- (2) 個人思考の場面では、自分の考えを教科書や地図帳・副教材等の資料から習得したことや根拠に基づいた理由とともにノートに記述させる。
- (3) 集団思考の場面では、
 - ① 発言者には、様々な地理的事象について習得したことを、用語を用いて、自分の考えを説明させる。
 - ② 聞く側には、他者の考えを自分の考えと比較し、色を変えてノートにキーワードでメモさせる。
- (4) 授業のまとめの場面では、その時間の目標(課題)に対する答えを、生徒の言葉で説明させる。

■小学校及び既習との連続性を生かした指導

生徒が小学校で習得した世界に関する知識や、我が国とつながりが深い国から一か国を選択して調べ話し合うなどした小学校第6学年での作業的、体験的な学習活動の経験を活用する。また、視聴覚資料など各種の資料を活用し、世界地理の学習への興味や関心を高める内容になるよう配慮する。

■広島版「学びの変革」アクション・プラン(アクティブ・ラーニング)の取組について(4つのプロセス) <主体性>

- 導入において、意外な事例や資料を見せる。(A・L視点①) **課題設定**
 - ・ 生徒が「なぜだろう?」と考えようとする必然性を与えることで探究心に火をつけ、生徒の主体性を引き出す。例えば、生徒は、西アジアといえば、乾燥帯気候で砂漠などが多く、人口も少なく都市は発展していないというイメージを持っているが、そこへ世界一高いビルを見せ、驚きを与えたり疑問を持たせたりする。
- 教科書や地図帳・資料集等にある資料を活用し、情報を収集させる。(A・L視点②) **情報収集**
 - ・ 教科書や地図帳・資料集等にある資料から、積極的に情報を収集し、主体的に課題解決を図ろうと探究する態度を養う。
- 身近なことと関連づけて興味をもたせる。(A・L視点③) **整理・分析**
 - ・ 日常生活と結びつけた教材を扱うことで、興味や関心を高め、生徒の学習の主体性を高める。例えば、石油と自分とのつながり、又、我が国の産業等のつながりなどと関連付ける。
- 授業の最後に振り返りを書かせる。(A・L視点④) **まとめ・創造・表現**
 - ・ 生徒が自分自身の成長を感じたり、自分が学んだことの意味を理解したりすることで学ぶことへの主体性を高める。

<協働性>

- 意図的にグループで話し合いをさせる。(A・L視点⑤) **まとめ・創造・表現**
 - ・ 他の生徒の話をしっかり聞かせたり、自分の考えを説明させたりすることで、一人では到達できなかった深い思考に到達することができ、生徒と生徒の協働性を高めることができる。
- 学習の振り返りをさせる。(A・L視点⑥) **まとめ・創造・表現**
 - ・ 授業の最後に振り返りを書かせることで、生徒の理解状況を把握したり、教師自らの授業を振り返るきっかけとしたりすることで教師と生徒の協働性を高める。

課題

【指導上の課題】

- 課題設定の場面において、生徒が主体的に考えた課題設定となっていない。
- 授業での発問や試験での記述問題に対して、資料等をもとに考察したり、用語を用いて正確に記述したり説明したりすることに課題のある生徒がいる。
- その原因として、複数の事象を有機的に関連付けて考えること、自分の考えを整理すること、事実や根拠に基づいた理由付けをする力が育っていないこと、適切な用語を使って正確に表現できないことなどが考えられる。

指導改善のポイント

【指導の工夫】

- (1) 課題設定の場面で、生徒に疑問や違和感、必要性等を持たせる工夫をし、生徒自らの課題意識へとつなげ、「めあて」を持たせる。
- (2) 個人思考の場面では、自分の考えを教科書や地図帳・副教材等の資料から習得したことや根拠に基づいた理由とともにノートに記述させる。
- (3) 集団思考の場面では、
 - ① 発言者には、様々な地理的事象について習得したことを、用語を用いて、自分の考えを説明させる。
 - ② 聞く側には、他者の考えを自分の考えと比較し、色を変えてノートにキーワードでメモさせる。
- (4) 授業のまとめの場面では、その時間の目標（課題）に対する答えを、生徒の言葉で説明させる。

単元の目標と評価規準

<単元の目標>

- ・ アジア州の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、捉える。
- ・ アジア州の多様性と経済発展をもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適確に表現する。
- ・ アジア州の地域的特色に関するさまざまな資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりする。
- ・ アジア州の多様性と経済発展をもとに地域的特色を理解し、その知識を身に付ける。

<評価規準>

ア 社会的な事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断・表現	ウ 資料活用の技能	エ 社会的な事象についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none">・ アジア州の自然環境、産業、生活・文化、歴史的背景などの特色について概観する中で、特に経済成長に関心を持ち、設定された学習テーマを意欲的に追究できる。・ 日常よく見かけるアジア製品と、アジア州と自分たちの生活とのかかわりに関心を持つことができる。	<ul style="list-style-type: none">・ アジア州の経済が成長してきた理由について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。・ 広範なアジア州の経済成長の過程を、地域ごとに理解するとともに、州全体の地域的特色を考察できる。	<ul style="list-style-type: none">・ アジア州の人口増加、都市と農村の変化、国家間の結び付きなどについて表した主題図や写真などの資料から、アジア州の地域的特色について有用な情報を適切に選択することができる。・ 適切に選択した情報から読み取ったことを、文章にまとめたり発表するなどして、表現する力を身につけることができる。	<ul style="list-style-type: none">・ アジア州について、変化に富む自然環境と、都市化が急速に進む様子を概観し、それぞれの基礎的・基本的な知識を理解できる。またアジア州について、「経済の成長」の学習テーマをもとに地域的特色を理解できる。

指導と評価の計画

【考え・基礎知識】

地球儀、世界地図、地図帳などを活用し、地域的特色を説明することができる。



【つながり】

資料をもとに、農業などの工夫や特色や食文化との関連を捉え説明することができる。



【応用・ひろがり】

習得した知識、概念や技能を活用して、興味・関心ある世界の地理的事象を調査、探究することができる。

(全7時間)

次	学習内容	評 価						
		関	思	技	知	評価規準	資質・能力	
1	1 アジア州の自然環境 ・地図をながめて ・「世界の屋根」のあるアジア州 ・熱帯から寒帯にまたがるアジア州	○			◎		関心・意欲・態度 アジア州の地形や気候に対して関心を持ち、意欲的に調べようとしている。 技能 雨温図や気候区分地図などの資料から、東京との比較を行うことで、アジア州の気候の特色を読み取っている。	課題設定・解決力 情報収集・活用力
2	2 アジア州の人口、文化、産業 ・世界の人口の6割が集まるアジア州 ・アジア州の多様な文化 ・盛んな農業と工業化による経済成長	◎			○		関心・意欲・態度 アジア州の文化や産業に対して関心を持ち、意欲的に調べようとしている。 知識・理解 アジア州の人口の多さや多様な文化に気付き、農業や工業の特色について理解している。	課題設定・解決力 情報収集・活用力
3	3 経済成長によって変化する中国 ・世界最大の人口をかかえる中国 ・東と西、南と北で異なる農業 ・外国企業の進出と工業化		◎			○	思考・判断・表現 中国の経済成長が生み出した経済格差や環境問題などの課題について、その対応策を考え、適切に表現している。 知識・理解 中国の経済成長の理由と、経済成長が生み出した経済格差や環境破壊について理解している。	情報収集・活用力 表現力・コミュニケーション力
4	4 国によって異なる経済成長—東アジア・東南アジア— ・稲作を中心とした農業 ・工業化の進んだ韓国 ・結びつきを強める東アジアと東南アジア			◎		○	技能 東アジア・東南アジアの経済の特色を、写真や統計数値などの資料から読み取っている。 知識・理解 東アジア・東南アジアの国々の経済成長が国によって異なる理由について、適切に説明している。	情報収集・活用力 表現力・コミュニケーション力
5	5 発展するインド—南アジア— ・南アジアの農業の変化 ・IT産業大国インド ・インドの人々の生活の変化			◎		○	技能 写真資料から、経済成長によって人々の生活がどのように変化したかを読み取っている。 知識・理解 インドの経済成長の理由と、経済成長によってどのように生活が変化したかを理解している。	情報収集・活用力 表現力・コミュニケーション力
6	6 鉱産資源による経済成長—西アジア・中央アジア— ・豊富な石油を活用した経済成長 ・経済成長と社会の変化 ・紛争の続く西アジア・中央アジア 【本時6/7】	○			◎		思考・判断・表現 繰り返し発生する紛争などの課題について、その原因を説明するとともに、対応策を考え、適切に表現している。 技能 石油資源の有無が国ごとの経済成長の差異につながっていることを、地図・グラフ・表などの資料から読み取っている。	情報収集・活用力 表現力・コミュニケーション力
7	【自由研究】 経済成長を続けるスリランカと日本 【学習のまとめ】 アジア州をふりかえる		◎				思考・判断・表現 経済成長による社会の変化からアジア州の地域的特色を多面的・多角的に考察し、適切に表現している。 知識・理解 アジア州で経済成長を果たしている国の持つ共通性について理解している。	課題設定・解決力 情報収集・活用力 表現力・コミュニケーション力

パフォーマンス課題

本時の学習

(1) 本時の目標

西アジア・中央アジアが石油資源をもとに経済成長を続けていることを、資料を活用して、表現することができる。

(2) 本時の評価規準

- 石油資源の有無が国ごとの経済成長の差異につながっていることを、地図・グラフ・表などの資料から読み取っている。
- 繰り返し発生する紛争などの課題について、その原因を説明するとともに、対応策を考え、適切に表現している。

(3) 準備物

教師：掛地図、パソコン、大型ディスプレイ、ホワイトボード、マーカー、他
 生徒：教科書、地図帳、資料集、ノート

(4) 本時の展開

学習活動	指導上の留意事項 (◇) ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て	評価規準 (評価方法)	資質・能力 (評価方法)
1 課題意識を持つ。〔5分〕			
○2つの写真を見て、西アジアのものはどちらかを考える。 <ul style="list-style-type: none"> Aの砂漠 Bはちがう <div style="border: 1px solid black; background-color: #f4b084; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;">課題の設定</div>	◇既習事項「アジア州の自然環境」 ◇実は、両方とも西アジアで、Bがドバイにある世界一のビルであることを示し、「驚き」を感じさせ、疑問を持たせる。 ◇他にも世界で高いビルはアジアに集中していることを伝える。	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; background-color: #fff9c4; padding: 5px;">A・L①</div> <div style="border: 1px solid black; background-color: #d9ead3; padding: 5px;">指導改善のポイント(1)</div> </div> <div style="border: 1px solid black; background-color: #fff9c4; padding: 10px; margin-top: 10px; text-align: center;"> 既習や驚きを生かした課題提示をするよう工夫する。 </div>	
2 本時の課題を発見する。〔5分〕			
○都市化した西アジアの写真から、なぜ、ここまで成長かを考える。	◇写真のイメージとのギャップから、なぜ西アジアが発展していったのか、課題意識を持たせる。		
本時の目標：西アジアが、どのようにして経済成長をしたかを説明できる。			
○学習課題について予想する。 <ul style="list-style-type: none"> 人口が多い。 工業や商業などの産業が発達している。 石油などの資源が多い。 <div style="border: 1px solid black; background-color: #f4b084; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;">情報の収集</div>	◇既有的知識から、想像させる。 ◆ノートなどを見返すよう指示する。		
3 情報を収集し、解決の見通しをもつ。〔 分〕			
○西アジアが経済成長した理由を、地図やグラフなどの資料をもとに探り、分かったことを書く。 <ul style="list-style-type: none"> □産油国が多い。 □石油の生産の3割、埋蔵量は半分が集中。(ペルシア湾岸は世界最大の油田地帯) 	◇教科書や資料集などの地図やグラフを提示する。 ◇資料等から分かることをまず自分で考えて、ノートに書くよう指示する。(個人思考) ◆机間指導の中で声かけをし、資料を見る視点をアドバイスする。(石油と関連があることに気付かせる。) ◇資料を調べる中で、経済成長している国もあれば、そうでない国もあることに気付かせる。	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; background-color: #fff9c4; padding: 5px;">A・L②</div> <div style="border: 1px solid black; background-color: #d9ead3; padding: 5px;">指導改善のポイント(2)</div> </div>	

<p>□マイルマナーを、国内の工業の発展や、都市開発、社会保障に生かしている。</p> <p>■出かせぎに来ている人がいる。</p> <p>■非産油国は経済成長していない。</p> <p>△日本は、石油の多くを西アジアから輸入している。</p> <p>整理・分析</p>	<p>◇また、日本との関連について、分かったことがあれば、それも書くよう指示をする</p> <p>◆OPECについて説明する。</p>	<p>A・L④</p>	
<p>4 情報を整理・分析し、課題解決をする。〔20分〕</p>			
<p>○個人で考えたことを班で出し合い、シンキングツールを使ってまとめる。</p> <p>まとめ・表現</p>	<p>◇自分の考えを交流させ、自分の考えと比べながら他の説明を聴いて、考えを深めさせる。</p> <p>◇適切に交流が進んでいるか、机間指導での確認ならびに全体把握に努め、必要に応じ指導する。 (交流の仕方、話しぶり、聴き方、メモ、時間配分)</p> <p>シンキングツールの活用 (クラゲ・チャート)</p>	<p>A・L⑤</p> <p>指導改善のポイント(3)</p>	
<p>5 学習のまとめをする。〔7分〕</p>			
<p>○各班でまとめたことを発表する。</p> <p>○本時のまとめをする。</p> <p>本時のゴールとなる具体的な記述例 西アジアは、石油資源が豊富で、特に産油国は石油の輸出でオイルマネーを得て、経済成長をし、非産油国とは豊かさに大きな差がある。 【キーワード：石油、経済成長】</p> <p>○まとめを発表する。</p>	<p>◇他のグループの発表内容から新たな視点、よさや違いを感じ取らせる。</p> <p>◇2～3名を指名し発表させる</p>	<p>・石油資源の有無が国ごとの経済成長の差異につながっていることを、地図・グラフ・表等の資料から読み取っている。</p> <p>・繰り返し発生する紛争などの課題について、その原因も説明している。 (ノート、ホワイトボード)</p> <p>指導改善のポイント(4)</p>	<p>情報収集・活用力 表現力・コミュニケーション力</p>
<p>6 本時を振り返り、次時につなげる。〔5分〕</p>			
<p>○どれくらい理解できたかを自己評価する。</p> <p>○分かったことと新たな疑問をノートに記述する。</p> <p>○本時の学習を生かして考える。</p>	<p>新たな課題の設定に向けて</p> <p>「応用・ひろがり」を意識した発問 ・「西アジアの地域と自分たちの生活が、どう関わっているだろうか。石油や紛争をキーワードに考えてみよう。」</p>	<p>対応策を考え、適切に表現している。 (ノート)</p>	<p>課題設定・解決力</p>

板書計画

本時の目標

66 西アジアが、どのようにして経済成長をしたかを説明できる。

P42 西アジア・・・石油を大量に生産

生産量は世界の3割、埋蔵量は半分
ペルシア湾岸に集中

→日本の輸入の大部分を占める

産油国・・・石油輸出国機構（OPEC）を組織

オイルマネー→石油化学工業の発展

都市開発、社会保障
教育

※ドバイ・アブダビなど→流通や金融に力入れる

リゾート都市

非産油国・・・経済成長に大きな差、豊かさに違い

1班

3班

5班

2班

4班

6班

検 証

検証の方法

- 平成28年度標準学力調査の結果を分析する。
- 平成28年度1学期期末試験問題の結果を分析する。

車輪が支える日本一！その理由を見つけよう

(4 中部地方のようす)

本単元で育成する資質・能力

情報収集力, 情報活用力, 表現力

日 時 平成 28 年 11 月 14 日 (月) 6 校時 (14 : 30 ~ 15 : 20)
 場 所 2 年 A 組 教室
 学年・組 第 2 学年 A 組 (男子 9 名, 女子 9 名, 計 18 名)

単元について

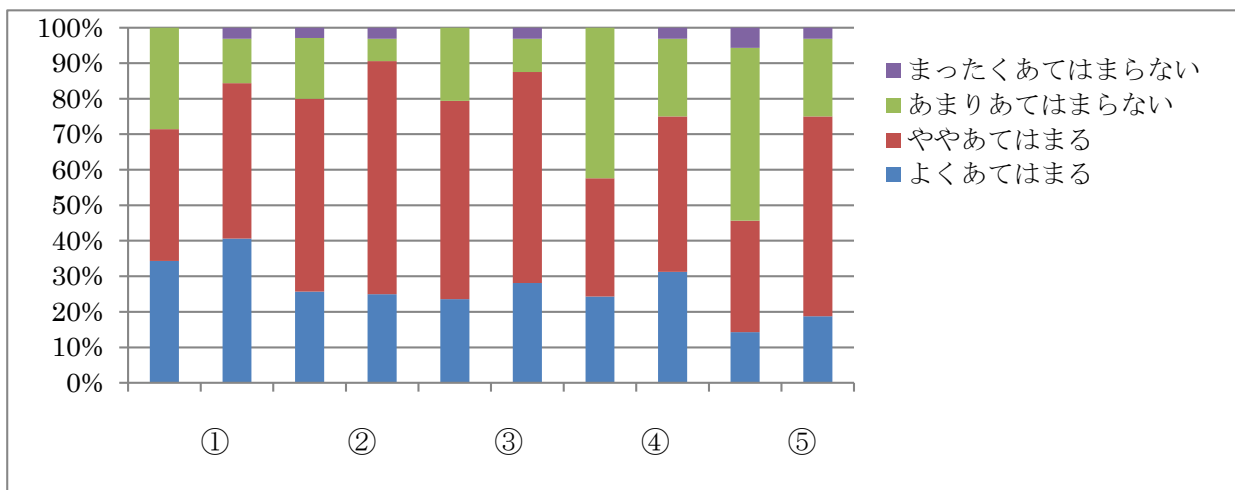
本単元は、中学校学習指導要領（平成20年）地理的分野の内容「（2）日本の様々な地域」の中項目、「ウ日本の諸地域」を単元化したものである。この中項目は、日本を幾つかの地域に区分し、それぞれの地域について、七つの考察の仕方の中から1つを選択し、地域的特色をとらえさせることがねらいとなっている。

地域的特色をとらえさせることについて、中学校学習指導要領解説・社会編（平成20年）では、「地域的特色は、様々な事象が結び付き、影響を及ぼし合って成り立っていることに着目して、地域的特色を中核となる地理的事象とその他の事象との関連からとらえ、その成り立ちを考察することが大切である」と述べられている。また、生徒が、地理的事象を見いだしてその特色を調べたり、事象間の関連を考察したりして、地域的特色を追究する学習活動が求められている。

本単元では、中部地方を取り上げ、学習指導要領に示された七つの考察の仕方うち、「産業を中核とした考察」を取り上げ、中部地方の各地域の産業の立地や動向などについての追究と、それぞれの関連性などを通して、中部地方の地域的特色を理解させたい。

生徒観

本学年生徒の平成 28 年 5 月と 9 月に実施した三和中学校生徒質問紙の回答を分析すると、すべての質問項目で 5 月より 9 月は肯定的回答の割合が増加している。しかし、「授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝わるように工夫しています。」の項目では「よくあてはまる」の割合が低く、根拠を明らかにしてわかりやすく伝えることについて生徒は苦手意識をもっている。その手立てとして、授業では資料を読み取る際の視点を示したり、まとめの際の話型やキーワードを示すなどのを行っている。



<質問項目>

- ①授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」、「やってみよう」と思います。
- ②授業では、課題を解決するための情報を集める前に、どのような方法だと必要な情報を集めることができるのかを考えています。
- ③授業では、情報を、比べたり（比較）、仲間分けしたり（分類）、関係を見付けたり（関係付け）して、何が分かるのかを考えています。
- ④授業では、自分の考えを積極的に伝えていきます。
- ⑤授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝わるように工夫していきます。

指導改善のポイント

【本校の育成しようとする資質・能力】

- 課題発見力 ○課題解決力 ○情報収集力 ○情報活用力 ○表現力・コミュニケーション力
- 主体性・積極性 ○自らへの自信

■単元学習後の具体的な姿に到達するための指導

生徒が課題意識を持ち、既習事項や単元を通して習得したことを活用して説明したり、適切に記述したりできるように、日々の授業において、次の（１）～（４）のことに継続して取り組む。

- （１） 課題設定の場面となる単元の最初の時間に興味を持たせる工夫をすることで、単元を通した課題意識を持たせる。
- （２） グラフや資料の読み取りでは何も書けないということがないように、気づいたことを２つなど比較的考えやすい内容から発問する。
- （３） 説明文が書けない生徒には、教科書や資料集の該当箇所を示し、丸写しするのではなく文末を変化させたり自分の言葉にかえさせたりするなどし、考えて書いた文章であるという意識を持たせる。
- （４） 単元の１時間目に課題設定と関連の深いパフォーマンス課題を提示する。その後の授業での活動が単元末に結びつくという意識を持たせる。

■広島版「学びの変革」アクション・プラン（アクティブ・ラーニング）の取組について

<主体性>

- 授業の最後に振り返りを書かせる。（A・L視点①）
 - ・ 生徒が自分自身の成長を感じたり、自分が学んだことの意味を理解したりすることで学ぶことへの主体性を高める。
- 生活と関連付いた資料を示し、興味をもたせる。（A・L視点②）
 - ・ 日常生活との関係の深い資料を提示し、興味を喚起することで学習への主体性を高める。
- 生徒自らのアイデアを生かす。（A・L視点③）
 - ・ 問題解決の場面で既習事項や既存の知識を用いた説明文を作成させ、表現力の向上を目指す。
- 生徒自らに選択させる。（A・L視点④）
 - ・ 問題解決のために読み取るべき資料を複数提示し、自信のある生徒には比較、関連付けて発表をさせる。複数の資料の読み取りを苦手とする生徒には１つの資料の読み取りで問題解決ができるように支援し、個々に合わせた学習となるよう留意する。
- 学んだことを振り返り、まとめさせる。（A・L視点⑤）
 - ・ 単元で学んだことを活用し、パフォーマンス課題に取り組みさせる。読み手や聞き手への伝わりやすさを意識させることでコミュニケーション力を育成する。

<協働性>

- 意図的にペアやグループで話し合いや学習の確認をさせる。（A・L視点⑥）
 - ・ 他の生徒の考えを聞き、自分の考えを説明させることで、一人では到達できなかった深い思考

に到達させる。またワークシートを交換させて相互確認をさせることで生徒間の協働性を高める。

- 自分の意見を発表する場を設ける。(A・L視点⑦)
 - ・ グループ内や全体で自分の意見を発表したり、他の生徒の意見を聞いたりする場を設定することで、様々な生徒の意見を受け入れる雰囲気を作り、アイデアや発見を得て、さらに考えを広げさせる。

単元目標と評価規準

＜単元目標＞

- ・ 各地方の地誌を学習し、日本の国土に対する認識を深めることができる。
- ・ 考察の仕方を設定し、各地方の特色ある地理的事象や事柄を、有機的に関連付けて追究し、各地方の地域的特色をとらえることができる。
- ・ 地理的な見方・考え方や、地図や景観写真の読み取り方などの地理的技能を身に付けることができる。

＜評価規準＞

ア 社会的事象への関心 ・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断 ・表現	ウ 資料活用の技能	エ 社会的事象への知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の各地に設定した考察の仕方にもとづき、各地方の特色ある地理的事象や事柄を意欲的に追究している。 ・ 日本の各地方の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各地方の地域的特色を、各地方に設定した考察の仕方をもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な資料から、日本の各地方の地域的特色についての情報を適切に読み取っている。 ・ 読み取った情報を、図版や文章などに適切にまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各地方の地域的特色を、各地方に設定した考察の仕方をもとに理解し、その知識を身に付けている。

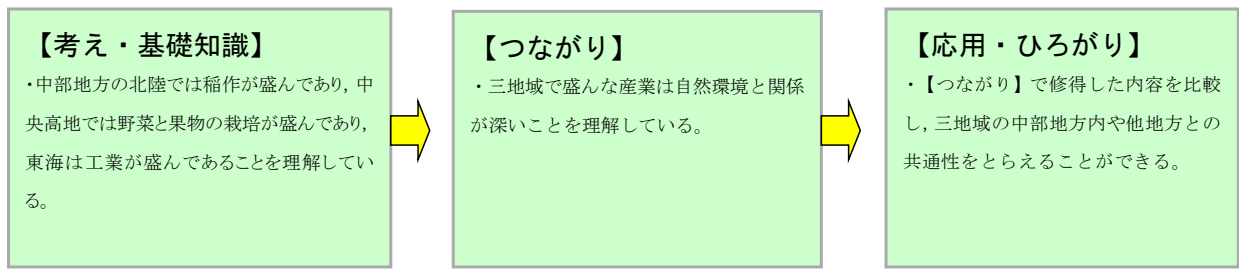
指導と評価の計画

○本単元で身に付けさせたい資質・能力と評価規準

資質・能力	評価規準		
	C	B	A
情報収集力	中部地方の工業製品出荷額を読み取ることができる。	中部地方とその周辺地域には輸送機械とその関連工場が集積しているため、工業製品出荷額が1位であることを資料から読み取ることができる。	評価基準Bの内容に加え、家族や周りの人が使用する乗用車の複数のメーカーとその評価について聞き取りを行っている。
情報活用力	中部地方の工業製品出荷額を他地域の数値と比較することができる。	工業製品出荷額について、国内での中部地方の地位を見出すことができる。	輸送機械の出荷額について、中京工業地帯内と全国との比較から、その特徴を見出すことができる。
表現力	中部地方では工業が盛んであることを文章で説明することができる。	中部地方では輸送機械の製造を中心に工業が盛んであることを説明することができる。	中部地方では関連工場の裾野が広い輸送機械を中心に工業が盛んであることを、既習事項を踏まえて説明す

ることができる。

中部地方のようすのICEモデル



(全8時間)

次	学習内容 (時数)	評 価				評価規準 (評価方法)	資質・能力 (評価方法)
		関	表	技	知		
1	単元の見通しを持たせる	課題の設定					
	中部地方を大観し、パフォーマンス課題について知る。				○	中部地方の地域的特色を大観し、パフォーマンス課題を意識している。(ワークシート)	課題発見力 (ワークシート, 行動観察)
2	三つの地域の成り立ちと人口分布	情報の収集					
	三地域の歴史と人口分布をとらえる。		○			歴史的背景と人口分布の様子を、地形等から理解している。(ワークシート)	情報活用力 (ワークシート)
	中央高地・北陸の産業と自然環境						
	自然環境の視点から、観光業・農業の特徴をとらえる。				○	資料を活用して産業の分布や特徴を適切に読み取っている。(ワークシート)	情報活用力 (ワークシート)
	日本の工業の中心地、東海						
	東海の特徴をとらえる。(本時)				○	東海は自動車工業が中核であることを、資料を活用して適切に表現している。(ワークシート)	情報収集力 (ワークシート)
産業からみた結びつき							
交通網の整備が産業にどのような影響を与えているか確認する。				○	交通網の整備や外国との結びつきが、産業に与えた影響について理解している。(ワークシート)	情報収集力 (ワークシート)	
産業からみた文化と環境保護							
暮らしの特徴を、産業と関連付けてとらえる。			○		自然環境が日常生活に与える影響を多面的・多角的にとらえ、適切に表現している。(ワークシート)	情報収集力 (ワークシート)	
3	パフォーマンス課題に向けて	整理・分析					
	これまでの学習内容をシンキングツールの活用によりまとめる。				○	パフォーマンス課題に向け、必要な情報を整理している。(ワークシート)	情報活用力 (ワークシート)
4	パフォーマンス課題	まとめ、表現					
	パフォーマンス課題に取り組む。 パフォーマンス課題		○			産業をテーマに三地域の違いを理解して課題に取り組むことができる。(ワークシート)	表現力 (ワークシート, 行動観察)

パフォーマンス課題

育てたい資質・能力	情報活用力, 表現力
教科の評価規準	中部地方の地域的特色を, 地理的事象を根拠に説明する。

パフォーマンス課題のシナリオ

あなたはツアーコンダクターです。来年5月、三和中学校の3年生が中部地方で実施する修学旅行の引率をすることになりました。聞くところによると、三和中学校の生徒は中部地方に地味な印象をもっているそうです。そこで、三和中学校の生徒の印象を大転換させるような、中部地方の魅力を三地域ごとに紹介してください。

予備的ルーブリック

尺度 (評点, レベル)	記述語 (パフォーマンスの特徴)
3 理想的	尺度2の内容に加え、三地域の中部地方内と他地方との共通性についてとらえている。
2 合格	三地域で盛んな産業を自然環境と関連付けて紹介している。
1 乗り越えさせたい実態	三地域で盛んな産業を紹介している。

本時の学習

(1) 本時の目標

- 東京と京阪神の間に位置する愛知県周辺で工業が盛んな理由を説明することができる。

(2) 本時の評価規準

- 東海では輸送機械が中心になっていることを、資料を活用し説明することができる。(表現)


(3) 本時に身に付けさせたい資質・能力

- 情報収集力, 情報活用力, 表現力

(4) 準備物

- 教科書, 地図帳, 資料集, ワークシート, パソコン, 電子黒板

(5) 本時の展開

学習活動	指導上の留意事項 (◇) ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て	評価規準 (評価方法)	資質・能力 (評価方法)
1 課題設定。〔5分〕			
<ul style="list-style-type: none"> 四大工業地帯の名称と位置、工業製品出荷額の順位を復習・確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇工業製品出荷額の1位は中京工業地帯であり、機械が占める割合が高いことを確認する。 ◆掛図に四大工業地帯の名称を貼り、位置関係を把握させる。 		
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 中京工業地帯が工業製品出荷額日本一の理由を説明することができる。 </div>			
2 資料を収集し、説明文を作成する。〔20分〕			
<ul style="list-style-type: none"> 輸送機械製造6社のエンブレムから会社名を答える。 グルーピングの理由を考え 	<ul style="list-style-type: none"> ◇エンブレムを黒板に貼り、愛知県周辺に工場のある会社とそれ以外にグルーピングする。 ◇6社の主な組立工場所在地にエンブレム 		

<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章作成に必要な資料を収集する。 資料をもとに文章を作成する。 <p style="text-align: center;">情報の収集</p>	<p>を貼り、中京工業地帯とその周辺への輸送機械の集中をイメージさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇教科書、資料集、地図帳からどの資料が参考になるかを選択させる。 ◇別紙資料を配付する。 ◇クラゲ・チャートを配付し、根拠をまとめさせる。 ◆読み取りが比較的しやすい資料からまとめさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>予想される生徒の説明文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知県は太平洋ベルトに含まれ、人口が多いため工業が盛んである ・愛知県には日本一大きなトヨタ自動車など輸送機械の工場が集中している。だから愛知県では輸送機械を中心に工業が盛んである。 ・愛知県には原料の輸入と製品の輸出に有利な名古屋港があるから工業が盛んである。 </div>	<p style="text-align: center;">← A・Lの視点④</p> <p style="text-align: center;">← A・Lの視点③</p> <p>資料を適切に読み取って文章を作成している。(ワークシート)</p>	<p>情報収集力 情報活用力 表現力 (ワークシート)</p>
<p>3 ペアで教え合う。[15分]</p>			
<ul style="list-style-type: none"> ペアで説明文を交換し、自分の気付かなかった視点をもとに新たな説明文を作成する。 <p style="text-align: center;">整理・分析 まとめ・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇ペアで交換し、相互評価させる。 ◆友だちの文章を読んで、自分にない視点があれば、ワークシートにメモさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>期待する説明文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知県豊田市にはトヨタ自動車、三重県にはホンダ、静岡県にはスズキやヤマハの輸送機械を生産する工場がある。自動車をはじめとした輸送機械には多くの部品が使われ、組立工場の周辺には関連工場も集まる。このことから、自動車会社の工場周辺には関連する工場も集まる。また、原料の輸入と製品の輸送に有利な名古屋港に近い。これらを理由として、東海では工業が盛んになった。 </div>	<p style="text-align: center;">← A・Lの視点⑥・⑦</p>	
<p>4 発表する。[5分]</p>			
<ul style="list-style-type: none"> 活用した資料を明確にして要点をまとめて発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇異なる視点で説明文を作成した生徒を指名する。 		
<p>5 本時を振り返り、次時につなげる。[5分]</p>			
<ul style="list-style-type: none"> 本時をふり振り返り、発表する。 <p style="text-align: center;">新たな課題の設定に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇次時の予告をする。 	<p style="text-align: center;">← A・Lの視点①①</p>	

板書計画

本時の目標

愛知県周辺で工業が盛んな理由を説明することができる。

情報収集力

情報活用力

表現力



トヨタ
愛知県



ホンダ
三重県



スズキ
静岡県



ヤマハ
静岡県

検 証

- 平成 28 年度 2 学期期末テスト問題の結果を分析する。
- 平成 28 年度標準学力調査の結果を分析する。

単元名

連立方程式

本単元で育成する資質・能力

「課題設定・解決力」「情報収集・活用力」「表現力・コミュニケーション力」

日時 平成28年7月11日(月) 6校時(15:00~15:50)
 場所 2年A組教室
 学年・組 第2学年A組(男子9名, 女子9名, 計 18名)

単元について

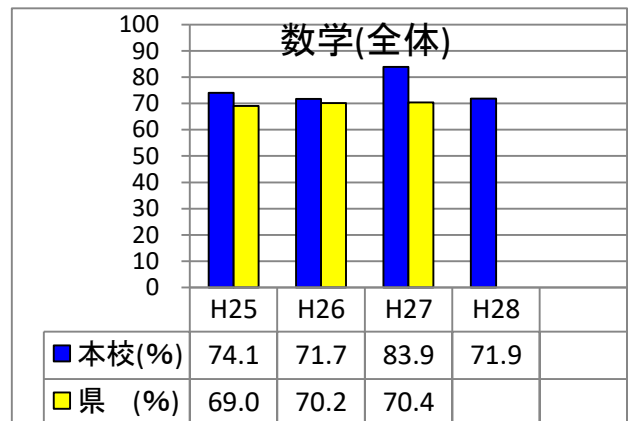
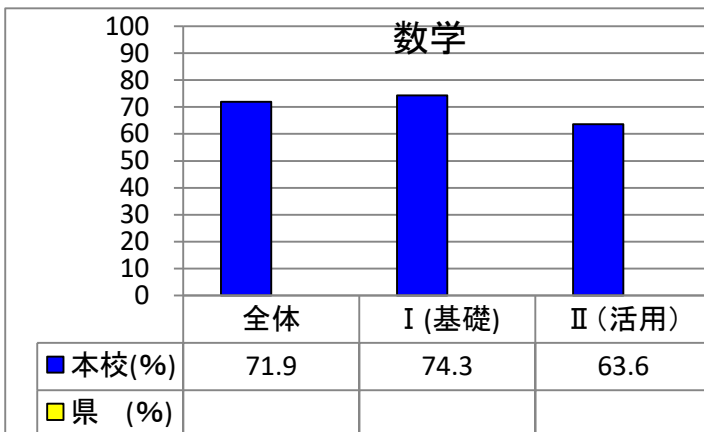
本単元は、学習指導要領 A 数と式(2)連立二元一次方程式について理解し、それを用いて考察することができるようにする。「ウ 簡単な二元一次方程式を解くこと及びそれを具体的な場面で活用すること。」である。

1年時に学習している一元一次方程式では、事象の中の数量の関係を式に表現するとき、一つの変数しか用いることができなかつた。しかし、具体的な場面においては、一つの変数よりは二つの変数を用いたほうが式に表しやすい場合が多い。問題解決の場面で二元一次方程式を活用することにより、方程式の活用場面は一層広くなり、問題解決にも容易になる。

単元構成としては、まず単元の導入では、「身近なものの連立方程式」について、「バスケットボールのシュートの本数」に関する問題から、興味・関心をもたせていく。また、1年時の方程式の復習を取り入れながら、加減法や代入法による解き方を考えていく。さらに、かっこを含んだり、小数、分数を含む二元一次方程式を学習したりして、より高度な解き方を学習していく。

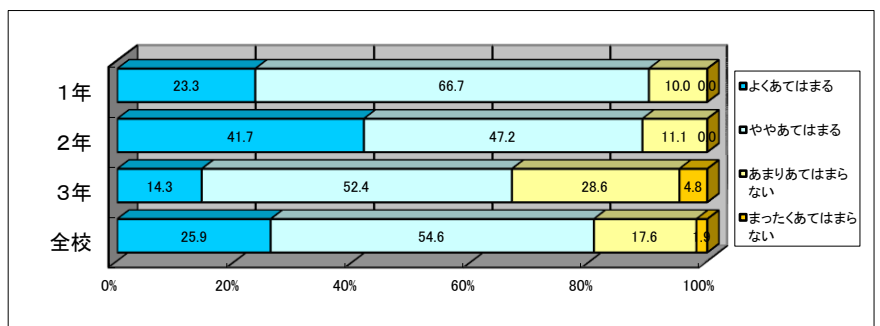
本時では、時間と速さ、道のりの関係から、二元一次方程式を立式することを求めていく。また、道のり、あるいは時間のどちらかを x 、 y で表したら、他方はこの x 、 y を使って数量を表す式として表さないと連立方程式にならないことになる。また、問題で要求されている答えと、連立方程式で求めた解が異なる場合があるので、注意させることが必要である。

生徒観

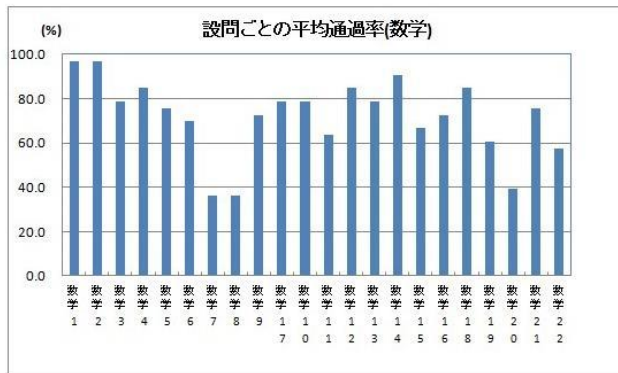


本学年生徒の平成28年度「基礎・基本」定着状況調査において、通過率は71.9%であった。タイプI(基礎)では、74.3%、タイプII(活用)では63.6%であった。昨年度に比べ、全体的に下降しているが、一昨年と同等の通過率である。

本学年生徒の5月アンケートに



区分 領域 大問 小問	タイプⅠ														タイプⅡ							
	数と式						図形				関数		資料の活用		図形		関数		資料の活用			
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(1)	(2)	3	8	4	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)	9	(1)	(2)	(1)	(2)
内容	小数の減法	四則の計算	分数の除法	累乗の計算	式の値	一次方程式	文字式の表し方	文字式の表し方	文字式の読み	関係を文字式で表す	作図の根拠	球の体積	展開図の理解	反比例の式の判別	グラフ上の点	中央値の意味	相対度数の意味	事象の図形的な考察	事象の解釈と問題解決の方法	事象の解釈と表現	情報の適切な選択と判断	情報の適切な選択と判断
通番	数学1	数学2	数学3	数学4	数学5	数学6	数学7	数学8	数学9	数学17	数学10	数学11	数学12	数学13	数学14	数学15	数学16	数学18	数学19	数学20	数学21	数学22
平均通過率	97.0	97.0	78.8	84.8	75.8	69.7	36.4	36.4	72.7	78.8	78.8	63.6	84.8	78.8	90.9	66.7	72.7	84.8	60.6	39.4	75.8	57.6
広島県平均通過率																						



において、「授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫しています」の項目では 88.9%の生徒が肯定的にとらえている。その反面、宿題の提出率に課題があったり、基礎的な計算力を習得が弱かったりする。そのため、日常的に基礎的な事項の習得ができるよう工夫する必要がある。

また、基礎基本定着状況調査において、文字式の表し方における正答率が 36.4%と低く、文字式をどのように表す部分に課題がある生徒がいる。

指導改善のポイント

【本校の育成しようとする資質・能力】

- 課題設定・解決力 ○情報収集・活用力 ○表現力・コミュニケーション力
- 主体性・積極性 ○自らへの自信

■単元学習後の具体的な姿に到達するための指導

生徒が課題意識を持ち、めあてを設定したり、既習事項や教科書から習得したことを用いて説明したり、記述したりできるようにするために、日々の授業において、次の(1)～(4)のことを継続して取り組む。

- (1) 課題設定の場面で、生徒に興味や疑問を持たせる工夫をし、生徒自らの課題意識へとつなげ、「めあて」を持たせる。
- (2) 個人思考の場面では、自分の考えを、言葉や数、式、表、グラフなどをノートに記述させる。
- (3) 集団思考の場面では、
 - ① 発言者には、数学的概念や数学用語を用いて、自分の考えを説明させる。
 - ② 聞く側には、他者の考えを自分の考えと比較し、ノートにキーワードでメモさせる。
- (4) 授業のまとめの場面では、その時間の目標(課題)に対する答えを、生徒の言葉で説明させる。

■小学校及び既習との連続性を生かした指導

単元の導入時に、小学校で学習した事項をプレテストを実施して、情報を取り入れる。そして、この考え方を利用しながら、新たに学習を積み重ねることを生徒に意識させながら、単元計画を作成し、効率的な指導を行う。

■広島版「学びの変革」アクション・プラン(アクティブ・ラーニング)の取組について(4つのプロセス) <主体性>

- 導入において、意外な計算や資料を見せる。(A・L視点①) **課題設定**
 - ・ 生徒が「なぜだろう?」と考えようとする必然性を与えることで探究心に火をつけ、生徒の主体性

を引き出す。例えば、今までは文字 x だけで方程式を解いていたものが、文字 x 、 y の2つになった場合はどのようにして解を求めることができるかを考えさせることで、疑問を持たせたりする。

- 教科書や既習事項を活用し、情報を収集させる。(A・L視点②) **情報収集**
 - ・ 教科書や既習事項から、積極的に情報を収集し、主体的に課題解決を図ろうと探究する態度を養う。
- 身近なことと関連づけて興味をもたせる。(A・L視点③) **整理・分析**
 - ・ 日常生活と結びつけた教材を扱うことで、興味や関心を高め、生徒の学習の主体性を高める。例えば、バスケットボールのシュートの本数と得点を求める方法などと関連付ける。
- 授業の最後に振り返りを書かせる。(A・L視点④) **まとめ・創造・表現**
 - ・ 生徒が自分自身の成長を感じたり、自分が学んだことの意味を理解したりすることで学ぶことへの主体性を高める。

<協働性>

- 意図的にグループで話し合いをさせる。(A・L視点⑤) **まとめ・創造・表現**
 - ・ 他の生徒の話をしっかり聞かせたり、自分の考えを説明させたりすることで、一人では到達できなかった深い思考に到達することができる。生徒と生徒の協働性を高めることができる。
- 学習の振り返りをさせる。(A・L視点⑥) **まとめ・創造・表現**
 - ・ 授業の最後に振り返りを書かせることで、生徒の理解状況を把握したり、教師自らの授業を振り返るきっかけとしたりすることで教師と生徒の協働性を高める。

課題
<p>【指導上の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 具体的な事象の中にある数量関係を見いだす力や、文字を用いて数量の関係を式に表現する力に課題がある。 ○ その原因として、複数の事象を整理して考えること、自分の考えを整理すること、事実や根拠に基づいた理由付けをすることが育っていないこと、適切な用語を使って正確に表現できないことなどが考えられる。

指導改善のポイント
<p>【指導の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 個人思考の場面では、文章から数量および数量関係を、図を使って整理させる。また、根拠に基づいた理由を簡潔にノートに記述させる。 (2) 集団思考の場面では、 <ul style="list-style-type: none"> ① 発言者には、数量および数量関係を、数学用語を用いて、自分の考えを説明させる。 ② 聞く側には、他者の考えを自分の考えと比較し、色を変えてノートにキーワードでメモさせる。 (3) 授業のまとめの場面では、その時間の目標（課題）に対する答えを、生徒の言葉で説明させる。

単元の目標と評価規準

<単元の目標>

- ・ 二元一次方程式とその解の意味、連立方程式とその解の意味を理解する。
- ・ 連立方程式を、加減法や代入法を用いて解くことができる。
- ・ 具体的な問題を、連立方程式を利用して解決するときの考え方や手順を理解する。

<評価規準>

数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形についての知識・理解
様々な事象を連立2元1次方程式でとらえたり、それらの性質や関係を見いだしたりするなど、数学的に考え表現することに関心をもち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしよう	連立2元1次方程式についての基礎的・基本的な知識や技能を活用して、論理的に考察し表現するなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。	簡単な連立2元1次方程式を解いたりするなどの技能を身に付けている。	連立2元1次方程式の必要性和意味およびその解の意味を理解し、知識を身に付けている。

としている。

指導と評価の計画

○本単元で付けたい「資質・能力」と評価規準

資質・能力	評価規準
課題解決力	与えられた課題に見通しをもち、既習事項をもとにして、解決しようとしている。
情報収集	文章から表に整理し、連立方程式を立式し、解くことができる。
表現力・コミュニケーション力	自分の考えを伝えたり、相手に分かりやすく伝えたりするように、発表を工夫している。

【考え・基礎知識】
道のり、速さ、時間の関係を図で整理し、立式を説明することができる。



【つながり】
文章もとに、情報を整理し仲間に伝える活動ができる。



【応用・ひろがり】
道のりを x , y ではなく、時間を x , y で立式したり、異なる条件のもと問題解決に取り組むことができる。

(全15時間)

次	学習内容	評 価				資質・能力	
		関	思	技	知		評価規準
1	決めたシュートの本数は？	○		○		関心・意欲・態度 求めたい数量が2つある問題を解決することに関心をもち、既習の内容を活用して考えようとしている。 見方・考え方 求めたい数量が2つある問題を、既習の内容を活用して考えることができる。	課題設定・解決力 情報収集・活用力
2	2元1次方程式とその解の意味、連立方程式とその解の意味を理解する。	◎		○		関心・意欲・態度 連立方程式とその解に関心をもち、連立方程式の解を求めようとしている。 知識・理解 連立方程式とその解の意味を理解している。	情報収集・活用力
3	連立方程式は、1つの文字を消去して1次方程式にすれば解けることを理解する。			◎	○	技能 文字の係数の絶対値が等しい場合の連立方程式を解くことができる。 知識・理解 連立方程式は、1つの文字を消去して1次方程式にすれば解けることを理解している。	情報収集・活用力
4	加減法を理解し、それを用いて連立方程式を解くことができる。			◎	○	技能 連立方程式を、加減法を用いて解くことができる。 知識・理解 加減法を理解している。	情報収集・活用力
5	代入法を理解し、それを用いて連立方程式を解くことができる。			◎	○	技能 連立方程式を、代入法を用いて解くことができる。 知識・理解 代入法を理解している。	情報収集・活用力
6	かっこをふくむ連立方程式や、係数に小数や分数をふくむ連立方程式を解くこと			◎		技能 係数に小数や分数をふくむ連立方程式を解くことができる。 技能	情報収集・活用力 表現力・コミュニケーション力

	ができる。			○	かっこや係数に小数や分数をふくむ連立方程式の解き方を理解している。	
7	$A=B=C$ の形をした連立方程式を解くことができる。また、係数に文字をふくむ連立方程式について、その文字の値を求めることができる。		○	◎	<u>思考・判断・表現</u> $A=B=C$ の形をした連立方程式で、2つの方程式をつくる方法を考えることができる。 <u>知識・理解</u> $A=B=C$ の形をした連立方程式を解くことができたり、係数に文字をふくむ連立方程式の文字の値を求めることができる。	課題設定・解決力 情報収集・活用力 表現力・コミュニケーション力
8	基本の問題			◎◎		
9	バラとガーベラの本数は？	○		◎	<u>関心・意欲・態度</u> 具体的な事象を連立方程式でとらえることに関心をもち、連立方程式を問題の解決に利用しようとしている。 <u>思考・判断・表現</u> 具体的な問題のなかから数量の間の関係を見だし、連立方程式をつくることができる。	課題設定・解決力 情報収集・活用力 表現力・コミュニケーション力
10	個数と代金に関する問題を、連立方程式を利用して解決することができる。	○		◎	<u>関心・意欲・態度</u> 具体的な事象を連立方程式でとらえることに関心をもち、連立方程式を問題の解決に利用しようとしている。 <u>思考・判断・表現</u> 具体的な問題のなかから数量の間の関係を見だし、連立方程式をつくることができる。	課題設定・解決力 情報収集・活用力 表現力・コミュニケーション力
11	速さ・時間・道のりに関する問題を、連立方程式を利用して解決することができる。本時【11/15】	○		◎	<u>関心・意欲・態度</u> 具体的な事象を連立方程式でとらえることに関心をもち、連立方程式を問題の解決に利用しようとしている。 <u>思考・判断・表現</u> 具体的な問題のなかから数量の間の関係を見だし、連立方程式をつくることができる。	課題設定・解決力 情報収集・活用力 表現力・コミュニケーション力
						パフォーマンス課題
12	割合に関する問題を、連立方程式を利用して解決することができる。	○		◎	<u>関心・意欲・態度</u> 具体的な事象を連立方程式でとらえることに関心をもち、連立方程式を問題の解決に利用しようとしている。 <u>思考・判断・表現</u> 具体的な問題のなかから数量の間の関係を見だし、連立方程式をつくることができる。	課題設定・解決力 情報収集・活用力 表現力・コミュニケーション力
13						
14	基本の問題			◎○		
15	章の問題A		○	○	○	

本時の学習

(1) 本時の目標

道のり、速さ、時間の関係から、連立方程式を立式することができる。



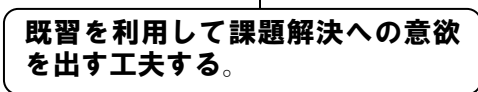
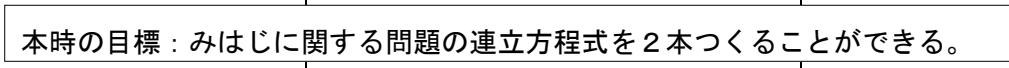


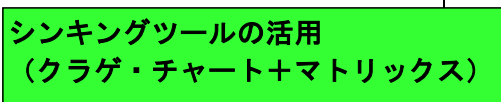

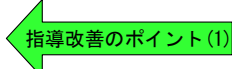
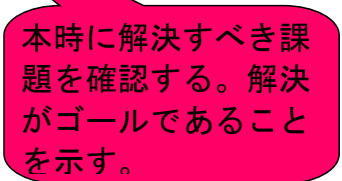

(2) 本時の評価規準

- ・具体的な事象を連立方程式でとらえることに興味をもち、連立方程式を問題の解決に利用しようとしている。
- ・具体的な問題のなかから数量の間の関係を見だし、連立方程式をつくることができる。

(3) 準備物

教師：ホワイトボード、マーカー、本時の問題、クラゲ・マトリックス用紙他
 生徒：教科書、ノート、のり

(4) 本時の展開

学習活動	指導上の留意事項 (◇) ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て	評価規準 (評価方法)	資質・能力 (評価方法)
1 課題意識を持つ。〔5分〕			
○前時の考え方の表を掲示する。 ○文章を読んで、本時の課題をつかむ 	◇既習事項「本数と代金の関係」 ◇身近な内容で問題解決に興味を持たせる。 ◇何を利用して解けばよいかを生徒から出させる。	 	
2 本時の課題を発見する。〔5分〕			
○A家から学校までの道のりと学校からB家までの道のりを求める。 	◇文章から絵を提示して、課題意識やイメージを持たせる。		課題解決力 (発言)
3 情報を収集し、解決の見通しをもつ。〔7分〕			
○文章中からキーワードをチェックさせて、クラゲ・チャートに書かせる。 ・分速50m ・分速80m ・1800m。 ・18分 ○文字 x, y の設定をする。 ○クラゲ・チャートに書き出したことをマトリックスに整理する  	◇既存の知識から、想像させる。 ◆ノートなどを見返すよう指示する。  ◇問題で何を問われているかを確認する。 ◇図を提示し、配布する。 ◇自分で考えて、図に書きこむように指示する。(個人思考) ◆机間指導でキーワードに注目させるようにする。	具体的な事象を連立方程式でとらえることに興味をもち、連立方程式を問題の解決に利用しようとしている。(ノート、ホワイトボード)  	情報収集 (ノート) 
4 情報を整理・分析し、課題解決をする。〔20分〕			
○シンキングツールから立式する。	◇個人思考、→班での協働学習→全体への説明という流れで話し合い活動を行う。 ◇ホワイトボードを配布する。 ◇適切に交流が進んでいるか、理解に困難がある生徒を助けているかを机間指導で確認ならびに全体把握	 具体的な問題のなかから数量の間の関係を見だし、連立方程式をつくることができる。	表現力・コミュニケーション力 (ノート、ホワイトボード)

<p>○各グループで発表する。</p> <p>○時間を x, y でおいたときの場合の連立方程式を考えさせる。</p> <p>○二組の連立方程式を比べて気づいたことを話し合う。</p>	<p>に努め、必要に応じ指導する。 (交流の仕方, 話しぶり, 聴き方, メモ, 時間配分)</p> <p>◆ヒントカードがあるかどうかを選ばせる。</p> <p>◇役割分担と話し合いの内容を書いた板書をする。</p> <p>◇発表は各グループ 1 分程度のものとする。</p> <p>◇ホワイトボードを配布する。</p> <p>◇机間指導をし, 状況を確認する。</p> <p>◇連立方程式を解くことまでは問わないが, 解いても考えてもよい。</p>	<p>(ノート, ホワイトボード)</p>	
<p>5 学習のまとめをする。〔8分〕</p>			
<p>○各班でまとめたことを発表する。</p> <p>まとめ・表現</p> <p>○本時のまとめをする。</p> <div data-bbox="183 1144 978 1335" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本時のゴールとなる具体的な記述例 求める数量とは違う場合でも, 連立方程式をつくることができ, 場合によっては簡単な式になることもある。【キーワード: 数量, 式】</p> </div> <p>○まとめを発表する。</p>	<p>◇他のグループの発表内容から新たな視点, よさや違いを感じ取らせる</p> <p>◇発表は各グループ 1 分程度のものとする。</p> <p>◇2～3名を指名し発表させる</p>	<p>指導改善のポイント(3)</p>	<p>表現力・コミュニケーション力 (ホワイトボード)</p>
<p>6 本時を振り返り, 次時につなげる。〔5分〕</p>			
<p>○どれくらい理解できたかを自己評価する。</p> <p>○時間があれば練習問題をやる。</p>	<p>新たな課題の設定に向けて</p> <div data-bbox="475 1563 948 1715" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「応用・ひろがり」を意識した発問 ・教科 P48 の問 4 の問題。 高速道路と普通の道路はそれぞれ何 km であるかの問い。</p> </div>	<p>情報を整理し, 適切に表現している。 (ノート)</p>	<p>A・L④</p> <p>課題解決力 (ノート)</p>

検 証

検証の方法

- 平成 28 年度標準学力調査の結果を分析する。
- 平成 28 年度夏休み明けテスト問題の結果を分析する。

単元名

かっこいいTシャツのデザインを作ろう ～角の性質を利用して～

本単元で育成する資質・能力

情報収集力, 情報活用力, 課題解決力, 表現力

日時 平成28年10月31日(月) 5校時(13:00~13:50)
場所 2年A組教室
学年・組 第2学年A組(男子9名, 女子9名, 計18名)

単元について

本単元は、学習指導要領 B 図形(1)「観察、操作や実験などの活動を通して、基本的な平面図形の性質を見だし、平行線の性質を基にしてそれらを確認することができるようにする」「ア 平行線や角の性質を理解し、それに基づいて図形の性質を確認説明すること」をねらいとしている。

この2節では、多角形の角の大きさなど平面図形の角に関する性質を、三角形の角の性質や平行線の性質を基に、筋道を立てた推論を行って調べることができるようにする。その際、推論の過程を正確に分かりやすく表現する能力を養うことが大切であり、図形をよく観察したり、作図したりする操作や実験などの活動を通して、その推論の過程を自分の言葉で、他者に伝わるように分かりやすく表現できるようにしたい。

生徒観

本学年生徒の平成28年度「基礎・基本」定着状況調査において、平均通過率は71.9%であった。タイプI(基礎)では、74.3%、タイプII(活用)では63.6%であった。図形の領域では、県平均より7.9ポイント上回り、タイプIIの図形領域では、県平均より3.6ポイント上回っていた。

区分	タイプII				
	図形	関数		資料の活用	
大問	9	10		11	
小問		(1)	(2)	(1)	(2)
内容	事象の図形的な考察	事象の解釈と問題解決の方法	事象の解釈と表現	情報の適切な選択と判断	情報の適切な選択と判断
通番	数学18	数学19	数学20	数学21	数学22
平均通過率	84.8	60.6	39.4	75.8	57.6
広島県平均通過率	81.2	53.6	36.8	60.1	54.7

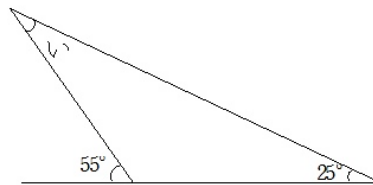
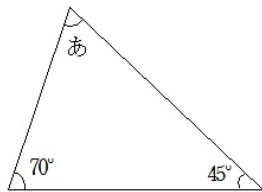
領域	通過率	県平均通過率
I 数と式	72.7	69.6
I 図形	75.8	67.9
I 関数	84.8	77.8
I 資料の活用	69.7	64.0
II 図形・関数・資料の活用	63.6	57.3

図形に関して、小学校では以下の表のように学習してきた。

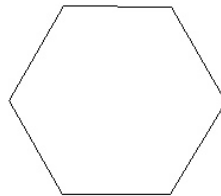
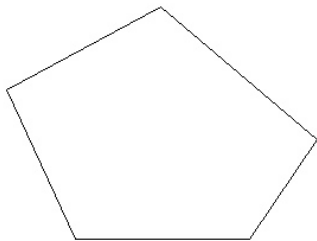
学年	既習事項
小4	直線の垂直，平行の関係 対頂角の性質 平行な直線は，ほかの直線と等しい角度で交わること
小5	図形の合同の意味，要素の対応 合同な三角形や四角形のかき方 三角形の内角の和が180度であること 四角形，五角形，六角形の内角の和の考察
小6	線対称，点対称な図形とその意味
中1	図形の平行移動，回転移動，対称移動 基本の作図とその利用

本単元を学習するにあたり，小学校5学年で学習した「三角形の内角の和が180度であること」「四角形，五角形，六角形の内角の和の考察」について，以下のレディネステストを行った。

1. 下の図の あ，い の角の大きさは，それぞれ何度ですか。



2. 五角形の5つの角の和を求めなさい。 3. 正六角形の1つの角の大きさを求めるために，どのように考えたらよいですか。下の□に書いて説明しなさい。
なお，図を使って考えてもよい。



求め方

		正答 (%)	誤答 (%)	無答 (%)
1	あ	92.3	7.7	0
	い	76.9	23.1	0
2		76.9	23.1	0
3		38.5	61.5	0

上の表の結果から，角度を求めることについては正答率が高く，なおかつ無回答がない。

しかし，設問3「求め方の説明を書く」では，正六角形の和を求めるだけの解答だったり，内角の和の数を間違えていたりなどの誤答が見られた。

以上のことから，説明を書くということに課題が見られる。

指導改善のポイント

【本校の育成しようとする資質・能力】

- 課題設定力 ○課題解決力 ○情報収集力 ○情報活用力 ○表現力・コミュニケーション力
- 主体性・積極性
- 自らへの自信

■単元学習後の具体的な姿に到達するための指導

生徒が課題意識を持ち、主体的に学習するために、既習事項や教科書から習得したことを用いて説明したり、記述したりできるようにするために、日々の授業において、次の(1)～(5)のことを継続して取り組む。

- (1) 課題設定の場面で、生徒に興味や疑問を持たせる工夫をし、生徒自らの課題意識へとつなげ、本時の目標を持たせる。
- (2) 個人思考の場面では、自分の考えを、言葉や数、式、表、グラフなどでノートに記述させる。
- (3) 集団思考の場面では、
 - ①グループ内で司会や発言者などの役割分担を行う。
 - ②自分の考えを相手に伝えたり、相手の考えを聞いたりして、様々な考え方の意見交流ができる環境にする。
 - ③全体に向けた発言者には、数学的概念や数学用語を用いて、筋道を立てながら説明する。
- (4) 授業のまとめの場面では、その時間の目標(課題)に対する答えを、生徒の言葉で説明する。
- (5) 自ら進んで練習問題に取り組み、生徒間で教えあいができる環境にする。

■小学校及び既習事項との連続性を生かした指導

単元の導入時に、小学校5年生で学習した「三角形の内角の和が180度であること」や、「四角形、五角形、六角形の内角の和の考察」などを学習し、連続性を生かした指導を効果的に行っている。

■広島版「学びの変革」アクション・プラン(アクティブ・ラーニング)の取組について

<主体性>

- 授業の最後にふり返りを書かせる。(A・L視点①)
 - ・ 生徒が本時でなるほどと思ったことを書かせることで、学ぶことへの主体性を高める。
- 自分たちが取り組む問題を選択してから解く。(A・L視点④)
 - ・ 教科書や既習事項を利用して、自分たちが解こうとする問題を選択することで生徒の主体性を高める。
- ICTを活用した授業を行う。(A・L視点⑤)
 - ・ デジタル教科書を利用して、生徒に図の動きや変化を見せる。
- 導入において、意外な計算や資料を見せる。(A・L視点⑥)
 - ・ 「なぜだろう?」「解いてみたい」と思わせることで、好奇心に火をつけることで、生徒の主体性を引き出す。例えば、多角形の内角の和を求めるとき、補助線を利用することで、いくつかの三角形に分けて考えると、内角の和を求めることができることを気付かせる。
- 身近なことと関連づけて興味をもたせる。(A・L視点⑦)
 - ・ 日常生活と結びつけた事象を扱うことで、興味や関心を高め、生徒の学習の主体性を高める。例えば、道路の交差点が何度で交わっているかを図形の角度の視点と関連付ける。
- 生徒自らの考え方を生かす。(A・L視点⑧)
 - ・ 角度の問題は補助線の引き方によって、様々な解き方できるので、生徒の方から補助線の引き方のアイデアを出すことで、自己効力感が増し、学習の主体性を高める。

<協働性>

- 小テストまたは復習問題で確認する。(A・L視点②)
 - ・ 授業の導入で小テストまたは復習問題を行い、生徒のつまづきを把握したり、本時の内容を意識したりして、その後の授業の展開を円滑に進めることで、教師と生徒の協働性を高める。
- 意図的にグループで話し合いをさせる。(A・L視点③)
 - ・ 他の生徒の話をしっかり聞かせたり、自分の考えを説明させたりすることで、一人では到達できなかった深い思考に到達することができ、生徒と生徒の協働性を高める。

単元の目標と評価規準

＜単元の目標＞

- ・多角形の内角，外角の求め方を，論理的に筋道を立てて説明することができる。
- ・三角形の内角，外角の性質，対頂角，平行線の錯角，同位角を利用して角度を求めることができる。
- ・合同な図形の性質から，三角形の合同条件を利用した証明問題を解くことができる。

＜評価規準＞

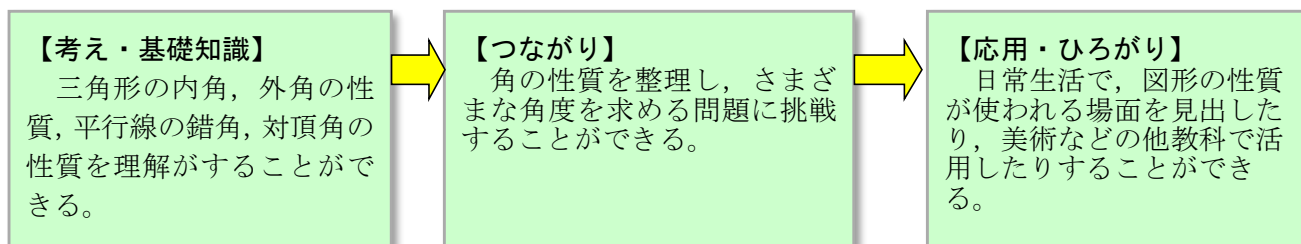
ア 数学への関心・意欲・態度	イ 数学的な見方や考え方	ウ 数学的な技能	エ 数量や図形についての知識・理解
・様々な事象を平行線の性質，三角形の角についての性質，三角形の合同条件などでとらえたりするなど，数学的に考え表現することに関心をもち，意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとしている。	・平行線の性質，三角形の角についての性質，三角形の合同条件などについての基礎的・基本的な知識や技能を活用して，論理的に考察し表現するなど，数学的な見方や考え方を身に付けている。	・平行線の性質，三角形の角についての性質，三角形の合同条件などを，数学の用語や記号を用いて簡潔に表現するなどの技能を身に付けている。	・平行線の性質，三角形の角についての性質，三角形の合同条件，証明の方法を理解し，知識を身に付けている。

指導と評価の計画

○本単元で身に付けたい資質・能力と評価規準

資質・能力	評価規準		
	C	B	A
情報収集力	平行線の性質，三角形の性質，内角と外角の関係を見つけることができる。	平行線の性質，三角形の性質，内角と外角の関係を利用して，共通点や法則性を見つめることができる。	平行線の性質，三角形の性質，内角と外角の関係を利用して，共通点や法則性を見つけ，適切にまとめることができる。
情報活用力	平行線の性質，三角形の性質，内角と外角の関係を利用して問題を解くことができる。	平行線の性質，三角形の性質，内角と外角の関係を利用して，共通点や法則性を活かして問題を解くことができる。	平行線の性質，三角形の性質，内角と外角の関係を利用して，共通点や法則性を見つけ，それについて証明することができる。
課題解決力	角度を求める問題に見通しをもち，既習事項をもとにして，解決しようとしている。	角度や証明問題に見通しをもち，既習事項をもとにして，筋道を立てて解決することができる。	日常生活で角度や証明問題筋道を立てて解決し，発展問題で活用することができる。
表現力	自分の考えを文章にすることができ，相手に説明することができる。	数学的概念や数学の用語を用いて，自分の考えを文章にすることができ，相手に説明することができる。	数学的概念や数学の用語を用いて，自分の考えを文章にすることに加え，図や表などを活用して，相手に分かりやすく説明することができる。

第4章「平行と合同」のICEモデル



(全8時間)

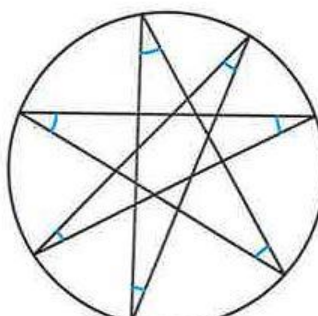
次	学習内容 (時数)	評 価				評価規準 (評価方法)	資質・能力 (評価方法)
		関	思	技	知		
1	単元の見通しをもつ	課題の設定					
	パフォーマンス課題を知る。	◎				<ul style="list-style-type: none"> ・角度を求める上で，どのような力が必要であるかを考えることができる。(行動観察) ○・多角形の角度に関心をもち，いろいろな方法で求め，それをどのように説明すればよいか考えようとしている。(行動観察) ○・多角形の内角，外角の意味を理解している。(行動観察) 	課題発見力 (行動観察)
2	平行線と角	情報の収集					
	対頂角の意味を理解し，対頂角は等しいことを，論理的に筋道を立てて説明することができる。	○			◎	<ul style="list-style-type: none"> ・説明のもとになることに関心をもち，三角形の内角の和を，より単純な性質から導くことを考えようとしている。(ノート) ・対頂角が等しいことを，論理的に筋道を立てて説明することができる。(ノート) 	情報収集力 (行動観察) 表現力 (ノート，発言)
	同位角，錯角の意味を理解することができる。				○	<ul style="list-style-type: none"> ・対頂角の意味と性質を理解し，同位角，錯角の意味を理解している。(ノート) 	
	平行線と同位角の関係を基本性質として確認し，平行線と錯角の関係を，論理的に筋道を立てて説明することができる。		◎			○	<ul style="list-style-type: none"> ・平行線と錯角の関係を，論理的に筋道を立てて説明することができる。(ノート) ・平行線の性質を利用して，角の大きさを求めることができる。また，平行線になるための条件を利用して，2直線が平行かどうかを判断することができる。(ノート) ○・平行線の性質，平行線になるための条件を理解している。(発言)
3	三角形の内角，外角の性質，多角形の内角の和，外角の和の性質を使って，角の大きさを求めることができる。			◎		<ul style="list-style-type: none"> ・三角形の内角，外角の性質，多角形の内角の和，外角の和の性質を使って，角の大きさを求めることができる。(ノート) ○・三角形の内角，外角の性質や多角形の内角の和，外角の和の性質を理解している。(発言) 	情報収集力 (行動観察) 情報活用力 (行動観察)
	三角形の内角の和が 180° であることを，		◎			<ul style="list-style-type: none"> ・三角形の内角の和が180°であることを，論理的に筋道を立てて説明することができる。(ノート) 	課題解決力 (行動観察) 情報収集力 (行動観察)

	論理的に筋道を立てて説明することができる。			○	・説明の意味を理解している。(ノート)	観察) 表現力(ノート, 発言)
4	角の性質を説明することができる	整理・分析				
	角の大きさの求め方を、既習したことを元に、補助線や根拠となる図形の性質を明らかにして説明することができる。 本時 7/8		◎		・角の大きさの求め方を、補助線や根拠となる図形の性質を明らかにして説明することができる。(ノート, ホワイトボード)	情報収集力(行動観察) 情報活用力(行動観察)
				○	・具体的な問題の中からくさび形四角形の関係を見だし、条件にあう角度を求めることができる。(ホワイトボード)	表現力(ノート, 発言)
5	パフォーマンス課題	まとめ・表現				
	かっこよいTシャツのデザインにするにはどうしたらよいかを考え、作成する。		◎		・角の性質や前時の内容を利用して、星形三角形の和を求めることができる。(ノート, ホワイトボード)	情報活用力(行動観察) 表現力(ノート, 発言)
	パフォーマンス課題			○	・星形三角形の和をもとにして、それぞれが同じ大きさであるときの1つの角の大きさを求めることができる。(ノート, ホワイトボード)	
				◎	・正しく作図することができる。(ノート, ホワイトボード)	

パフォーマンス課題

育てたい資質・能力	情報収集力, 情報活用力, 表現力
教科の評価規準	とがった部分の和を求め、さらにそれぞれが同じ大きさであったときの1つの角の大きさを求めることができる。

パフォーマンス課題のシナリオ

<p>(目的, 役割, 相手, 状況)</p> <p>三和中学校2年生のAちゃんとBくんが話をしています。</p> <p>B: この前は、一緒に説明する文を考えてくれてありがとう。それで、今日はどうしたの。</p> <p>A: この右の絵を見てよ。今度のミニ運動会で、このワンポイントがついたシャツを作って、クラスみんなで着ることができたらいいなと思って。</p> <p>B: いい図だねえ。前回一緒に考えた図を応用しているね。</p> <p>A: そうなんだ。学んだことを活かそうと思ってさ。</p> <p>B: でも、とがった部分がばらばらだね。</p> <p>A: うん。何か上手くいかなくてさ。</p> <p>B: とがった部分がほぼ同じ大きさになればかっこよくなるかな。</p> <p>A: どうやったら、ほぼ同じ大きさになるんだろう。</p> <p>B: そうだね。かっこいい図にしたいね。</p> <p>あなたはA君やB君の一員になって、かっこいい図をデザインしよう。</p>	
---	---

予備的ルーブリック

尺度 (評点, レベル)	記述語 (パフォーマンスの特徴)
3 理想的	2のことができ、さらにとがった部分が増えたときの場合も考え、その求め方を相手に説明しながら作図することができる。
2 合格	とがった部分の和を求め、とがった部分の1つの角度がおよそ何度のかを筋道立てて説明しながら作図することができる。
1 乗り越えさせた い実態	とがった部分の和を求め、とがった部分の1つの角度がおよそ何度なのかを説明を聞いて理解し、作図することができる。

本時の学習

(1) 本時の目標

- ・身近なものを題材にして、くさび形四角形の角度の求め方を見つけ、そのことを説明することができる。

(2) 本時の評価規準

- ・角の大きさの求め方を、補助線や根拠となる図形の性質を明らかにして説明することができる。
- ・具体的な問題の中からくさび形四角形の関係を見だし、条件にあう角度を求めることができる。

(3) 本時に身に付けさせたい資質・能力

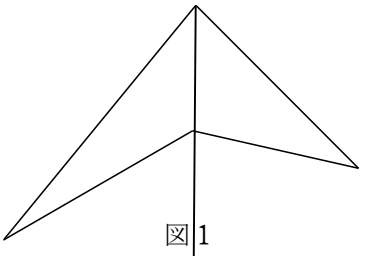
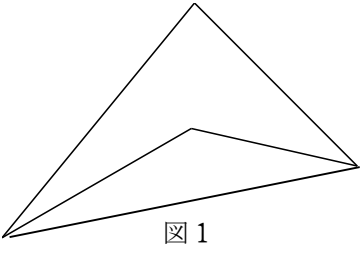
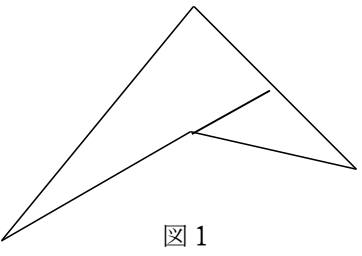
- ・情報収集力 ・課題解決力 ・表現力


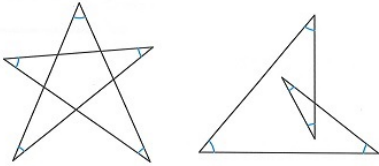


(4) 準備物

教師：ホワイトボード、マーカー、ホワイトボード用イレーザー、復習問題のフラッシュカード、
本時の学習プリント、適応問題用紙、ブーメランの模型
生徒：教科書、ノート、のり、定規

(5) 本時の展開

学習活動	指導上の留意事項 (◇) ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て	評価規準 (評価方法)	資質・能力 (評価方法)
1 課題意識を持つ。 [6分]			
○3分間テストをする。	◇既習事項「三角形の角度の関係」	← A・L視点②	
○既習事項の復習をし、簡単に3分間テストの解説をする。	◇既習事項「対頂角の性質」「平行線の性質」「三角形の内角、外角の性質」		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 既習事項を利用して課題解決への意欲を出す工夫をする。 </div>			

2 本時の課題を発見する。〔4分〕			
<p>○文章を読んで、本時の課題をつかむ</p> <p>課題の設定</p>	<p>◇身近な内容で問題解決に興味を持たせる。</p> <p>◇何を利用して解けばよいかを生徒から出させる。</p> <p>◇文章から絵を提示して、課題意識やイメージを持たせる。</p>		
<p>本時の目標：ブーメラン形の角の性質について、説明することができる。</p>			
3 情報を収集し、解決の見通しをもつ。〔7分〕			
<p>○図に補助線を引くなどして考える。</p> <p>情報の収集</p>	<p>◇既存の知識から、どのように補助線をひいたのか、なぜそこに補助線をひいたのかを考えさせる。</p> <p>◇角度を記入した図を提示し、配布する。</p> <p>◇自分で考えて、図に書きこむように指示する。(個人思考)</p> <p>◆机間指導でキーワードに注目させるようにする。</p>	<p>A・L視点③</p>	<p>情報収集力(ノート)</p>
4 情報を整理・分析し、課題解決をする。〔20分〕			
<p>○班ごとにどのように考えたかを意見交流し、様々な考え方があることを知る。</p> <p>整理・分析</p> <p>○各グループで発表する。</p> <p>○期待される生徒の説明例</p>	<p>◇個人思考，→班での協働学習→全体への説明という流れで話し合い活動を行う。</p> <p>◇ホワイトボードを配布する。</p> <p>◇適切に交流が進んでいるか，理解に困難がある生徒を助けているかを机間指導で確認ならびに全体把握に努め，必要に応じ指導する。(交流の仕方，話しぶり，聴き方，メモ，時間配分)</p> <p>◆ヒントカードがあるかどうかを選ばせる。</p> <p>◇役割分担と話し合いの内容を書いた板書をする。</p> <p>◇発表は各グループ1分程度のもとする。</p>	<p>A・L視点③</p> <p>補助線や根拠となる図形の性質を明らかにして説明することができる。(ノート，ホワイトボード)</p>	<p>表現力(ノート，ホワイトボード)</p>
 <p>図1</p> <p>「三角形の一つの外角は、それととなり合わない2つの内角の和に等しい」という性質から。</p>	 <p>図1</p> <p>「三角形の内角の和は180°であるから」という性質から。</p>	 <p>図1</p> <p>「三角形の一つの外角は、それととなりあわない2つの内角の和に等しい」という性質から。</p>	

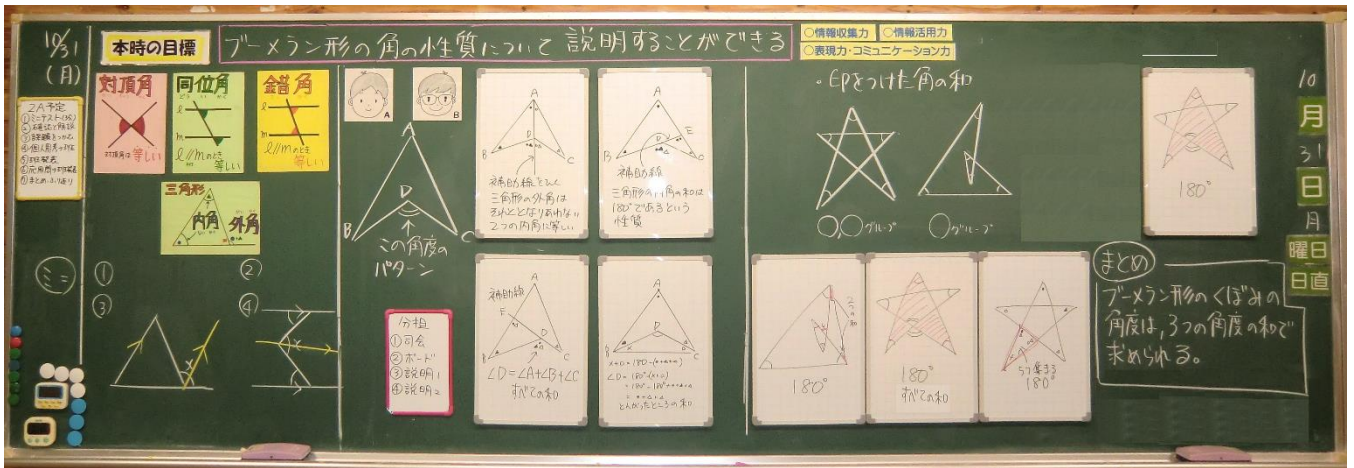
○適応問題を考えさせる。	◇ホワイトボードを配布する。 ◇班でどの問題を解くか，選択させる。		情報活用力(ホワイトボード)
<p>印のついた角の和を求めなさい。</p> 			
○どのように考えたかを発表する。	◇机間指導をし，状況を確認する。		
5 学習のまとめをする。〔8分〕			
○各班でまとめたことを発表する。	◇他のグループの発表内容から新たな視点，よさや違いを感じ取らせる		表現力(ホワイトボード)
	◇発表は各グループ1分程度のものとする。		
○本時のまとめをする。			
<p>本時のゴールとなる具体的な記述例 ブーメラン形のくぼみの角度は，3つの角度の和で求められる。</p>			
○まとめを発表する。	◇2～3名を指名し発表させる		
6 本時を振り返る。〔5分〕			
○どれくらい理解できたかを自己評価する。	<p>ふりかえりの記述例 ブーメラン型の求め方を使えば簡単に角度を求められることが分かった。</p>		
○時間があれば練習問題をする。	<p>「応用・ひろがり」を意識した発問 ・教科 P121 の一番下の問題。 円周上の点の数を増やしたり，点の結び方を変えたりして，いろいろな図をかき，角の和を求める問い。</p>		

検 証

検証の方法

- 平成 28 年度標準学力調査の結果を分析する。
- 平成 28 年度 2 学期期末テスト問題の結果を分析する。

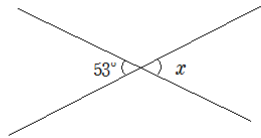
板書計画



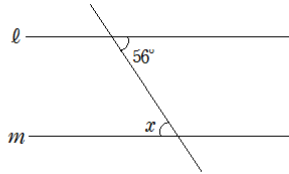
配付プリント

・ミニテストの問題

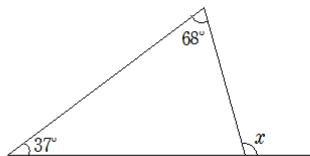
1. $\angle x$ の大きさを求めなさい。



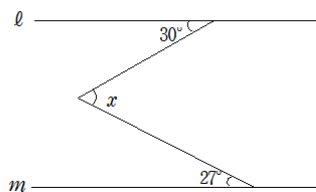
2. $l \parallel m$ のとき、 $\angle x$ の大きさを求めなさい。



3. $\angle x$ の大きさを求めなさい。



4. $l \parallel m$ のとき、 $\angle x$ の大きさを求めなさい。



• 本時の学習プリント

三和中学校2年生のAさんとBさんが話をしています。

A： ぼくは技術で学んだ等角図，キャビネット図を活かして，木製ブーメランの設計図を作ったんだ。

B： どんな図なの？ちょっと見せてよ。

A： 右の図1だよ。カッコいいだろ。

B： いい図だねえ。ん！これって，数学の問題に出そうじゃない。

A： ちなみに，どんな問題なの？

B： ちょっと待ってね。えーと，右の図2を見てよ。

「色のついた部分の角度は何度ですか」という問題を聞かれそうじゃない。

A： あー，確かに数学になるね。

でも，実際に作ると，角度が変わるかもしれないよ。

B： そうだね。おそらくだけど，角度が変わっても，3つのとがった角と色のついた角度には，あるきまりがあるような気がするよ。このことを，クラスみんなに筋道を立てて説明する文できたらいいと思うから，一緒に考えない？

A： いいねえ。みんなをびっくりさせようか。

まずは角の性質を思い出してみようよ。

B： あと。図に〇〇〇を引いてみようよ。

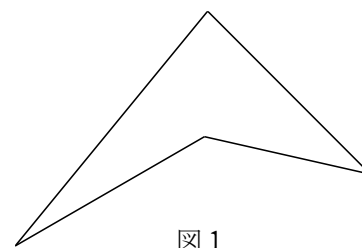


図1

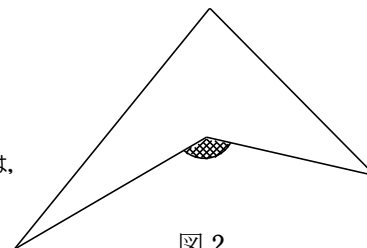


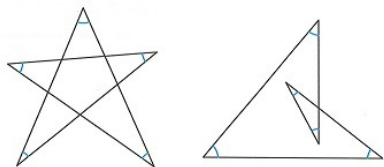
図2

あなたはA君やB君の一員となって，この図に隠されたあるきまりを見つけなさい。

そして，説明する文章をつくりなさい。

• 適応問題

印のついた角の和を求めなさい。



化学変化と原子・分子（酸素がかかわる化学変化）

本単元で育成する資質・能力

「情報収集力」「情報活用力」「表現力」

日 時 平成28年6月30日（木） 5校時（14:00～14:50）
 場 所 理科室
 学年・組 第2学年B組（男子 9名、女子 8名、計 17名）

単元について

本単元は、学習指導要領第1分野の内容「(4) 化学変化と原子・分子」を受けて設定したものであり、第3章「酸素がかかわる化学変化」は、「(イ) 酸化と還元」を受けて設定したものである。

小学校第6学年では、植物体が燃えるときには、空気中の酸素が使われて二酸化炭素ができることを学習している。

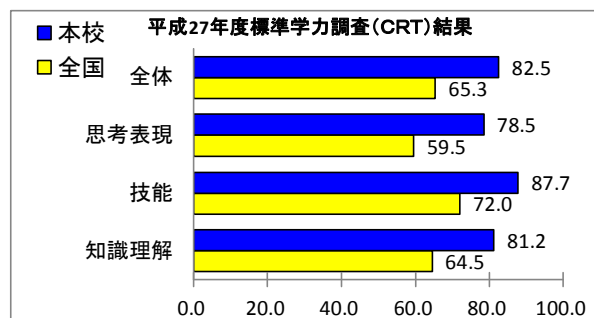
ここでは、化学変化についての観察、実験を通して、化合、分解などにおける物質の変化やその量的な関係について理解させるとともに、これらの事物・現象を原子や分子のモデルと関連づけてみる見方や考え方を養うことがねらいである。そして、ここでの学習が、第3学年での「化学変化とイオン」の単元へと発展していくものである。

生徒観

本学年の生徒は、昨年度末の標準学力調査（CRT）において、全体では、平均正答率が82.5%（全国65.3%）であり、全国平均を17.2pt上回っていた。正解率60%以上の生徒の割合は88.6%、正解率30%未満の生徒の割合は0%であった。

観点別では、「科学的な思考・表現」が、78.5%（全国59.5%）、「観察・実験の技能」が、87.7%（全国72.0%）、「自然事象についての知識・理解」が、81.2%（全国64.5%）であり、満足できる結果であった。

本学級生徒は、これまでノートづくりを通して、問題解決のプロセスに沿って学習することができるようになったが、現象と既習事項を組み合わせることで予想や仮説を立てることが難しかったり、何を検証するための観察・実験であるかといった目的を意識せずに予想や仮説を立ててしまったりすることがある。また、観察・実験の結果から分かることとその結果からだけでは分からないことを混同して、結果をまとめてしまうつまづきもみられる。



指導改善のポイント

【本校の育成しようとする資質・能力】

- 課題設定・解決力 ○情報収集・活用力 ○表現力・コミュニケーション力
 ○主体性・積極性 ○自らへの自信

■単元学習後の具体的な姿に到達するための指導

生徒が既習事項、科学的概念や理科の用語を用いて説明したり、記述したりできるようにするために、日々の授業において、次の(1)～(3)のことを継続して取り組む。

- (1) 個人思考の場面では、自分の考えを科学的概念や事実や根拠に基づいた理由とともにワークシートに記述させる。
- (2) 集団思考の場面では、

① 発言者には、科学的概念や理科の用語を用いて、自分の考えを説明させる。

② 聞く側には、他者の考えを自分の考えと比較し、種類ごとに分けてワークシートにキーワードでメモさせる。

(3) 授業のまとめの場面では、その時間のねらい(課題)に対する答えを、生徒の言葉で説明させる。

■小学校及び既習との連続性を生かした指導

単元の導入時において、小学校で学習した問題を活用したプレテストを実施して既習事項の定着状況を把握する。また、聞き取りによって、小学校での実験内容、方法を把握し、重複を避けたり補完を行ったりするように単元計画を作成し、効果的な指導を行う。

■広島版「学びの変革」アクション・プラン(アクティブ・ラーニング)の取組について

<主体性>

○ 授業の最後に振り返りを書かせる。(A・L視点①)

・ 生徒が自分自身の成長を感じたり、自分が学んだことの意味を理解したりすることで学ぶことへの主体性を高める。

○ 導入において、意外な現象や事象を見せる。(A・L視点②)

・ 生徒が「なぜだろう?」と考えようとする必然性を与えることで探究心に火をつけ、生徒の主体性を引き出す。例えば、生徒は、二酸化炭素中では物は燃えないという固定観念をもっているが、二酸化炭素中でマグネシウムが激しく燃える様子を見せ、課題を与えたりする。

○ 身近な素材で興味をもたせる。(A・L視点③)

・ 興味や関心があるなどの心理的に身近な素材を教材化することで、生徒の学習の主体性を高める。例えば、食パンを見せ、断面に穴が多数あることと炭酸水素ナトリウムの加熱分解と関連付ける。

○ 生徒自らのアイデアを生かす。(A・L視点④)

・ ちょっとした生徒の考えを授業で取り上げていくことにより、生徒の自己効力感を増し、学びへの主体性を高める。

○ 生徒自らに選択させる。(A・L視点⑤)

・ 自分で選んだことには責任をもちやすく、選んだことをすることは動機付けされやすい。「この実験をしましょう。」と「Aの実験、Bの実験のどちらかを選んで実験しましょう。」とでは生徒の主体性が変わる。単元によっては、生徒自身に実験方法を考えさせ、実験させる。

○ 学んだことを振り返り、他者に伝えさせる。(A・L視点⑥)

・ 学んだことをまとめてプレゼンテーションなどに作品化することで、学びの振り返りとなり学びの主体性を高めることにつながる。また、この取組は協働性という観点からも重要である。

<協働性>

○ 意図的にグループで話し合いをさせる。(A・L視点⑦)

・ 他の生徒の話をしっかり聞かせたり、自分の考えを説明させたりすることで、一人では到達できなかった深い思考に到達することができ、生徒と生徒の協働性を高めることができる。

○ 学習の振り返りをさせる。(A・L視点⑧)

・ 授業の最後に振り返りを書かせることで、生徒の理解状況を把握したり、自らの授業を振り返るきっかけとしたりすることで教師と生徒の協働性を高める。

○ 小テストで確認する。(A・L視点⑨)

・ 毎時間のはじめに小テストを行い、生徒のつまづきを把握し、その後の授業の展開を変えていくことで教師と生徒の協働性を高める。

課題

【指導上の課題】

授業での発問や試験での記述問題に対して、観察・実験の結果をもとに考察したり、科学的概念や理科の用語を用いて正確に記述したり説明したりすることに課題のある生徒がいる。

その原因として、筋道立てて考えること、自分の考えを整理すること、事実や根拠に基づいた理由付けをする力が育っていないこと、適切な用語を使って正確に表現できないことが考えられる。

指導改善のポイント

【指導の工夫】

(1) 個人思考の場面では、科学的概念や用語を用いて、事実や根拠に基づく自分の考えをワークシートに記述させることを、トップイメージを示したりしながら、繰り返し指導する。

(2) 集団思考の場面では、

・ 発言者には、科学的概念や理科の用語を用いて、自分の考えを説明させる。

・ 聞く側には、自分の考えと比較して他者の考えを分類し、ワークシートにキーワードでメモさせる。

(3) 授業のまとめの場面では、その時間のねらい(課題)に対するまとめを、適切な用語を使って正確に表現させる。

単元の目標と評価規準

＜単元の目標＞

化学変化についての観察，実験を通して，化合，分解などにおける物質の変化やその量的な関係について理解させるとともに，これらの事象を原子，分子のモデルと関連付けてみる見方や考え方を養う。

＜評価規準＞

ア 自然事象への関心・意欲・態度	イ 科学的な思考・表現	ウ 観察・実験の技能	エ 自然事象についての知識・理解
<p>① 物質の分解，原子・分子に関する事物・現象に進んで関わり，それらを科学的に探究しようとするとともに，事象を日常生活との関わりでみようとする。</p>	<p>① 物質の分解，原子・分子に関する事物・現象の中に問題を見だし，目的意識を持って観察，実験などを行い，分解して生成した物質から元の物質の成分が推定できること，物質は原子や分子からできていることなどについて自らの考えを導いたりまとめたりして，表現している。</p>	<p>① 物質の分解，原子・分子に関する事物・現象について観察，実験の基本操作を習得するとともに，観察，実験の計画的な実施，結果の記録や整理などの仕方を身に付けている。</p>	<p>① 分解して生成した物質から元の物質の成分が推定できること，物質は原子や分子からできていること，原子は記号で表されることなどについて基本的な概念を理解し，知識を身に付けている。</p>
<p>② 化合，酸化と還元，化学反応と熱に関する事物・現象に進んで関わり，それらを科学的に探究しようとするとともに，事象を日常生活との関わりでみようとする。</p>	<p>② 化合，酸化と還元，化学変化と熱に関する事物・現象の中に問題を見だし，目的意識をもって観察，実験などを行い，原子や分子のモデルと関連付けた化合による異なる物質の生成，原子や分子のモデルと関連付けた酸化・還元と酸素との関係，化学変化に伴う熱の出入りなどについて自らの考えを導いたりまとめたりして，表現している。</p>	<p>② 化合，酸化と還元，化学変化と熱に関する観察，実験の基本操作を習得するとともに，観察，実験の計画的な実施，結果の記録や整理などの仕方を身に付けている。</p>	<p>② 化合によって反応前とは異なる物質が生成すること，化学変化は原子や分子のモデルで説明できること，化合物の組成は化学式で，化学変化は化学反応式で表されること，酸化と還元は酸素の関係する反応であること，化学変化には熱の出入りが伴うことなどについて基本的な概念を理解し，知識を身に付けている。</p>
<p>③ 化学変化と質量の保存，質量変化の規則性に関する事物・現象に進んで関わり，それらを科学的に探究しようとするとともに，事象を日常生活との関わりでみようとする。</p>	<p>③ 化学変化と質量の保存，質量変化の規則性に関する事物・現象の中に問題を見だし，目的意識をもって観察，実験などを行い，原子や分子のモデルと関連付けて，反応物の質量の総和が等しいこと，反応する物質の質量の間には一定の関係があることなどについて自らの考えを導き，まとめたりして，表現している。</p>	<p>③ 化学変化における物質の質量の測定など観察，実験の基本操作を習得するとともに，観察，実験の計画的な実施，結果の記録や整理などの仕方を身に付けている。</p>	<p>③ 反応の前後で物質の質量の総和が等しいこと，反応する物質の質量の間には一定の関係があることなどについて基本的な概念や原理・法則を理解し，知識を身に付けている。</p>

指導と評価の計画

(全34時間)

章	学習内容 (時数)	評 価					評価規準	資質・能力
		関	思	技	知			
1	物質の成り立ち (8)							
2	物質どうしの化学変化 (8)							
第3章「酸素がかかわる化学変化」のICEモデル								
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; background-color: #e0ffe0;"> 【考え・基礎知識】 酸化や還元反応について、原子・分子モデルや化学反応式を用いて説明できる。 </div> <div style="font-size: 2em; color: yellow; margin: 0 10px;">➡</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; background-color: #e0ffe0;"> 【つながり】 酸化や還元が酸素の関係する反応であることを見だし、これらの事象を日常生活と関連付けて説明できる。 </div> <div style="font-size: 2em; color: yellow; margin: 0 10px;">➡</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; background-color: #e0ffe0;"> 【応用・ひろがり】 日常生活の中で酸化のしやすさ、しにくさを見だし、金属の反応や製法の違いを予測できる。 </div> </div>								
3	酸素がかかわる化学変化 (6)			○		スチールウールを燃やしたときの質量変化やスチールウールが燃えたときに酸素が使われているかどうかを調べることができ、燃えてできた物質について調べることができる。(ウ②)	課題設定・解決力	
	課題の設定 (1)							
	情報の収集、整理・分析、まとめ(1)				○	燃焼が、熱と光を出して激しく酸素と化合する反応であることや酸素と化合することを酸化といい、酸化によって物質が酸化物となることや有機物が燃焼したときに二酸化炭素や水ができることを理解している。(エ②)	情報収集・活用力	
	表現、振り返り(1)			○		酸化銅から酸素を引きはなして銅をとり出す方法について、これまでの学習をもとに、原子・分子のモデルなどを用いて予想できる。(イ②)	情報収集・活用力 表現力・コミュニケーション力	
	情報の収集、整理・分析、まとめ(1)				○	酸化と還元は、化学変化のなかで同時に起こることを、化学反応式や原子・分子のモデルを用いて説明できる。(エ②)	情報収集・活用力 表現力・コミュニケーション力	
	表現、振り返り(1)				○	酸化・還元反応による金属利用の歴史と製鉄の方法を知り、人類が酸化しにくい金属や還元しやすい金属から順に利用を広げてきたことを説明できる。(エ②)	表現力・コミュニケーション力	
表現、振り返り(1)	(本時 6 / 6)			○		酸化銅の還元実験の結果をもとに、二酸化炭素中でマグネシウムが燃える理由を説明できる。(イ②)	情報収集・活用力 表現力・コミュニケーション力	
パフォーマンス課題								
4	化学変化と物質の質量 (8)							
5	化学変化とその利用 (4)							

本時の学習

(1) 本時の目標

既知の化学変化を活用して、未知の化学変化を原子、分子のモデルを使って考察し、表現することができる。

(2) 本時の評価規準

酸化銅の還元実験の結果をもとに二酸化炭素中でマグネシウムが燃える理由を説明している。(思・表)

(3) 準備物

集気ビン、二酸化炭素ボンベ、マグネシウムリボン、原子モデル、シンキングツール(ワークシート)、マグネシウムを空気中で燃やしたもの(酸化マグネシウム)と二酸化炭素中で燃やしたもの(炭素の付着した酸化マグネシウム)、炭素を分離したもの

(4) 本時の展開

学習活動	指導上の留意事項(◇) ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て	評価規準(評価方法)	資質・能力(評価方法)
1 前時の学習内容を確認する。[3分]			
○2分間テストをする。 <div style="background-color: #ff9900; color: white; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 5px;">課題の設定</div>	・既習事項「酸化銅の炭素による還元」	<div style="background-color: #ffff00; border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">A・L⑨</div>	
2 本時の課題を発見する。[10分]			
○演示実験(空気中と二酸化炭素中でマグネシウムを燃やす)を観察する。 ○課題を把握する。	◇既知の知識では、二酸化炭素中で物質は燃えないはずなのに、なぜマグネシウムが燃えるのだろうか?と疑問をもたせる。 ◆視点を与えて観察させる。 ・マグネシウムが炎を出した。 ・空気中より音を出して激しく燃えた。	<div style="background-color: #ffff00; border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">A・L②</div>	<div style="border: 1px solid black; background-color: #e0ffff; padding: 5px;"> <p>〈活用させたい知識(概念)〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マグネシウムを燃焼させると酸化マグネシウム(白色の物質)になる。 ・反応する物質と反応後の物質とは原子の組み合わせが変わる。 </div>
<p>あなたが家に帰ると、おばあちゃんが居て、学校の話になりました。</p> <p>おばあちゃん 「学校の勉強は楽しい？」 あなた 「うん。今日は理科の授業で、二酸化炭素の中でマグネシウムを燃やしたんだよ！」 おばあちゃん 「なんとまあ。二酸化炭素の中で物が燃えるのかい？二酸化炭素の中では、物は燃えないと思うのだが、どうしてマグネシウムが燃えるのか教えてちょうだい。」 あなた 「いいよ。それはね。 [] からだよ。」</p> <p>おばあちゃんが、納得するような説明文を書いてみましょう。</p>			
<p>本時の目標：二酸化炭素中でマグネシウムが燃えるひみつが説明できる。</p>			
<div style="background-color: #ff9900; color: white; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 5px;">情報の収集</div>		<div style="background-color: #ff99cc; border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 既習を生かした課題提示を行うよう工夫する。 本時に解決すべき課題を確認する。 解決がゴールであることをす。 </div>	
3 情報を収集し、解決の見通しをもつ。[5分]			
○反応後の物質のようすを観察し、どのような化学変化が起きたのかを物質名を使って予想する。	◇演示実験でどんな化学変化が起きたか理由も含めて予想させる。 ・マグネシウムが燃えた後、白色の物質ができた。 ・できた白い物質に黒色のものが付着している。(白色と黒色の混ざった物質ができていのか、白色と黒色	<div style="background-color: #00ff00; color: white; padding: 5px; display: inline-block; font-weight: bold;">シンキングツール (クラゲ・チャート)の活用</div>	<div style="border: 1px solid black; background-color: #e0e0e0; padding: 5px;"> <p>・観察により、気付いたことを書いている。</p> </div> <p>情報収集(ワークシート)</p>

<p style="text-align: center;">整理・分析</p>	<p>の別の物質ができていのかを見分けさせる)</p> <p>◆酸化マグネシウムに付着している炭素を分離したもの（塩酸に溶かしてろ過し、ろ紙に残ったものを乾燥させたもの）に触れた指で、紙に文字などが書けることから、炭（炭素）であることに気付かせる。</p>	<p>今まで学習したこと、化学反応式の作り方、酸化銅の還元を使って考えている。</p>
<p>4 情報を整理・分析し、課題解決をする。〔20分〕</p>		
<p>○モデル図を使って化学反応式を考える。</p> <p style="text-align: center;">まとめ・表現</p>	<p>◇個人思考→班での意見交流→全体への説明という流れで話し合い活動を行わせる。</p> <p>◆前時に学習した化学変化（酸化銅の還元）を思い起こさせる。ヒントカードを用意する。</p> <p>◇理解の進んでいる生徒には、モデル図か化学式かを選択させ、それを化学反応式で示させる。</p> <p>◆物質を示すヒントカードを用意する。</p> <p>◆酸化、還元について説明する。</p> <p style="text-align: center;">「つながり」を意識した展開の工夫</p>	<p>指導改善のポイント(1)</p> <p>指導改善のポイント(2)</p> <p>酸化銅の還元の化学変化をもとに、二酸化炭素中でマグネシウムが燃える理由を化学反応式で示している。(思・表) (行動観察、ワークシート)</p> <p>A・L⑦</p> <p>活用力(ワークシート) 表現力・コミュニケーション力(行動観察、ワークシート)</p> <p>対象に応じた表現をしている。</p> <p>・しっかり考え、自分の考えを書いている。 ・友だちの考えと自分の考えとの共通点や相違点を整理しながら聞き、参考となる考えはキーワードでメモしている。</p>
<p>5 学習のまとめをする。〔7分〕</p>		
<p>○本時のまとめをする</p> <p>本時のゴールとなる具体的な記述例 マグネシウムは二酸化炭素分子中の酸素と化合して燃える(酸化される)。そのとき、二酸化炭素はマグネシウムによって還元されて炭素にもどる。【キーワード：酸化、還元】</p> <p style="text-align: center;">新たな課題の設定に向けて</p>	<p>酸化銅の還元の化学変化をもとに、二酸化炭素中でマグネシウムが燃える理由を説明している。(思・表) (ワークシート)</p> <p style="text-align: center;">指導改善のポイント(1)</p> <p style="text-align: center;">指導改善のポイント(3)</p>	<p>表現力(ワークシート)</p> <p>・具体例や根拠を明らかにした論理的な文章を書いている。</p>
<p>6 本時を振り返り、次時につなげる。〔5分〕</p>		
<p>○分かったことと新たな疑問を記述する。</p> <p>○酸化・還元を利用した他の現象について考える。</p>	<p>A・L①</p> <p style="text-align: center;">「応用・ひろがり」を意識した発問</p> <p>・「日常生活の中で、酸素と結びつきやすい、結びつきにくいという性質と関係のある現象はないだろうか。」</p>	

検 証

検証の方法

- 平成28年度標準学力調査の結果を分析する。
- 平成28年度1学期期末試験問題の結果を分析する。

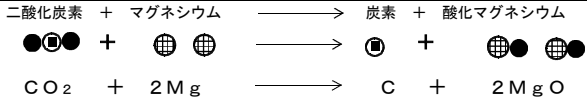
板書計画

本時の目標 二酸化炭素の中でマグネシウムが燃えるひみつを探り、そのひみつが説明できる。

【実験】 火のついたマグネシウムを二酸化炭素の中に入れる。

【結果】
 ・マグネシウムが激しく燃えた。 → マグネシウムに酸素が化合した。
 ・マグネシウムが燃えて白い物質ができた。 → 酸化マグネシウムができた。
 ・白い物質に黒色のものが付いた。 → 炭素ができた。

【考察】

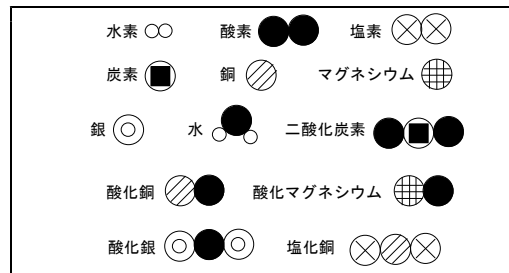
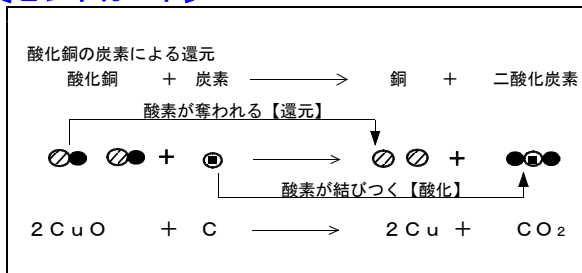


本時のまとめ

(おばあちゃんへの説明)
 マグネシウムは、二酸化炭素に結びついている酸素をうばって燃える。

(先生への説明)
 二酸化炭素はマグネシウムによって還元されて炭素にもどる。そのとき、マグネシウムは、二酸化炭素分子中の酸素と化合するので燃える(酸化される)。

【ヒントカード】



※ 厳密には電子を受け取ることが還元であるが、中学校学習指導要領では、酸素が奪われるという狭義の扱いにとどめてある。

※ 酸化銅には、黒色の酸化第二銅(酸化銅(Ⅱ))： CuO と酸化第一銅(酸化銅(Ⅰ))： Cu_2O があるが、中学校段階では、酸化銅とは酸化第二銅のことを示す。

我が家の節電計画（5 電圧と電流と抵抗）

本単元で育成する資質・能力

「情報収集力」「情報活用力」「表現力」

日 時 平成28年10月31日（月） 5校時（13:00～13:50）

場 所 理科室

学年・組 第2学年B組（男子9名，女子8名，計17名）

単元について

本単元は、学習指導要領第1分野の内容「(3)ア 電流 (ア)，(イ)，(ウ)」を受けて設定したものである。

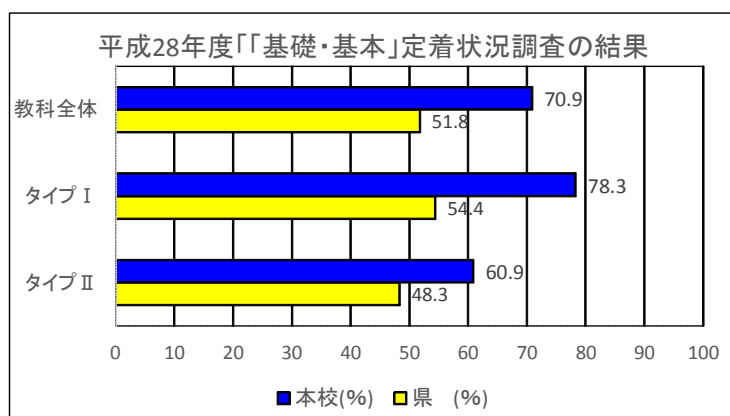
ここでは、小学校での電気の学習を発展させ、定量的な実験を段階的に行い、器具の操作、測定中の処理、規則性の発見などに習熟させながら、回路における電流・電圧の関係を理解させることをねらいとする単元である。また、電流による発熱現象を定量的にとらえ、電気エネルギーに着目させ、電力・電力量について理解させる内容となっている。さらに、この後の単元で「電流の正体」，「電流と磁界」，3年での「運動とエネルギー」の単元へと発展していく。

生徒観

本学年生徒の平成28年度「基礎・基本」定着状況調査結果は、下のグラフの通りである。教科全体では平均通過率が70.9%（県平均51.8%）であり、県平均通過率を19.1ポイント上回っていた。

タイプⅠとタイプⅡでは、タイプⅠが78.3%（県平均54.4%），タイプⅡが60.9%（県平均48.3%）であり、県平均通過率をタイプⅠが23.9ポイント，タイプⅡが12.6ポイント上回っていた。

また、表のように、各領域ともタイプⅠとタイプⅡの両方が県平均通過率を上回っていた。



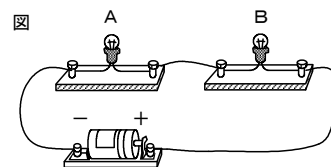
領域		通過率	県平均通過率	通過率	県平均通過率
物理	I	67.7	41.9	67.3	49.8
	II	66.7	61.6		
化学	I	62.6	47.4	56.6	44.1
	II	50.5	40.8		
生物	I	90.9	62.6	80.6	57.4
	II	65.2	49.7		
地学	I	91.9	65.6	81.8	57.4
	II	66.7	44.9		

しかし、設問4－(4)化学領域：実験結果を分析・解釈して、結論を導き出す問題の通過率が30.3%と低かった。その原因として、実験の方法①～⑤の説明文をよく読んでおらず、表中の「加熱時間」の数字の意味が理解できていなかったことや、加熱4分後には液体は集まらなかったことから、選択肢の「4～6分の間」は正しくないと判断してしまったことが考えられる。

また、設問3－(2)化学領域：溶質の再結晶についての問題の通過率も33.3%と低い。水溶液から結晶がとり出せないことの説明が不十分であったり、「溶解度」，「飽和水溶液」の語の意味や結晶が析出する場合に飽和水溶液になっていることなどの理解が不十分であったりした。

授業での発問や試験での記述問題に対して、観察・実験の結果をもとに考察したり、自分の考えを科学的概念や理科の用語を用いて、正確に記述したり説明したりすることに課題があると考え。すなわち、筋道立てて考える力、自分の考えを整理する力、事実や根拠に基づいた理由付けをする力、適切な用語を用いて正確に表現する力が育っていない等、表現力に課題があると分析する。

本学級の生徒に行ったプレテストでは、「乾電池の一極から流れ出て、+極に流れ込む向きに電流が流れる。」と15名中、3名の生徒が答えた。また、「図で、同じ種類の豆電球A、Bでは、明るさはどうなりますか。」という問いに対しては、「Bの方が明るい。」と答えた生徒が3名、「AとBは同じ明るさである。」と答えた生徒が12名であった。「Bの方が明るい。」と答えた生徒は、電流は乾電池の+極から出ていて、豆電球を光らせると電流が減っていくと捉えていると考えられる。



電流に関して小学校では、次の表の通り学習している。乾電池の直列つなぎ、並列つなぎによるモーターの回り方や豆電球の明るさの違いはよく理解できている。豆電球等の直列回路と並列回路の違いや電圧、抵抗についての概念はまだ学習していないが、これからの学習で直列回路、並列回路のそれぞれにおける電流や電圧の関係を、実験結果から定量的に見つけさせることで理解させることができると考える。一方で、オームの法則 ($V=RI$) を使って、電流と電圧と抵抗のうちの2つが分かっている場合に残りの1つを計算で求めることを学習する際には、1次方程式を解くことが難しい生徒が多いことが予想される。

学年	既習事項
小3	電気の通り道（電流を通すものと通さないもの）
小4	電気の働き（電流と電流の向き、回路図の記号、導線のつなぎ方、乾電池の直列つなぎと並列つなぎ、簡易検流計の使い方、乾電池のつなぎ方とモーターのまわり方、豆電球の明るさの違い）
小5	電流の働き（電流計の使い方、電流の単位、電源装置の使い方）
小6	電気の利用（電流による発熱、電気の変換、電気の利用）

指導改善のポイント

【本校の育成しようとする資質・能力】

- 課題発見力 ○課題解決力 ○情報収集力 ○情報活用力 ○表現力・コミュニケーション力
- 主体性・積極性
- 自らへの自信

■単元学習後の具体的な姿に到達するための指導

生徒が既習事項、科学的概念や理科の用語を用いて説明したり、記述したりできるようにするために、日々の授業において、次の(1)～(3)のことに継続して取り組む。

- (1) 個人思考の場面では、自分の考えを科学的概念や事実や根拠に基づいた理由とともにワークシートに記述させる。
- (2) 集団思考の場面では、
 - ① 発言者には、科学的概念や理科の用語を用いて、自分の考えを説明させる。

② 聞く側には、他者の考えを自分の考えと比較し、種類ごとに分けてワークシートにキーワードでメモさせる。

(3) 授業のまとめの場面では、その時間のねらい(課題)に対する答えを、生徒の言葉で説明させる。

■小学校及び既習事項との連続性を生かした指導

単元の導入時において、小学校で学習した問題を活用したプレテストを実施して既習事項の定着状況を把握する。また、生徒への聞き取りによって、小学校での実験内容、方法を把握し、重複を避けたり補完を行ったりするように単元計画を作成し、効果的な指導を行う。

■広島版「学びの変革」アクション・プラン(アクティブ・ラーニング)の取組について

<主体性>

- 授業の最後に振り返りを書かせる。(A・L視点①)
 - ・ 生徒が自分自身の成長を感じたり、自分が学んだことの意味を理解したりすることで学ぶことへの主体性を高める。
- 導入において、意外な現象や事象を見せる。(A・L視点②)
 - ・ 生徒に「なぜだろう?」と考えようとする必然性を与えることで探究心に火をつけ、生徒の主体性を引き出す。〔例 同じ2個の豆電球を使っても、直列回路と並列回路では、電球の明るさが違うことを見せる。〕
- 身近な素材で興味をもたせる。(A・L視点③)
 - ・ 興味や関心があるなどの心理的に身近な素材を教材化することで、生徒の学習の主体性を高める。〔例 電流による発熱について学習を、ヘアドライヤーと関連付ける。〕
- 生徒自らのアイデアを生かす。(A・L視点④)
 - ・ ちょっとした生徒の考えを授業で取り上げていくことにより、生徒の自己効力感を増し、学びへの主体性を高める。
- 生徒自らに選択させる。(A・L視点⑤)
 - ・ 「この実験をしましょう。」と教師が提示するのではなく、「Aの実験、Bの実験のどちらかを選んで実験しましょう。」と生徒に選択させることによって動機付けさせ、主体性と意欲をもたせる。単元によっては、生徒自身に実験方法を考えさせ、実験させる。
- 学んだことを振り返り、他者に伝えさせる。(A・L視点⑥)
 - ・ 学んだことをまとめてプレゼンテーションなどに作品化することにより、学びの振り返りをさせ、学びの主体性を高める。この取組は協働性という観点からも重要である。

<協働性>

- 意図的にグループで話し合いをさせる。(A・L視点⑦)
 - ・ 他の生徒の話をしっかり聞かせたり、自分の考えを説明させたりすることで、一人では到達できなかった深い思考に到達することができ、生徒間の協働性を高めることができる。
- 学習の振り返りをさせる。(A・L視点⑧)
 - ・ 授業の最後に振り返りを書かせることで、生徒の理解状況を把握したり、自らの授業を振り返るきっかけとしたりすることで教師と生徒の協働性を高める。
- 小テストで確認する。(A・L視点⑨)
 - ・ 毎時間のはじめに小テストを行い、生徒のつまずきを把握し、その後の授業の展開を臨機応変に変えていくことで教師と生徒の協働性を高める。

単元の目標と評価規準

<単元の目標>

回路の基本的な性質や、電圧と電流の関係について規則性を見いださせるとともに、電流計や電圧計、電源装置などの扱いや実験結果の処理についての技能を習得させる。

<評価規準>

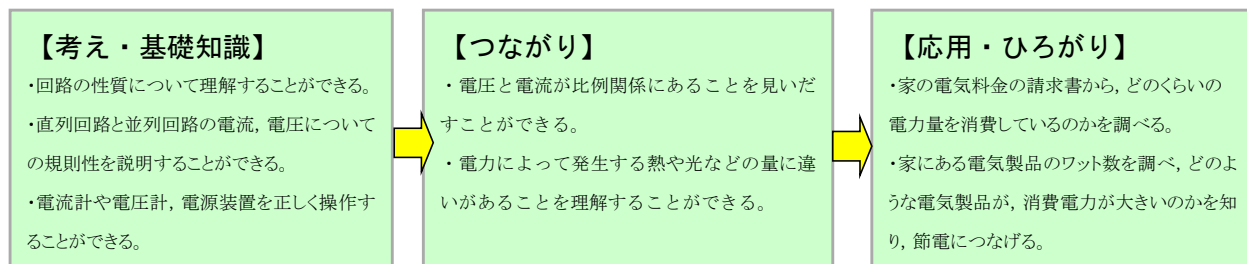
ア 自然事象への関心・意欲・態度	イ 科学的な思考・表現	ウ 観察・実験の技能	エ 自然事象についての知識・理解
回路と電流・電圧、電流・電圧と抵抗、電気とそのエネルギーに関する事物・現象に進んで関わり、それらを科学的に探究しようとするとともに、事象を日常生活との関わりで観ようとする。	回路と電流・電圧、電流・電圧と抵抗、電気とそのエネルギーに関する事物・現象の中に問題を見だし、目的意識をもって観察、実験などを行い、回路における電流や電圧の規則性、金属線に加わる電圧と電流の関係や電気抵抗、電流による熱や光の発生と電力、電力量との関連などについて自ら考えを導き、表現している。	回路と電流・電圧、電流・電圧と抵抗、電気とそのエネルギーに関する観察、実験の基本操作を習得するとともに、観察、実験の計画的な実施、結果の記録や整理などの仕方を身に付けている。	回路における電流や電圧の規則性、金属線に加わる電圧と電流の関係や電気抵抗、電流による熱や光の発生と電力、電力量との関連などについて基本的な概念や原理・法則を理解し知識を身に付けている。

指導と評価の計画

○本単元で身に付けさせたい資質・能力と評価規準

資質・能力	評価規準		
	C	B	A
情報収集力	回路のつなぎ方がわかり、電流計と電圧計の値を読み取り、実験データを得ることができる。	回路を正しく配線し、電流計と電圧計の値を正しく読み取り、妥当な実験データを得ることができる。	回路を正しく配線し、電流計と電圧計の値を正しく読み取り、得た実験データが妥当なものであるか検討できる。
情報活用力	自分の実験データから法則性を見つけることができる。	他班の実験データと併せて比較・検討し、共通点から法則性を見つけることができる。	他班の実験データと併せて比較・検討し、おかしなデータは除外し、その共通点から法則性を見つけることができる。
表現力	自分の考えを文章にすることができ、相手に説明することができる。	科学的概念や理科の用語を用いて、自分の考えを文章にすることができ、相手に分かりやすく説明することができる。	科学的概念や理科の用語を用いて、自分の考えを等号、不等号を用いた式と文章にすることができ、相手に分かりやすく説明することができる。

第1章「電流の性質」のICEモデル



(全22時間)

次	学習内容 (時数)	評 価					
		関	思	技	知	評 価 規 準 (評価方法)	資質・能力 (評価方法)
1	電気料金の請求書 (1)	課題の設定					
	・電気料金の請求書に書かれているものについて疑問をもつ。	○				電気料金の請求書から、電気料金がかかる電化製品はどのようなものかということに関心をもち、電力量について考えている。(行動観察)	課題発見力 (行動観察)
2	電気の利用 (2)	情報の収集					
	・豆電球2個と乾電池1個を用いて回路を作成する。			○		電流の向きを調べ、2通りの回路をつくることことができる。(ワークシート, 行動観察)	情報収集力(ワークシート, 行動観察)
	・直列回路と並列回路の性質について考える。			○		実験結果から、直列回路と並列回路の性質について理解し、知識を身に付けている。(ワークシート, 発言)	情報収集力(ワークシート, 発言)
3	回路に流れる電流 (3)	情報の収集					
	・電流計の基本操作を身に付ける。			○		電流計を正しく使い、電流を測定することができる。(ワークシート, 行動観察)	情報収集力(ワークシート, 行動観察)
	・直列回路の各点の電流を調べ、直列回路の電流の性質を説明する。		○			直列回路の各点を流れる電流の測定結果から直列回路での電流の規則性を見だし、説明することができる。(ワークシート, 発表)	情報収集力(ワークシート, 行動観察) 情報活用力(ワークシート, 発表)
	・直列回路の各点の電流を調べ、直列回路の電流の性質を説明する。		○			並列回路の各点を流れる電流の測定結果から並列回路での電流の規則性を見だし、説明することができる。(ワークシート, 発表)	情報収集力(ワークシート, 行動観察) 情報活用力(ワークシート, 発表)
4	回路に加わる電圧 (3)	情報の収集					
	・電圧計の基本操作を身に付ける。			○		電圧計を正しく使い、電圧を測定することができる。(ワークシート, 行動観察)	情報収集力(ワークシート, 行動観察)
	・直列回路の各点間の電圧を調べ、直列回路の電圧の性質を説明する。		○			直列回路の各点間に加わる電圧の測定結果から直列回路の電圧の規則性を見だし、説明することができる。(ワークシート, 発表)	情報収集力(ワークシート, 行動観察) 情報活用力(ワークシート, 発表)
	・並列回路の各点間の電圧を調べ、並列回路の電圧の性質を説明する。		○			並列回路の各点間に加わる電圧の測定結果から並列回路の電圧の規則性を見だし、説明することができる。(ワークシート, 発表)	情報収集力(ワークシート, 行動観察) 情報活用力(ワークシート, 発表)
5	電圧と電流と抵抗 (6)	情報の収集					
	・1個の抵抗にかかる電圧と流れる電流を測定する。			◎		電流計、電圧計を正しく配線し、電圧と電流を同時に測定することができる。(ワークシート, 行動観察)	情報収集力(ワークシート, 行動観察)
	・電圧と電流の関係をグラフに示す。			○		電圧と電流との関係をグラフに表すことができる。(ワークシート, 発表)	情報活用力(ワークシート, 発表)
	・オームの法則を理解する。		○			回路における、電圧・電流の規則性について	表現力・コミュニケーション

					, 自らの考えを導き, 表現している。(ワークシート, 発表)	ーション力(ワークシート, 発表)	
	・回路の電気抵抗の値を求める。			○	オームの法則を使って回路の電気抵抗の大きさの違いを見いだすことができる。(ワークシート, 発表)	情報活用力(ワークシート, 発表)	
	・2個の抵抗を直列, 並列につないだときの全抵抗の大きさについての規則性を見つける。 (本時4/6)			◎	○ ・回路に成り立つ諸法則を用いて, 未知の電気抵抗や電圧, 電気抵抗を計算することができる。(ワークシート, 発表) ・回路における, 全抵抗の規則性について, 自らの考えを導き, 表現している。(ワークシート, 発表)	情報収集力(ワークシート, 行動観察) 情報活用力(ワークシート, 発表) 表現力(ワークシート, 発表)	
	・直列, 並列回路の電流, 電圧, 抵抗の大きさを計算で求める。			○	回路に成り立つ諸法則を用いて, 未知の電気抵抗や電圧, 電気抵抗を計算することができる。(ワークシート)	情報収集力(ワークシート)	
	・いろいろな回路の電流, 電圧, 抵抗の大きさを計算で求める。			○	回路に成り立つ諸法則を用いて, 未知の電気抵抗や電圧, 電気抵抗を計算することができる。(ワークシート)	情報収集力(ワークシート)	
6	電気エネルギー(3)				情報の収集		
	・電力の概念を理解する。			◎	○ ・電力やLEDの特徴について理解し, 知識を身に付けている。(ワークシート) ・自分の家の家電製品の消費電力について調べようとしている。(ワークシート)	情報収集力(ワークシート)	
	・電力と発生する熱量の関係を調べる。			○	電力と発生する熱量との関係を調べる実験を正しく行うことができる。(ワークシート, 行動観察)	情報収集力(ワークシート, 行動観察)	
	・電力と熱量の関係を説明する。			○	実験の結果から, 電力と発生した熱量との関係を見いだすことができる。(ワークシート, 発表)	情報活用力(ワークシート, 発表)	
7	これまでの学習の振り返り(2)				整理・分析		
	・電圧と電流の2種類のデータから2本のグラフを描き, 電圧と電流の関係を説明する文を書く。 また, どちらの抵抗の大きさが大きいかを説明する文を書く。			○	○	○ 電圧と電流の関係についての規則性を活用することができる。(ワークシート, 発表)	情報活用力(ワークシート, 発表)
	・3本の抵抗値の異なる電熱線にかかる電圧と流れる電流と水の温度上昇のデータから, 電力と発熱量(電力量)の関係の説明する文を書く。 ・3本の抵抗値の異なる電熱線の並列回路における電力量の総和を求める方法を説明する文を書く。 ・電力と発熱量(電力量)の関係を示すグラフを描く。 ・使用時間と発熱量(電力量)の関係を示すグラフを描く。			○	○	○ ・電力と発熱量(電力量)の関係についての規則性を活用することができる。(ワークシート, 発表) ・電力量は電力と使用時間の関係についての規則性を活用することができる。(ワークシート, 発表)	情報活用力(ワークシート, 発表)
8	自分の家の節電計画(2)				まとめ・表現		
	・節電計画の立案 パフォーマンス課題			○		友だちの発表内容と自分の計画を比較して, 友だちのよい考えを取り入れ修正するなどして適切な節電計画を立てている。(レポート)	情報収集力, 情報活用力, 表現力(レポート)

パフォーマンス課題

育てたい資質・能力	情報収集力, 情報活用力, 表現力
教科の評価規準	電力量は電力と使用時間に比例することから適切な節電計画を立てている。

パフォーマンス課題のシナリオ

あなたが家に帰ると、おばあちゃんが居て、電気代の話になりました。

おばあちゃん 「今年の夏は暑かったのお。エアコンもよけえ使うたけえ、電気代も高うついたんよ。」

あなた 「電気をたくさん使くと、発電所からのCO₂の排出量も増えて、地球温暖化につながると授業で習ったよ。」

おばあちゃん 「電気をあんまり使わんようにすりゃあ、電気代も安うなるし、地球にもええんよなあ。我が家の節電は、どうすりゃあ、ええかのお？」

あなた 「分かった。来年の夏にどうしたらいいかを考えてみるね。」

次の日、学校で、友だちの架純さんにそのことを話すと、次のような会話になりました。

架純さん 「みんなが少しずつでも節電すれば、全体では大きな違いになると思うわ。お互いに節電計画を考えてみない？ たしか、中国電力の電気料金は、スマートコースなら1kW=29円のはずよ。」

あなた 「どの電化製品を1日に何時間使うか考えると、それから1ヶ月の電力量を求めれば電気代がいくらになるか分かるよね。節電する場合と節電しない場合の電気代についてレポートにまとめてみるわ。」

架純さん 「あっ、そうそう。エアコンの温度設定を1℃上げると10%節電できるんだって。」

あなた 「へえ～。そんなことも知ってるんだ。ありがとう。」

あなたの家の主な電化製品には次のようなものがあるとして、節電する場合と節電しない場合の1ヶ月の電気代について、レポートにまとめてみましょう。

電化製品	消費電力	自分の部屋蛍光灯	50W	トイレの電球	60W
居間のテレビ	95W	家族の寝室蛍光灯	50W×2	台所の蛍光灯	30W
居間のエアコン	770W	扇風機	12W×3	電子レンジ	1.2kW
台所の冷蔵庫	50W	浴室の電球	60W	洗濯機	60W
居間の蛍光灯	90W	階段の電球	60W	ドライヤー	1.2kW

予備的ルーブリック

尺度 (評点, レベル)	記述語 (パフォーマンスの特徴)
3 理想的	何時から何時までと使用時間数に根拠ある数字を出して計算し、エアコンの使用時間を短くすることや扇風機を併用して設定温度を高くすることを考えている。また、電球（や蛍光灯）をLEDに付け替えることまで言及したレポートを作っている。
2 合格	何時から何時までと使用時間数に根拠ある数字を出して計算し、エアコンの使用時間を短くすることや設定温度を高くすることを考えたレポートを作っている。
1 乗り越えさせたい実態	エアコンの使用時間を根拠のない数字で計算したり、設定温度も適当に、30℃にしたりするなど、実際の場面を想定していないレポートを作っている。

本時の学習

(1) 本時の目標

- ・ オームの法則を用いて、未知の電気抵抗を計算し、直列回路と並列回路の全抵抗の大きさと1つ1つの抵抗の大きさとの関係を見いだすことができる。

(2) 本時の評価規準

- ・ オームの法則を用いて、未知の電気抵抗の大きさを計算で求めることができる。(知・理)
- ・ 回路における、全抵抗の規則性について、自らの考えを導き、表現している。(思・表)

(3) 本時に身に付けさせたい資質・能力

- ・ 情報収集力 ・ 情報活用力 ・ 表現力

(4) 準備物

- ・ 電源装置、電流計、電圧計、抵抗器 (15Ωと30Ω, 20Ωと30Ω), 導線, ワークシート, ホワイトボード, ヒントカード

(5) 本時の展開

学習活動	指導上の留意事項 (◇) ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て	評価規準 (評価方法)	資質・能力 (評価方法)
1 学習内容の確認をする。〔3分〕			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 2分間テストをする。 <div style="background-color: #f4b084; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">課題の設定</div>	◇既習事項(オームの法則の計算)の確認をする。	← A・L視点①	
2 本時の課題を発見する。〔5分〕			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 2個の電球を並列と直列につないだとき、明るさがちがうことを見て、疑問をもつ。 ・ 2つの抵抗器を直列、並列につないだとき、全抵抗の大きさはそれぞれどうなるのかを予想する。 <div style="background-color: #f4b084; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">情報の収集</div>	◇2つの抵抗器を直列、並列につないだときの抵抗の大きさはそれぞれどうなるか疑問をもたせ、課題解決の必然性をもたせる。 <div style="background-color: #fce4d6; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block; margin-top: 10px;">既習事項を生かした課題提示を行うよう工夫する。</div>	← A・L視点②	
3 情報を収集し、解決の見通しをもつ。〔15分〕			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 班ごとに電圧・電流を測定する実験を行う。 	◇机間指導をして、直列、並列回路と電流計、電圧計のつなぎ方や針の読み方を確認する。 ◇班ごとに、電流・電圧を測定させ、ワークシートと黒板の表に結果を整理させる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">正しく実験を行い、データを得ている。</div>	情報収集力(ワークシート, 行動観察)

<ul style="list-style-type: none"> データをもとに直列回路と並列回路の場合の電気抵抗の値を計算する。 各班の計算結果を全体で共有する。 <p style="text-align: center;">整理・分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ヒントカード（オームの法則）を用意する。 ◆計算結果を班内で確認し，計算の仕方の教え合いをさせ，班員全員が計算できるようにさせる。 	<p>オームの法則を用いて，未知の電気抵抗の大きさを計算で求めることができる。（ワークシート）</p>	<p>情報活用力（ワークシート，発表）</p> <p>他班のデータも合わせて考え，法則性を見つけようとしている。</p>
--	---	---	--

4 情報を整理・分析し，課題解決をする。〔17分〕

<ul style="list-style-type: none"> 計算で求めた抵抗の値をもとに，直列回路，並列回路の全抵抗と1つ1つの抵抗の値の大きさの関係について，考察する。（個人→班→全体） 	<ul style="list-style-type: none"> ◇個人思考し，ワークシートに書かせる。 ◇班内で意見交流させ，他者の考えを色分けしてメモしながら聞かせる。 ◇最終的な自分の考えを書かせる。 ◇班で考えを収束させ，まとめさせる。 ◇班の中でまとめた考えを発表させる。 	<p>回路における，全抵抗の規則性について，自らの考えを導き，表現している。（ワークシート，発表）</p>	<p>A・L視点⑦</p> <p>表現力（ワークシート，発表）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体例や根拠を明らかにした論理的な文章を書いている。 ・しっかり考え，自分の考えを書いている。 ・友だちの考えと自分の考えとの共通点や相違点を整理しながら聞き，参考となる考えはキーワードでメモしている。
--	--	---	---

期待する生徒の記述例（20Ωと30Ωの抵抗の場合）

「直列回路」の考察
 実験の結果から，全抵抗の大きさを計算すると50Ωになった。このことから，直列回路の全抵抗は，1つ1つの抵抗の大きさより大きくなり，それぞれの抵抗の和になるといえる。
 $(R > R_1, R > R_2, R = R_1 + R_2)$

「並列回路」の考察
 実験の結果から，全抵抗の大きさを計算すると12Ωになった。このことから，並列回路の全抵抗は，1つ1つの抵抗の大きさより小さくなるといえる。
 $(R < R_1, R < R_2)$

<p style="text-align: center;">まとめ・表現</p>			
--	--	--	--

5 学習のまとめをする。〔5分〕

<p>本時のゴールとなる具体的な記述例</p> <ul style="list-style-type: none"> 2つの抵抗 R_1, R_2 をつないだ直列回路の全抵抗 R は，1つ1つの抵抗の大きさより大きくなり，それぞれの抵抗の和になる。$(R > R_1, R > R_2, R = R_1 + R_2)$ 2つの抵抗 R_1, R_2 をつないだ並列回路の全抵抗 R は，1つ1つの抵抗の大きさより小さくなる。$(R < R_1, R < R_2)$

新たな課題の設定に向けて

6 本時を振り返り、次時につなげる。〔5分〕

- ・分かったことと新たな疑問を記述する。
- ・抵抗が並列の場合も抵抗値を計算で求める式があることを知り、式を考えてみようとする。

$$\frac{1}{R} = \frac{1}{R_1} + \frac{1}{R_2}$$

- ◇発展問題を解かせることにより、本時の学習内容を振り返らせる。
- ◇次時の予告をする。

← A・L視点①,⑧

板書計画

本時の目標 「2つの抵抗器を直列、並列につないだとき、全抵抗の大きさはそれぞれどうなるのか」について、そのきまりを説明できる。

- 予想 直列・・・大きくなる
並列・・・大きい抵抗と同じ大きさ、大きくなる

【実験】 2つの抵抗器を直列、並列につないだ回路の電圧と電流を測定し、その結果から全抵抗を求める。

【結果】

	15Ωと30Ω			20Ωと30Ω		
直列回路	1班	2班	3班	4班	5班	6班
電圧〔V〕						
電流〔A〕						
全抵抗〔Ω〕						
	15Ωと30Ω			20Ωと30Ω		
並列回路	1班	2班	3班	4班	5班	6班
電圧〔V〕						
電流〔A〕						
全抵抗〔Ω〕						

【まとめ】

- 2つの抵抗 R_1 , R_2 をつないだ直列回路の全抵抗 R は、1つ1つの抵抗の大きさより大きくなり、それぞれの抵抗の和になる。 $(R > R_1, R > R_2, R = R_1 + R_2)$
- 2つの抵抗 R_1 , R_2 をつないだ並列回路の全抵抗 R は、1つ1つの抵抗の大きさより小さくなる。 $(R < R_1, R < R_2)$

検 証

- 平成28年度2学期期末テスト問題の結果を分析する。
- 平成28年度標準学力調査の結果を分析する。

混声合唱のよろこび「桜の季節」

本単元で育成する資質・能力

情報収集力、情報活用力、表現力・コミュニケーション力

日 時 平成28年9月27日(火) 6校時(14:00~14:50)
 場 所 音楽室
 学年・組 第1学年A, B組(男子16名, 女子9名, 計25名)

題材について

本題材は、中学校学習指導要領音楽の第1学年の内容「A表現」の指導事項アの内容、〔共通事項〕のうちア(音色、リズム、旋律、テクスチュア、強弱)を扱ったものである。

「桜の季節」は、混声3部合唱の曲である。EXILEのATSUSHIが作詞作曲し、2014年のNHK全国音楽コンクールの課題曲になった。冒頭は、ソプラノのメロディーから始まり、続いてアルトとテノールが順に入る。ソプラノ、アルト、テノールで一緒のリズムのところもあるが、それぞれのパートが別のリズムで動いていることが多いところが特徴的な曲である。よって、各パートがどのような表現で歌うのか、曲全体のバランスを見ながら考えることができる題材である。

また、歌詞は卒業をテーマにしたものであるが、普段の学校生活の中で共感できる歌詞であったり、今一緒に過ごしている仲間がかけがえのない存在であることに改めて気づくことができる魅力的な歌詞である。曲には歌詞の内容に応じた強弱表現が見られ、歌詞と強弱の関係について考えることで、強弱についての理解の幅を広げることができる題材である。

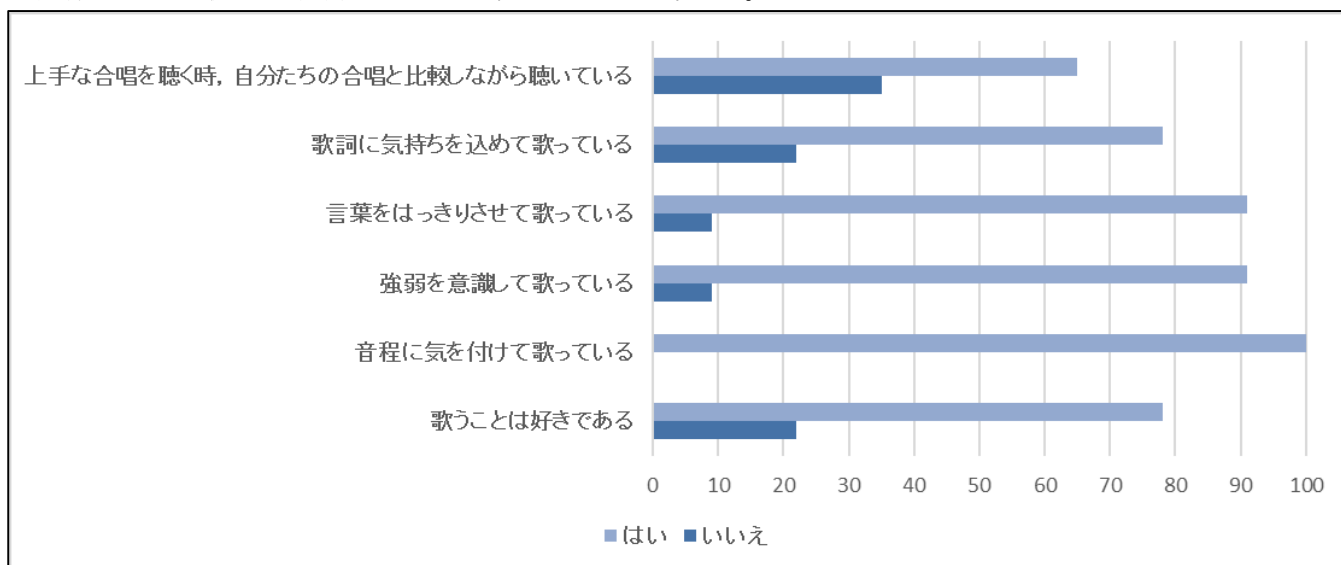
中学1年生の2学期は、男子の声変わりも進み、本格的に混声3部合唱ができるようになってくる時期である。また、思春期に突入し、人との接し方や自分についてたくさん悩む時期でもある。このような時期に、パートの表現について考えることと、歌詞に共感し歌詞から歌い方を考えて工夫することは、今後より深い混声3部合唱の表現ができるようになるとともに、今一緒に過ごしている仲間との学校生活を、より充実したものにする可以考虑される。

生徒観

本学年の生徒は、真面目で協調性があり、学力が高い生徒が多い。「歌うことが好きですか」という質問に対して「はい」と答えた生徒は78%であり、歌唱に対して興味・関心を持っている生徒が多い。「歌唱の時には、音程に気を付けて歌っている」という項目では、「はい」と答えた生徒は100%であった。また、「歌唱の時には強弱に気を付けて歌っている」や、「言葉をはっきりと歌うことに気を付けて歌っている」という項目では、「はい」と答えた生徒はともに91%、「歌詞を大切にし、気持ちを込めて歌っている」という項目では、「はい」と答えた生徒は78%と、様々な音楽的要素に気を付けて歌唱表現をしている生徒が多い。しかし、「上手い合唱を聴く時、自分たちの合唱と比較しながら聴いている」という項目では、「はい」と答えた生徒は65%であった(グラフ①)。

生徒たちは、小学校6年生の3学期から混声3部合唱に挑戦してきた。その際も、自分たちの合唱を録音し客観的に聴き課題を見つけるという事は行い、どの生徒も自分なりに課題を見つけることはできていたが、音楽の用語を正しく使って説明できる生徒は限られていた。本年、1学期に扱った混声3部合唱を通して、歌詞と強弱の関係について考えた時にも、積極的に関係性を見つけようとしていた。しかし、それを言葉で説明するとなると難しい生徒もいた。よって、自分たちの演奏とプロの演奏というわかりや

すい比較を通して、そこから課題を発見する能力を育てるとともに、説明が苦手な生徒が、少しでも音楽の用語を正しく使って説明ができるようにしたいと考える。



グラフ①

指導改善のポイント

【本校の育成しようとする資質・能力】

- 課題設定・解決力 ○情報収集・活用力 ○表現力・コミュニケーション力
- 主体性・積極性 ○自らへの自信

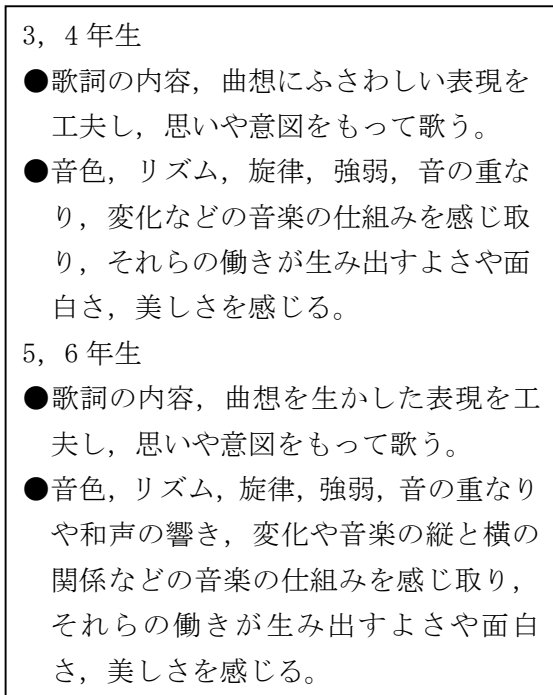
■単元学習後の具体的な姿に到達するための指導

生徒が課題意識を持ち、めあてを設定したり、既習事項から習得したことを用いて説明したり、記述したりできるようにするために、日々の授業において、次の(1)～(4)のことを継続して取り組む。

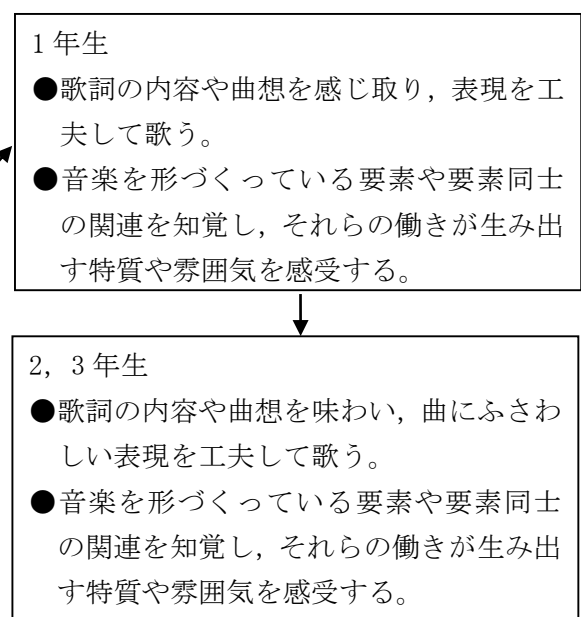
- (1) 課題設定の場面で、生徒に興味や疑問を持たせる工夫をし、生徒自らの課題意識へとつなげ、「めあて」を持たせる。
- (2) 個人思考の場面では、しっかり時間を取り、音楽の用語を正しく使って自分の考えを記述させる。
- (3) 集団思考の場面では、
 - ① 発言者には、音楽の用語を正しく使って、自分の考えを説明させる。
 - ② 聞く側には、他者の考えを自分の考えと比較し、ワークシートにペンの色を変えてメモさせる。
- (4) 授業のまとめの場面では、その時間の目標(課題)に対する答えを、生徒の言葉で説明させる。

■小学校及び既習との連続性を生かした指導

<小学校>



<中学校>



■広島版「学びの変革」アクション・プラン（アクティブ・ラーニング）の取組について

<主体性>

- 生徒自らに目標を設定させる。（A・L視点①）
 - ・授業の導入で生徒が「なぜだろう？」と考えようとする必然性を与えたり、自ら練習目標を立てることで探究心に火をつけ、生徒の主体性を引き出す。
- 既習事項を活用し、情報を収集させる。（A・L視点②）
 - ・既習事項から、積極的に情報を収集し、主体的に課題解決を図ろうと探究する態度を養う。
- 身近なことと関連づけて興味をもたせる。（A・L視点③）
 - ・普段の自分たちの演奏を聴くなど、日常生活と結びつけた教材を扱うことで、興味や関心を高め、生徒の学習の主体性を高める。
- 授業の最後に振り返りを書かせる。（A・L視点④）
 - ・生徒が自分自身の成長を感じたり、自分が学んだことの意味を理解したりすることで学ぶことへの主体性を高める。

<協働性>

- 意図的にグループで話し合いをさせる。（A・L視点⑤）
 - ・他の生徒の話をしっかり聞かせたり、自分の考えを説明させたりすることで、一人では到達できなかった深い思考に到達することができ、生徒と生徒の協働性を高めることができる。
- 学習の振り返りをさせる。（A・L視点⑥）
 - ・授業の最後に振り返りを書かせることで、生徒の理解状況を把握したり、教師自らの授業を振り返るきっかけとしたりすることで教師と生徒の協働性を高める。

単元の目標と評価規準

<単元の目標>

- ・歌詞の内容や音楽のバランスに関心をもち、主体的に活動に取り組むことができる。
- ・音楽の要素を知覚し、思いや意図をもって音楽表現をすることができる。
- ・自分たちの演奏を客観的に聴き、音楽的に足りていないところを分析することができる。

<評価規準>

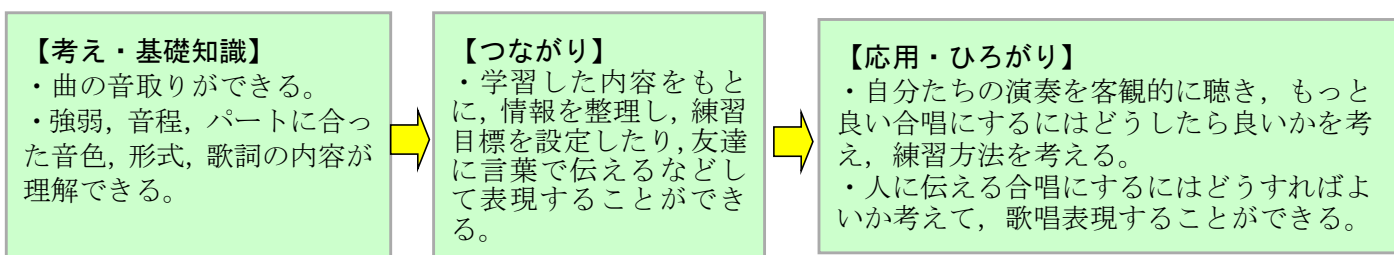
ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容や曲想に関心をもち、音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 ・声部の役割や全体の響きに関心をもち、音楽表現を工夫しながら合わせて歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞の内容や曲想、声部の役割や全体の響きを感じ取って音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容や曲想を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。 ・声部の役割や全体の響きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、要素や構造と曲想との関わりを感じ取って、自分たちの合唱を分析しながら聴いている。

指導と評価の計画

○本単元で付けさせたい「資質・能力」と評価規準

資質・能力	評価規準		
	C	B	A
情報収集力	楽譜に書いてある情報を読み取り、耳で聞いた情報を書き出すことができる。	楽譜に書いてある音楽的な情報を読み取り、耳で聞いた音楽的情報を書き出すことができる。	楽譜に書いてある音楽的な情報を正確に読み取り、耳で聞いた音楽的情報を正確に書き出すことができる。
情報活用力	学習した内容を用いて、楽譜上の音楽を形づくっている要素や要素間の関係を把握し、音楽の用語を使って表などにまとめたり、歌唱表現することができる。	学習した内容を用いて、楽譜上の音楽を形づくっている要素や要素間の関係を理解し、音楽の用語を使って説明したり、歌唱表現することができる。	学習した内容を用いて、楽譜上の音楽を形作っている要素や要素間の関係を理解し、音楽の用語を正確に使って説明したり、歌唱表現することができる。
表現力・コミュニケーション力	練習内容や課題を、音楽の用語を使って表現したり、パート練習で仲間に対して注意をすることができる。	練習内容や課題を、音楽の用語を使って表現したり、パート練習で仲間に対して音楽的なアドバイスや注意をすることができる。	練習内容や課題を、音楽の用語を正確に使って表現したり、パート練習で仲間に対して音楽的なアドバイスや注意をすることができる。

【混声合唱のよこび「桜の季節」のICEモデル】



(全10時間)

次	学習内容 (時数)	評 価				評価規準 (評価方法)	資質・能力 (評価方法)
		関	表	技	鑑		
1	単元の見通しを持たせる	課題の設定				<u>関心・意欲・態度</u> ・「人に伝える合唱にすること」に関心を持ち、既習の内容を活用して考えている。 (行動観察)	情報収集力 表現力・コミュニケーション力 (行動観察)
	・人に伝える合唱にするには何をすべきか考えて、積極的に歌唱表現することができる。	◎	○				
2	音取り, 歌詞, 音楽表現と音楽的要素の確認	情報の収集				<u>関心・意欲・態度</u> ・パートの目標をもち、協力し合って音取りをしている。 (ワークシート, 行動観察)	情報収集力 表現力・コミュニケーション力 (行動観察)
	・積極的にパート練習をし、音取りができる。	◎		○			
	・1番の合わせをすることができる。	◎		○		<u>関心・意欲・態度</u> ・パートで協力し合って音取りをし、合唱を合わせられるようにしている。 (ワークシート, 行動観察)	情報収集力 情報活用力 表現力・コミュニケーション力 (行動観察)
	・曲全体の合わせをすることができる。	◎		○		<u>関心・意欲・態度</u> ・パートで協力し合って音取りをし、合唱を合わせられるようにしている。 (ワークシート, 行動観察)	情報収集力 情報活用力 表現力・コミュニケーション力 (行動観察)
	・歌詞の内容や言葉の発音を意識して歌うことができる。	○	◎			<u>表現の創意工夫</u> ・歌詞の内容や、言葉の発音に関心を持ち、相手にわかりやすい発音を意識して表現している。 (ワークシート, 行動観察)	情報収集力 情報活用力 表現力・コミュニケーション力 (行動観察)
	・形式や強弱を意識して歌うことができる。	○	◎			<u>表現の創意工夫</u> ・形式と強弱の関係を理解し、盛り上げるところをしっかりと盛り上げて歌っている。 (ワークシート, 行動観察)	情報収集力 情報活用力 表現力・コミュニケーション力 (行動観察)
3	・伴奏との関わりや、曲全体から考えて、パートに合った歌い方を意識して歌うことができる。	○		◎		<u>技能</u> ・声部の役割や曲全体を生かした音楽表現をしている。 (ワークシート, 行動観察)	情報収集力 情報活用力 表現力・コミュニケーション力 (ワークシート, 行動観察)
	録画したものを聴いて考える。	整理・分析				<u>表現の創意工夫</u> ・音楽を形づくっている要素や、歌詞の内容を相手に伝えることを意識し、想いや意図を持って音楽表現している。 (ワークシート, 行動観察)	情報収集力 情報活用力 表現力・コミュニケーション力 (ワークシート, 行動観察)
	・授業の最後に録音をするために、今までの学習を思い出しながら歌うことができる。		○	◎			
・自分たちの演奏とプロの演奏を比較し、音楽的に足りない部分を分析し、練習に生かすことができる。(本時)			◎	○			
4	パフォーマンス課題	表現・まと				<u>表現の創意工夫</u> ・歌うときの姿勢や、音楽を形づくっている要素、歌詞の内容等でどのように相手に伝えるかを意識し、想いや意図を持って音楽表現している。 (ワークシート, 行動観察)	情報活用力 表現力・コミュニケーション力 (ワークシート, 行動観察)
	・集めた情報を基に、相手に伝える合唱にするにはどのようにすれば良いか考えて、歌唱		◎	○			

表現することができる。							
-------------	--	--	--	--	--	--	--

パフォーマンス課題

育てたい資質・能力	情報収集力, 情報活用力, 表現力・コミュニケーション力
教科の評価基準	人に伝わるための合唱について自分の考えをまとめ, 歌唱表現できる。

パフォーマンス課題のシナリオ

今週末に三和中学校の文化祭があり, みなさんはプログラム3番で全校合唱を披露します。たくさんのお客さんが見に来られます。来てくださったお客さんに感動してもらうためにも, 「人に伝わる合唱」をテーマにどんな合唱を目指すのか考えて歌い, 全校合唱を成功させましょう。

<課題>

①人に伝えるためにどんな合唱にしたらよいか, 今まで学習した内容である「歌詞の内容を伝えるには」と「音楽のバランス」を踏まえ100文字程度でまとめる。

②まとめた内容を実技試験で表現する。

予備的ルーブリック

尺度 (評点, レベル)	記述後 (パフォーマンスの特徴)
3 理想的	目指す合唱について2つ以上の楽譜上の音楽的要素を, 音楽を表す言葉を正確に用いて記述表現し, その内容を踏まえて実技テストで歌唱表現している。
2 合格	目指す合唱について2つ以上の楽譜上の音楽的要素を用いて記述表現し, その内容を踏まえて実技テストで歌唱表現している。
1 乗り越えさせたい実態	目指す合唱について楽譜上の音楽的要素を1つ用いて記述表現し, その内容を踏まえて実技テストで歌唱表現している。

本時の学習

(1) 本時について

本単元末に設定しているパフォーマンス課題に取り組むためには, たくさんの楽譜上の情報の中から自ら何が必要かを選択し, 歌唱表現を通して第三者に伝えるという力が必要である。本時では, 自分たちの演奏を客観的に聴くことによって, 他者へ伝える合唱にするために音楽的に足りないことを考えさせる。

(2) 本時の目標

- 自分たちの合唱とプロの合唱を比較し, 音楽的に足りていないところを分析し, 目標を設定して歌唱表現することができる。



(3) 本時の評価規準

- 分析したことを, 音楽の用語を用いて表現することができる。
- 分析したことを基に目標を設定し, 歌唱表現することができる。

(4) 準備物

- 楽譜, ファイル, ワークシート, 拡大模造紙, 紙, ペン, 録音機, CD

(5) 本時の展開

学習活動	指導上の留意事項 (◇) ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て	評価規準 (評価方法)	資質・能力 (評価方法)
1 ウォーミングアップ [5分]			
○ブレストレーニングをする。 ○「Believe」を手話を付けて歌う。	◇前で手話の手本をする。 ◇姿勢よく、口を大きく開けて、ブレスをしっかり吸って歌わせる。 ◇ペアで対面でさせて、アドバイスをさせる。		
2 課題意識を持つ。 [2分]			
○前回録音した「桜の季節」の出来栄を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 5px;">課題設定</div> ○本時の課題をつかむ	◇既習事項「音楽のバランス」, 「歌詞の内容」を掲示する。		
どこをどのように工夫すれば、相手に伝わる合唱になるか考えて、表現することができ			
3 情報を収集し、解決の見通しをもつ。 [10分]			
○前時に録音した自分たちの演奏と、プロの演奏を比較して聴く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 5px;">個人思考</div> ○ワークシートに「どうすればよいか」を書く。	◇自分たちの合唱を聴く視点 (歌い方, 発声, 言葉の発音, 呼吸法, 強弱, 声の重なり及びバランス) を伝える。 ◇自分たちの演奏とプロの演奏を比較し, 共通点・相違点から工夫したところを見付けさせる。 ◆机間巡視を行い個別に支援する。 ◆書けない生徒については, どこが一番一生懸命歌いたいか, きれいに歌いたいかなど聞き, 考えさせる。		音楽を形づくっている要素を知覚し, それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら, 要素や構造と曲想との関わりを感じ取って, 自分たちの合唱を分析しながら聴くことができる。(ワークシート)
予想① 歌い方 (発声・発音・呼吸法) ・プロに比べて響きが少ないので, 口を縦に開けて歌う。 ・お腹が膨らむまで息を吸って, お腹から声を出す。 ・のどを開く。 ・目を開く。 ・正しい姿勢で歌う。 ・頭のとっぺんから声が出るようなイメージで歌いたい。 ・言葉がはっきり聴こえないので, 最初の言葉をはっきり歌いたい。 ・Sの子音をもっと響かせたい。 ・鼻濁音を意識したい。			

<p>予想② 声の重なり方及びバランス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aはソプラノがメロディーなので、ソプラノが引き立つように歌いたい。 ・Bからはみんな同じリズムで歌うので、息を合わせて歌いたい。 ・Cは曲の山場なので、今までよりもさらにリズムカルに、横隔膜やお腹を意識して歌いたい。 			
<p>予想③ 強弱</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aの部分はアルトとテノールは <i>p</i> のなりに強く聴こえるから、やさしく歌いたい。 ・Bは全員 <i>mf</i> になっているので、全員でAより強く歌いたい。 ・Cからは曲の山場であることが伝わるように歌いたい。 ・曲の終わりは、<i>pp</i> だから、切ない気持ちを消えるように表現したい。 			
<p>4 情報を整理・分析し、課題解決をする。〔28分〕</p>			
<p>集団思考</p> <p>【グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時取り組みたい課題を話し合い、決める。 <p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○グループの意見を発表する。 ○本時取り組むパートの課題として掲示する。 <p>【グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○パート練習をする。 ○全員で合唱する。 <p>個人思考</p> <ul style="list-style-type: none"> ○録音を聴き、ワークシートに気付きを書く。 ○ワークシートに記述したことを意識して、歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇各パートを2グループに分ける。 ◇リーダー中心に話し合わせる。 ◇リーダーには、発言が少ない生徒の発言を促したりして、グループ内で全員が発言できるようにさせる。 ◇全体での話し合いの時間をパートリーダーに伝える。 ◇本時、取り組む課題に対して、パートで表現を工夫させる。 ◇パートの目標に応じた評価をする。 ◇録音をする。 ◇1回目の演奏よりも良くなった点、さらなる改善点を見付けさせる。 ◆机間巡視を行い個別に支援する。 ◇録音をする。 	<p>A・L ①</p> <p>A・L ⑤</p> <p>音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞の内容や曲想、声部の役割や全体の響きを感じ取って音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図を持っている。(ワークシート、観察)</p>	<p>情報活用力 (ワークシート、観察)</p>
<p>5 学習のまとめをする。〔5分〕</p>			
<ul style="list-style-type: none"> ○まとめ、振り返りを書く。 ○次時は文化祭の予行練習で歌うことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇今日の反省や次時に向けて取り組みたいことなど、振り返りの視点を与える。 ◇これからの学習を確認する。 	<p>A・L ④</p> <p>A・L ⑥</p>	

板書計画

音楽のバランス

音色: ハートに合った歌声

旋律: 正確な音取り

音程: 正しい音程

形式: ABCD 構成 (異歩 3部合唱)

テイクアップ: (伴奏(他の声部)の間わり)

歌謡の肉む

口を大きく開け、大きな声で歌う

正しい姿勢で歌う (正しい姿勢、字は喉)

強弱: 一層伝えたいところを大きく

リズム: 感情を込める

本時の目標 どこをどのように工夫すれば、相手に伝わる合唱になるか考えて、表現することができる!

聴くポイント!

- 歌い方
- 発声
- 言葉の発音
- 呼吸法
- 強弱
- 声の連なり
- バランス

ふり送りのポイント

今日の反省や次時に向けて

検 証

検証の方法

- 平成 28 年度 2 学期期末テストの結果を分析する。
- 単元末のパフォーマンス課題，感想文の内容を分析する。

JOCへの提言～オリンピック種目への道～ “マット運動”

本単元で育成する資質・能力

情報収集力, 情報活用力, 表現力

日 時 平成28年12月7日(水) 6校時(14:30~15:20)
 場 所 体育館
 学年・組 第2学年B組(男子9名, 女子8名, 計17名)

単元について

本単元は、学習指導要領(保健体育科)の体育分野の内容

B器械運動(1)ア マット運動をもとに設定したものである。小学校では、技ができることや技を繰り返したり組み合わせたりすることを学習している。中学校ではこれらの学習を受けて、技がよりよくできることや自己に適した技で演技することが求められる。マット運動における第1学年及び第2学年の技能面では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと、それらを組み合わせる運動を通して、技ができる楽しさや喜びを味わい、その技をよりよくすることが求められる。態度面では、マット運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとする、分担した役割を果たそうとすること、また、健康・安全に気を配ることができる知識、思考・判断面では、マット運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫することを通して、技ができる楽しさや喜びを味わうことができる単元である。

○ 学習単元の系統(学習内容の関連)

系	技群	グループ	基本的な技 (主に小5・6で例示)	発展技 (中学校で例示)
回転系	接転	前転	前転 開脚前転	伸膝前転 倒立前転 跳び前転
		後転	後転 開脚後転	伸膝後転 後転倒立
	ほん転	倒立回転 倒立回転とび	側方倒立回転 倒立ブリッジ	側方倒立回転跳び1/4ひねり 前方倒立回転 前方倒立回転跳び
		はねおき	首はねおき	頭はねおき
巧技系	平均立ち	片足平均立ち	片足平均立ち	片足正面水平立ちY字バランス
		倒立	頭倒立 補助倒立	倒立

生徒観

調査結果から、器械運動（マット運動）に対する認識は、苦手意識を抱えている生徒が76%と半数を上回っている。特に、その理由の中で注目したいのが、「やりたくてもできない」と回答した生徒が苦手意識を抱えている生徒のうちの84%であったという点である。「やりたい」「できるようになりたい」という願いが込められた表現から、器械運動（マット運動）に対して、自らの可能性を伸ばしたいと考えていることがわかる。一方で、「楽しくできる」「できるようになったら嬉しい」といったように、肯定的回答も過去の成功体験から学習への期待を抱いている生徒がいた。

技能面については、前転や開脚前転など前に回転する技は得意としているが、後転や開脚後転など後ろに回転する技は恐怖心があり苦手な生徒が多い。

学習内容の「知識」として習得している技の名称は、回転系に偏っており、巧技系に対する定着を図ることができていない。また、「技能」に関する自己評価でも同様に、回転系の基本的な技3種類の定着に止まっている。しかし、「できるようになりたい技」では、苦手意識を抱きながらも、果敢に挑戦し、技能の定着を図ろうとしていることが読み取れる。

指導改善のポイント

【本校の育成しようとする資質・能力】

- 課題発見力 ○課題解決力 ○情報収集力 ○情報活用力 ○表現力・コミュニケーション力
- 主体性・積極性 ○自らへの自信

■単元学習後の具体的な姿に到達するための指導

生徒が課題意識を持ち、主体的に活動に取り組むために、次の（１）～（４）のことに継続して取り組む。

- （１） 自らの動きについて客観的に見られるようICTの活用をする。
- （２） 小グループでの活動を行うことで相手意識を持たせつつ自分の考えをより深めさせる。
- （３） 毎時間の振り返りを行うことで自分の行動を見つめさせ、行動の変容を図る。
- （４） 単元の始めに目指す姿（パフォーマンス課題）を伝え、日々の授業でもパフォーマンス課題を意識させるなど見通しをもって学習を進めさせる。

■広島版「学びの変革」アクション・プラン（アクティブ・ラーニング）の取組について

<主体性>

- 授業の最後に振り返りを書かせる。（A・L視点①）
 - ・ 生徒が本時の学習内容を踏まえ、自己の到達度を把握し、次時への意欲を高め主体性を高める。
- 幅広い難易度の技を紹介し、生徒自ら選択させる。（A・L視点②）
 - ・ 「できた」という成功体験を味わわせ、次の技への意欲を高める。（スモールステップ）
- ICTを活用する。（A・L視点③）
 - ・ ICTを活用し、自分の演技を客観的にみせたり、仲間の演技と比較したりすることで探求心を高め、よりよく技ができるよう挑戦させる。
- 生徒自らに選択させる。（A・L視点④）
 - ・ ワークシートで取り組む課題をいくつか準備し、自ら選択させ取り組ませることを通して責任感や主体性を高める。
- 学んだことを振り返り、表現させる。（A・L視点⑤）
 - ・ 学んだことを踏まえて、他者に伝えさせたり、単元末にパフォーマンス課題に挑戦させたりする。

<協働性>

- 小グループでの教え合いをさせる。（A・L視点⑥）

- ・ よりよい技にしていくために、お互いで技を見せ合ったり、ICTを活用し映像を見せ合ったりすることで協働性を高める。
- 発表の場を多く設ける。(A・L視点⑦)
 - ・ 自分の演技を発表したり、他の生徒の演技を見たりする場を多く設けることで、自分の演技と比較し考えを深めさせるなど、お互いの課題解決に向けての手立てとして協働性を高める。

単元の目標と評価規準

＜単元の目標＞

- ・ 回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと、それらを生み合わせることができるようにする。
- ・ 器械運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとする事、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。
- ・ 器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

＜評価規準＞

(ア) 運動への関心・意欲・態度	(イ) 運動についての思考・判断	(ウ) 運動の技能	(エ) 運動についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・ 技ができる喜びを味わい、その技がよりよくできるようにすることに積極的に取り組もうとする。 ・ 課題となる動き方がよりよくできた際に声をかけるなど、繰り返し練習している仲間の努力やよい演技を認めようとしたり、仲間の演技を援助しようとしている。 ・ 練習などを行う際に、器具の出し入れなどの分担した役割を果たそうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習する技の合理的な動きのポイントを見つけている。 ・ 学習した技から、「はじめなかーおわり」などの構成に適した技の組み合わせを見つけている。 ・ 仲間と学習する場面で、仲間の良い動きなどを指摘している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な技（回転系の接転技群）の一連の動きを滑らかにして回ることができる。 ・ 基本的な技（回転系のほん転技群）の一連の動きを滑らかにして回ることができる。 ・ 基本的な技（巧技系の平均立ち技群）の一連の動きを滑らかにして回ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マット運動の特性や成り立ちについて、言ったり書き出したりしている。 ・ マット運動の技は系、技群、グループの視点によって分類されていることについて、学習した具体例を挙げている。 ・ 器械運動は、それぞれの種目や系、技群、グループにより主として高まる体力要素が異なることについて、言ったり書き出したりしている。

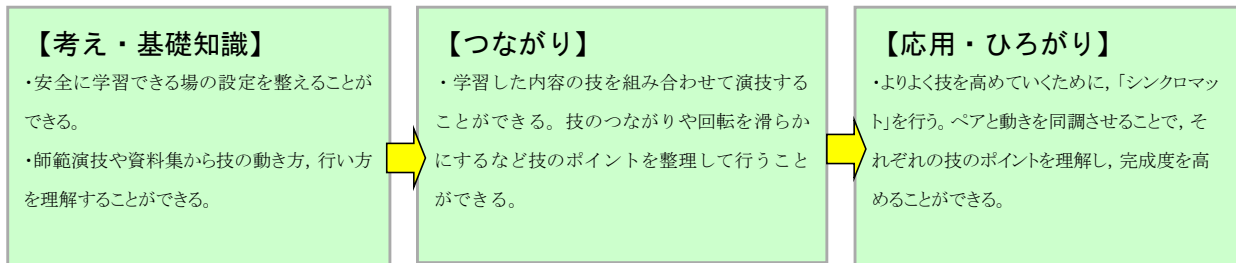
指導と評価の計画

○本単元で身に付けさせたい資質・能力と評価規準

資質・能力	評価規準		
	C	B	A
情報収集力	師範演技や資料集を見て、技の動き方、行い方について	師範演技や資料集を見て、技の合理的な行い方について	師範演技や資料集を見て、技の合理的な行い方や技の

	て理解できる。	て理解できる。	系統について理解できる。
情報活用力	学習内容について、師範演技や自分の映像を見て、よりよく技を磨こうと取り組むことができる。	学習内容について、師範演技や自分の映像を見て、技のポイント理解し、よりよく技を磨こうと取り組むことができる。	学習内容について、師範演技や自分の映像を見て、技のポイントを理解するとともに、効果的な方法を自ら考え、よりよく技を磨こうと取り組むことができる。
表現力	自分の演技について、動き方や行い方をワークシートにまとめることができる。	自分の演技について、良い点、悪い点を見つけワークシートにまとめることができる。	自分の演技について、良い所と悪い所を見つけるとともに、改善策をワークシートにまとめることができる。

【 マット運動 のICEモデル】



(全10時間)

次	学習内容 (時数)	評 価				評 価 規 準 (評価方法)	資 質 ・ 能 力 (評価方法)
		関	思	技	知		
1	既習事項の確認をする	課題の設定				・自己の運動能力について理解できる。 (行動観察)	課題発見力 (行動観察)
	・パフォーマンス課題について知る。	○					
2	基本的な技の定着を図る	情報の収集				・基本的な技について、技のポイントを理解できる。(ワークシート)	情報収集力 (ワークシート)
	・基本的な技について動きのポイントを理解する。	◎					
	基本的・発展的な技に挑戦する	情報の収集				・発展技について、技のポイントを理解できる。(ワークシート)	情報収集力 (ワークシート)
	・様々な発展技について技のポイントを理解する。	◎					
基本的・発展的な技に挑戦する	情報の収集				・グループで技のポイントを教え合い、完成度を高めることができる。(行動観察)	情報収集力 (行動観察)	
・教え合い活動を通して技の完成度を高める。			◎				
3	シンクロマットに挑戦する	情報の収集				・ペアで協力して、積極的にシンクロマットに挑戦することができる。(行動観察)	情報収集力 (行動観察)
	・できる技が同じ人とペアを組みシンクロマットに挑戦する。	◎					
	できる技を組み合わせで行う	情報の収集				・できる技から選択してペアで技を組み合わせることができる。(行動観察)	情報収集力 (行動観察)
・ペアで話し合い、技の組み合わせを考える。			○				
4	技の組み合わせ、つながりを考える	整理・分析				・技の組み合わせやつながりについてペアで考え工夫することができる。	情報活用力 (行動観察)
・技の組み合わせ、つながりについて考え、実践する。			◎				

	グループ活動	整理・分析							
	・グループで技の組み合わせやつながりについて考え、実践する。 (本時)		◎					・技の組み合わせやつながりについてグループで教え合い、技をよりよくする方法を理解することができる。 (ワークシート)	情報活用力 (ワークシート)
	パフォーマンス課題	表現・まとめ							
	・技の完成度を高める。		◎					・既習事項をもとに技をよりよくするために意欲的に取り組むことができる。	情報活用力 (行動観察)
5	パフォーマンス課題	表現・まとめ							
	・JOCに披露する技を全体で発表する。 パフォーマンス課題				◎			・技を組み合わせ、滑らかに技を行うことができる。	表現力 (行動観察・ワークシート)

パフォーマンス課題

育てたい資質・能力	情報収集力, 情報活用力, 表現力
教科の評価規準	回転系, 巧技系から基本的な技, 発展技を習得し, それらの技を組み合わせ滑らかに演技することができる。

パフォーマンス課題のシナリオ

<p>IOC (国際オリンピック委員会) から全世界にオリンピックの新種目が募集されました。認定されるにはまずJOC (日本オリンピック委員会) の審査を通らねばなりません。そこで、三和中学校は体育の授業で行った「シンクロマット」を応募しようと思います。新種目に認定されるために、JOCを納得させるパフォーマンスを披露する必要があります。どのようなパフォーマンスをすればJOCを納得させ、新種目に認定されると思いますか。以下の条件を踏まえてパフォーマンスを考えてください。</p> <p>① 3つの技を組み合わせる。 ② 進行方向を一定方向にする。 ③ 必ず2人組で行う。</p>
--

予備的ルーブリック

尺度 (評点, レベル)	記述語 (パフォーマンスの特徴)
3 理想的	3つの技で構成され, つながりを意識した技の順番で滑らかに行い, ペアで正しいフォームで揃えて実践することができる。
2 合格	3つの技で構成され, つながりを意識した技の順番で滑らかにペアで演技を実践することができる。
1 乗り越えさせたい実態	1つ, 又は2つの技で構成され, 組み合わせた技を実践することができる。

本時の学習

(1) 本時の目標

- ・技の組み合わせ, つながりについて考え, 技をよりよくするための方法が理解できる。

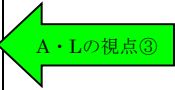
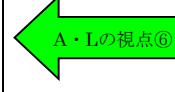
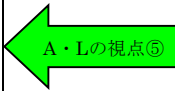
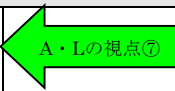
(2) 本時の評価規準

- ・技をよりよくするためのポイントを理解することができる。(思考・判断)

(3) 準備物

- ・ワークシート, テレビ×3, パソコン×3, デジタルカメラ×3

(4) 本時の展開

学習活動	指導上の留意事項 (◇) ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て	評価規準 (評価方法)	資質・能力 (評価方法)
1 学習内容の確認をする [5分]			
<ul style="list-style-type: none"> ・準備体操をする。 ・補強運動をする。 ・学習の流れを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ケガをしやすい部位を入念に行わせる。(首, 手首) ◇マット運動に事前練習となる補強運動を行う。(馬跳びリレー) ◇ホワイトボードに本時の流れを掲示し確認させる。 		
2 課題の設定をする。 [2分]			
<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習内容を振り返り自分たちのペアの課題を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇各ペアで前時のワークシートから課題を確認させる。 <div data-bbox="555 913 943 1055" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 課題となる視点 ① 技の組み合わせ ② つながり </div>		
シンクロマットを1UPさせるにはどうしたらよいかわかる。			
3 課題解決に向けて練習する。 [22分]			
<ul style="list-style-type: none"> ・グループ練習を行う。ペアで演技を撮影し合いながら, ペアで考えたり, 他ペアに意見をもらったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇技を滑らかに行うためにどのように技を組み合わせつなげればよいか, ペアとのタイミングをどのように合わせばよいかについて教え合い, 実践させる。 ◆実際に演技を見せてイメージを持たせる。 		
4 動きのポイントをまとめる。 [10分]			
<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ・パソコンを活用し, 前時の映像と本時の映像を比較し, 改善点についてまとめる。(前時の動画がない生徒は師範の動画から考える) 	<ul style="list-style-type: none"> ◇映像を比較しながら, 前回からよくなった点, 改善点されていない点について考え, 技をよりよくするための工夫点をワークシートにまとめさせる。 		
5 発表する。 [8分]			
<ul style="list-style-type: none"> ・シンクロマットの改善点について2ペア発表をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇話型にはめて発表させる。 <div data-bbox="400 1749 1066 1906" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> ①前時の動画から～であることがわかる。 ②また, 本時の動画から～であることがわかる。 ③これらのことから～であることがわかる。 </div>		情報活用力 技をよりよくするためのポイントを理解することができる。
6 本時を振り返り, 次時につなげる。 [3分]			
<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに自己評価をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇次時の予告をする 		

板書計画

本時のめあて

シンクロマットをよりよく魅せるにはどうしたらよいか説明できる。

学習の流れ

- ①準備運動・補強運動
- ②課題発見
- ③実践
- ④分析
- ⑤まとめ・発表

改善ポイント

- ①組み合わせはどうか
- ②つながりはどうか
(連動しているか)

シンクロマットをよりよく見せるには

技の組み合わせ

- ・倒立系から後転はつながりが難しい（生徒の意見を書く）

つながり

- ・方向を変えるとき、回れ右やジャンプより回転途中に変化をもたらす方が見栄えが良いし滑らかである。（生徒の意見を書く）

検 証

- 平成 28 年度学年末テスト問題の結果を分析する。

材料と加工法(木材の特徴－木質資源の有効利用－)

本単元で育成する資質・能力

「課題設定・解決力」「情報収集・活用力」「表現力・コミュニケーション力」

日時 平成28年6月28日(火) 5校時(14:00～14:50)
 場所 1年A組教室
 学年・組 第1学年A・B組(男子16名, 女子9名, 計 25名)

単元について

本単元では、この(2)アについて、技術が生活の向上や産業の継承と発展に果たしている役割や技術の進展と環境との関係について考えることを通して、現代社会で利用されている技術について関心をもたせることをねらいとしている。また、同時に、材料と加工に関する技術が社会や環境に果たす役割と影響について理解を深め、それらを適切に評価し活用する能力と態度を育成することをねらいとしている。

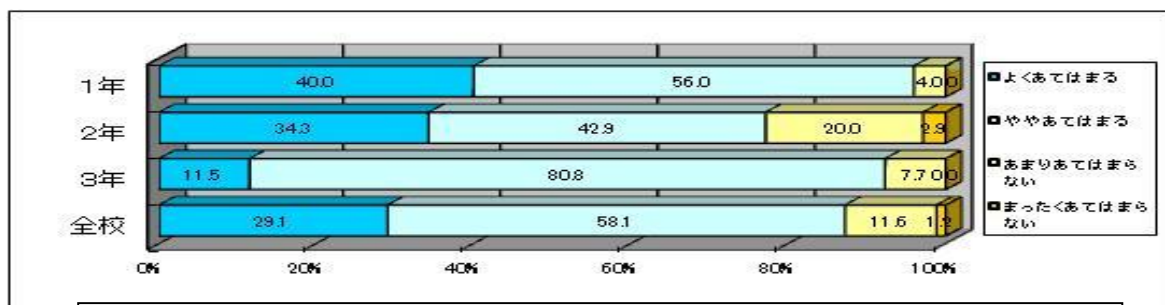
中学校学習指導要領の「A材料と加工に関する技術(2)材料と加工法について、次の事項を指導する。ア材料の特徴と利用法を知ること。」とある。本授業では、社会で利用されている木質材料の特徴とそれらを生かした利用法について知ることができる。

木質材料の利用法について課題を設定し、情報収集を行い、シンキングツール等を活用し課題の解決をする授業としている。このように、本授業は課題設定、情報収集、活用力の力をつけることに適している。

生徒観

本学級生徒は、本年度5月実施アンケートでは、「技術授業では、解決しようとする課題について、『なぜだろう』、『やってみたい』と思います。」の項目において、よく当てはまる40%、やや当てはまる56%の回答をしている。しかし、5月以降の技術の授業において課題解決の意欲はあるが根拠を示した課題解決のための手段の説明ができていない。また、今後の製作実習においては、製作中の自分の課題を発見し習得した知識、技能を用いて解決を行ったり、課題解決の手段として他の生徒との協力や教師への分かりやすい質問を行うことができる力を持つ必要がある。このようなことから、課題や解決方法の発見する力や説明できる力を持つ必要があると考える。

また、本単元の狙いである、材料と加工に関する技術が社会や環境に果たす役割と影響について理解を深め、それらを適切に評価し活用する能力と態度を育成することに繋がる。



平成28年度 5月 三和中学校(生徒質問紙)回答集計

技術の授業では、解決しようとする課題について「なぜだろう」、「やってみたい」と思います

指導改善のポイント

【本校の育成しようとする資質・能力】

- 課題設定・解決力 ○情報収集・活用力 ○表現力・コミュニケーション力
 ○主体性・積極性 ○自らへの自信

生徒が課題意識を持ち、めあてを設定したり、既習事項や教科書や副教材等から習得したことを用いて説明したり、記述したりできるようにするために、日々の授業において、次の(1)～(4)のことを継続して取り組む。

- (1) 課題設定の場面で、身近なことと関連付けて生徒に疑問や違和感、必要性等を持たせる工夫をし、生徒自らの課題意識へとつなげ、「めあて」を持たせる。
- (2) 個人思考の場面では、自分の考えを教科書や副教材等の資料から習得したことや根拠に基づいた理由とともにノートに記述させる。
- (3) 集団思考の場面では、
 - ① 発言者には、様々な知識、技能について習得したことを、用語を用いて、自分の考えを説明させる。
 - ② 聞く側には、他者の考えを自分の考えと比較させ、積極的な発言ができるよう働きかける。
- (4) 授業のまとめの場面では、その時間の目標(課題)に対する答えを、生徒の言葉で説明させる。

■小学校及び既習との連続性を生かした指導

生徒が小学校における図画工作科などにおいて習得したものづくりに関する基礎的・基本的知識及び技能を踏まえ、中学校での学習の見通しを持たせるよう配慮する。

■広島版「学びの変革」アクション・プラン(アクティブ・ラーニング)の取組について(4つのプロセス)

<主体性>

- 導入において、意外な事例や資料を見せる。(A・L視点①) **課題設定**
 - ・ 生徒が「なぜだろう?」と考えようとする必然性を与えることで探究心に火をつけ、生徒の主体性を引き出す。今回の授業では、木材の一般的な特徴の中の繊維の方向による強度の違いを確認させる場面を作ることで、木質材料の特徴を生かした利用法を理解させる意欲を持たせる手段としている。
- 教科書にある資料を活用し、情報を収集して根拠に基づいた理由とともにまとめる。(A・L視点②) **情報収集**
 - ・ 教科書にある資料から、積極的に情報を収集し、主体的に課題解決を図ろうと探究する態度を養う。
- 身近なことと関連づけて興味をもたせる。(A・L視点③) **整理・分析**
 - ・ 日常生活と結びつけた教材を扱うことで、興味や関心を高め、生徒の学習の主体性を高める。例えば、自宅の建材や校舎の内壁などの材料が何で作られているのかなど、生活とのつながりと関連付ける。
- 授業の最後に振り返りを書かせる。(A・L視点④) **まとめ・創造・表現**
 - ・ 生徒が自分自身の成長を感じたり、自分が学んだことの意味を理解したりすることで学ぶことへの主体性を高める。

<協働性>

- 意図的にグループで話し合いをさせる。(A・L視点⑤) **まとめ・創造・表現**
 - ・ 他の生徒の話をしっかり聞かせたり、自分の考えを説明させたりすることで、一人では到達できなかった深い思考に到達することができ、生徒と生徒の協働性を高めることができる。
- 学習の振り返りをさせる。(A・L視点⑥) **まとめ・創造・表現**
 - ・ 授業の最後に振り返りを書かせることで、生徒の理解度を把握したり、教師自らの授業を振り返るきっかけとしたりすることで教師と生徒の協働性を高める。

課題
<p>【指導上の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○課題設定の場面において、生徒が主体的に考えた課題設定となっていない。 ○授業での発問や試験での記述問題に対して、資料等をもとに考察したり、用語を用いて正確に記述したり説明したりすることに課題のある生徒がいる。 ○その原因として、複数の事象を有機的に関連付けて考えること、自分の考えを整理すること、事実や根拠に基づいた理由付けをする力が育っていないこと、適切な用語を使って正確に表現できないことなどが考えられる。

指導改善のポイント
<p>【指導の工夫】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 課題設定の場面で、生徒に疑問や違和感、必要性等を持たせる工夫をし、生徒自らの課題意識へとつなげ、「めあて」を持たせる。 (2) 個人思考の場面では、自分の考えを教科書や副教材等の資料から習得したことや根拠に基づいた理由とともにノートに記述させる。 (3) 集団思考の場面では、 <ol style="list-style-type: none"> ①発言者には、様々な知識、技能について習得したことを、用語を用いて、自分の考えを説明させる。 ②聞く側には、他者の考えを自分の考えと比較させる。 (4) 授業のまとめの場面では、その時間の目標(課題)に対する答えを、生徒の言葉で説明させる。

単元の目標と評価規準

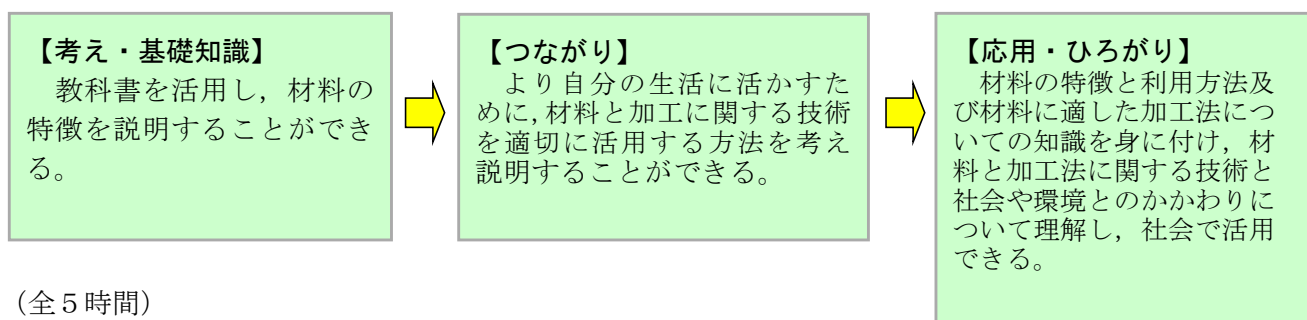
<単元の目標>

- ・材料の基本的な特徴を調べ、その特徴を生かした利用法を知る。
- ・材料に適した加工法を知り、工具や機器を安全に使用できる。

<評価規準>

ア 生活や技術への関心・意欲・態度	イ 生活を工夫し創造する能力	ウ 生活の技能	エ 生活や技術についての知識・理解
よりよい社会を築くために使われている、材料と加工に関する技術を調べようとしている。	よりよい社会を築くために、材料と加工に関する技術を適切に評価し活用している。	工具や機器を安全に使用できる。	材料の特徴と利用方法及び材料に適した加工法についての知識を身に付け、材料と加工法に関する技術と社会や環境とのかかわりについて理解している。

指導と評価の計画



次	学習内容	評 価				評価規準	資質・能力
		関	工	技	知		
1	1 材料と加工に関する技術について知ろう	◎		○		関心・意欲・態度 身の回りの製品に使われている材料について、意欲的に調べようとしている。 知識・理解 身の回りの製品の使用目的や使用条件に適した材料についての知識を身に付けている。	情報収集
2	2 材料の特徴を知ろう	◎		○		関心・意欲・態度 木材、金属、プラスチックなどの特徴を調べ、その特徴ごとにまとめようとしている。 知識・理解 木材、金属、プラスチックなどの特徴と、実際の製品での特徴を生かした利用方法についての知識を身に付けている。	情報収集
3 5	技術のとびら ・木材の一般的な特徴				◎	知識・理解 木材の基本的な特徴と、その特徴を生かした利用方法についての知識を身に付けている。	情報収集

3 5	・木質資源の有効利用		◎	知識・理解 木質材料の種類や有効利用の流れなどの基本的な特徴と、社会での利用方法や製造方法などについての知識を身に付け、説明することができる。	課題設定・情報収集・活用力 (観察・マトリックス)
	・金属の一般的な特徴		◎	知識・理解 金属の基本的な特徴についての知識を身に付けている。	情報収集
	・鉄鋼材料 ・プラスチックの一般的な特徴 ・プラスチックの種類		◎	知識・理解 金属の基本的な特徴を生かした利用方法についての知識を身に付けている。 ◎ 知識・理解 プラスチックの基本的な特徴についての知識を身に付けている。 ◎ 知識・理解 プラスチックの種類と、その特徴を生かした利用法についての知識を身に付けている。	情報収集
6	3材料に適した加工法を知ろう ・材料と目的とする加工に適した工具や機器 ・製作の工程と材料に適した工具や機器		◎	生活を工夫し創造する能力 材料と目的とする加工に応じた工具や機器についての知識を身に付け、適切に選択できる。 生活の技能 材料と目的とする加工に応じた工具や機器を安全に使用できる。	課題設定・解決力 情報収集・活用力

本時の学習

(1) 本時の目標

木質材料の基本的な特徴を理解し、その特徴を生かした利用方法を説明できる。

(2) 本時の評価規準

木質材料の基本的な特徴とその特徴を生かした利用法について理解し、説明できる。(エ：生活や技術についての知識・理解)

(3) 準備物

教師：マトリックスシート、他

生徒：教科書、ノート

(4) 本時の展開

学習活動	指導上の留意事項 (◇) ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て	評価規準 (評価方法)	資質・能力 (評価方法)
1 前時の学習内容を確認する。〔5分〕			
○木材の特徴	◇木材の一般的な特徴。 ・繊維の方向で強さが違う。 ◇木質材料の種類と特徴。		
2 本時の課題を発見する。〔10分〕			
○木質資源の有効利用	◇木材・木質材料の特徴を確認させるための木材片を配る。 ◇触って強度や特徴を確認する。	← 指導改善のポイント(1)	

<p>○課題を把握する。</p> <p>課題の設定</p>	<p>◆強度や特徴をしっかりと確認しているか机間指導を行う。</p> <p>◇繊維の方向によっては壊れてしまうことを実験で確認する。</p> <p>◇確認実験をした材料を回収して、捨てようとする中で課題を見つけさせるきっかけとする。</p> <p>◇生徒に課題を見つけさせる。</p>		
<p>もったいない。どうにか利用できるものがないか。木質材料の材料にならないか。</p>		<p>課題設定</p> <p>A・L①</p>	
<p>本時の目標：木質材料の特徴を生かした利用方法が説明でき</p>			
<p>情報の収集</p>			
<p>3 情報を収集し、解決の見通しをもつ。〔5分〕</p>			
<p>○どんな利用方法があるのか考えさせる。</p> <p>整理・分析</p>	<p>◇・ノートにまとめさせる</p> <p>◆事前に学習した木材の特徴を確認させる。</p> <p>◇木質材料の種類を発表させる。</p>	<p>指導改善のポイント(2)</p>	<p>情報収集</p>
<p>4 情報を整理・分析し、課題解決をする。〔20分〕</p>			
<p>○シンキングツールを使ってまとめる。</p> <p>まとめ・表現</p>	<p>◇それぞれの木質材料の長所、短所、活用方法を班でまとめさせる。</p> <p>シンキングツールの活用 (マトリックスシート)</p> <p>◇個人志向→班での意見交換→全体への発表の流れで話し合い活動を行わせる。</p> <p>◇司会、書記、発表者を決めさせる。</p>	<p>A・L⑤</p>	<p>活用力、解決力 (観察・マトリックス)</p> <p>指導改善のポイント(3) ①</p>
<p>5 学習のまとめをする。〔5分〕</p>			
<p>のまとめをする。</p>			
<p>人々は、木質材料の「木材の弱点を補う」特徴を生かした利用をしている。</p>		<p>A・L④</p>	
<p>○まとめを発表する。</p> <p>新たな課題の設定に向けて</p>	<p>◇2～3班を指名し発表させる</p>	<p>・木質材料の特徴と活用法を説明している。</p>	<p>活用力 (観察・ノート)</p>
<p>6 本時を振り返り、次時につなげる。〔5分〕</p>			

○分かったことと新たな疑問をノートに記述する。 ○次時の学習内容を確認する。	「応用・ひろがり」を意識した発問 ・人々は木材以外にもいろいろな材料を利用している。どんな利用方法をしているのだろうか。」		活用力 (観察・ノート)

板書計画

本時の目標	木質材料の特徴を生かした利用方法が説明できる。		
<p>教科書 P26～27</p> <p>木材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再生可能な資源。 ・無駄なく有効に利用。 <p>木質材料に使われている技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな材料を作る。 ・強度を高める ・変形を少なくする。 <p style="text-align: center;">↓</p> <p>木材の欠点を補う技術</p>	<p>2班</p> <p>マトリックス シート</p>	<p>4班</p> <p>マトリックス シート</p>	<p>6班</p> <p>マトリックス シート</p>

マトリックスシート

	ファイバーボード	パーティクルボード
製造するための材料		
いい所		
活用できそうな商品		

Lesson 5 "Our New Friend"

本単元で育成する資質・能力

情報収集力, 情報活用力, 表現力

日 時 平成 28 年 10 月 12 日 (水)
 場 所 1A 教室
 学年・組 第 1 学年 A 組 (男子 15 名, 女子 9 名, 計 24 名)

単元について

本単元は、学習指導要領（外国語）の「ア 聞くこと」の指導事項（ア）「強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく聞き取ること。」や「エ 書くこと」の指導事項（ウ）「聞いたり読んだりしたことについてメモを取ったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどすること。」及び（オ）「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。」をねらいとしており、新出言語材料としては、疑問詞の *who*, *where*, *when* 及び代名詞の目的格である *him* や *her* が挙げられる。

本文では、メイリンのクラスにインドからの留学生であるラージが転校して来て、メイリンやエマがラージに各教科の先生や自らが所属する部活動の活動の様子を紹介する場面が書かれており、半年前に中学校という新しい環境での生活が始まった生徒にとっては、身近で考えやすい題材である。また、本文の中から転校してきたばかりのラージがクラスメイトに部活動の日程や練習場所をどのように尋ねているのかを読み取らせたり、相手に尋ねた内容に対してメモを取る等の活動を通して、要点を抜き出し、簡潔に情報を整理する力を身に付けさせたりすることができる。

生徒観

本学年の生徒は「聞くこと」において課題が見られる。平成 28 年度 1 学期中間試験では、下の英文の聞き取りに関する問題において、課題があった。

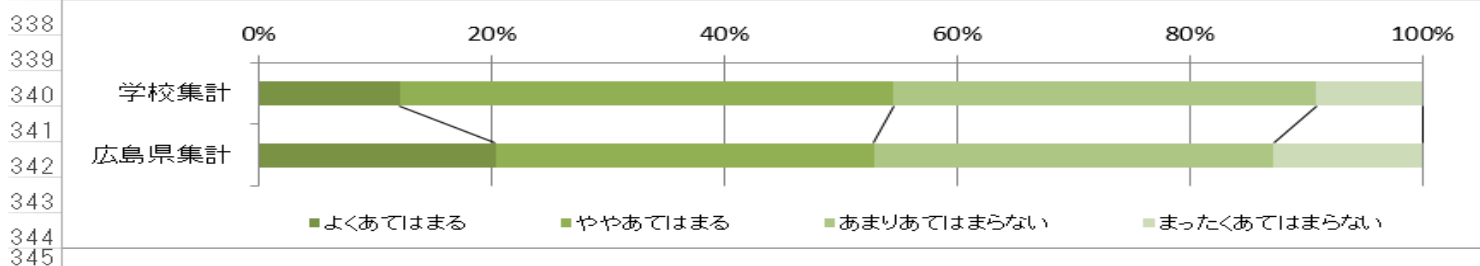
会話を聞いて、会話の最後のチャイムの部分に入る応答として適するものを 1 つずつ選び、記号で答えなさい。

- | | |
|--|---|
| (1) Oh, I'm hungry. I'm hungry too.
What time is it now? | (3) What do you have in your hand, Mike? This is a book about music.
What music do you like? |
| ア Yes, it is. | ア I like rock. |
| イ No, I don't. | イ I don't sing. |
| ウ It's eleven o'clock | ウ It's for you. |
| (2) Is that your <i>bento</i> , John? Yes, it is. I like <i>onigiri</i> . Do you like Japanese food? | (4) What is that in your bag, Jiro? I have a soccer ball. Do you play soccer? |
| ア You're welcome. | ア No problem. |
| イ Yes, I do. | イ I don't have it. |
| ウ Here you are. | ウ I play it every day. |

(%)

(1)	正答 (ウ)	誤答 (ア)	誤答 (イ)	(3)	正答 (ア)	誤答 (イ)	誤答 (ウ)
	40.2	31.8	28.0		30.2	57.8	12.0
(2)	正答 (イ)	誤答 (ア)	誤答 (ウ)	(4)	正答 (ウ)	誤答 (ア)	誤答 (イ)
	18.7	28.6	52.7		42.4	30.9	26.7

特に正答率の低い(2)について、スクリプトは Is that your bento, John? Yes, it is. I like *onigiri*. Do you like Japanese food? となっている。この誤りは直前の Do you like Japanese food? 「あなたは日本食が好きですか。」という発問に対して、Here you are. 「これをどうぞ。」という単純な意味のつながりから引き起こされていると推測される。また、平成 28 年度の「基礎・基本」定着状況調査においても「英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについてメモを取ったり、感想や意見などを話したり書いたりしています。」という質問項目に対する肯定的評価が 54.5%となっており(表 1)、リスニングをする際にメモを取る習慣が薄いという点が全学年に共通する課題であると言える。



指導改善のポイント

【本校の育成しようとする資質・能力】

- 課題発見力 ○課題解決力 ○情報収集力 ○情報活用力 ○表現力・コミュニケーション力
- 主体性・積極性 ○自らへの自信

■単元学習後の具体的な姿に到達するための指導

生徒が主体的に読んだり、英語を話したりできるようにするために、日々の授業において、次の(1)～(4)のことに継続して取り組む。

- (1) 授業の開始時にはインプット活動(単語)をペアで繰り返し行うことで、基礎的・基本的な知識の定着を図る。また、単語のインプットシートにはその単元で学習する単語を全て網羅することで、見通しを持って学習に取り組ませる。
- (2) 本文の内容理解においては、事実を問う発問だけでなく、登場人物の気持ちや書かれていることから推測して答える発問も取り入れ、深い読みをさせる。その際、情報の聞き取りを行う際にはメモを取る習慣を付けさせる。
- (3) 生徒にとって身近な場面や興味を持ちそうな場面を設定することで、課題に対する興味ややる気を出させる。また、少しレベルの高いゴールをパフォーマンス課題として設定することで、達成感を味わわせ、自らへの自信へとつなげる。
- (4) 単元始めに単元終わりに目指す姿(パフォーマンス課題)を伝え、単元を通じてパフォーマンス課題を意識させることで、「どのような学習をしていくのか」「自分はこの単元で何を身に付けなければならないか」を考えさせ、見通しをもって学習を進めさせる。

■広島版「学びの変革」アクション・プラン(アクティブ・ラーニング)の取組について

<主体性>

- 授業の最後に振り返りを書かせる。(A・L視点①)
 - ・ 生徒が自分自身の成長を感じたり、自分が学んだことの意味を理解したりすることで学ぶことへの主体性を高める。

- 身近な素材や興味を持つ場面設定で興味をもたせる。(A・L視点②)
 - ・教科書の学習内容を活用し、生徒にとって身近な場面や「おもしろそう」と興味を持つような場面を設定することにより生徒の主体性を高める。
- 生徒自らのアイデアを生かす。(A・L視点③)
 - ・学習後に新出文法を用いたオリジナル文を口頭及び筆記で練習し、それを小テストの問題の一部に採用する。そうすることで、学んだことを活用し、表現しようとする意欲を高める。
- 生徒自らに選択させる。(A・L視点④)
 - ・ワークシート(授業で用いるプリント)にはヒントありとヒントなしの2つのパターンを毎回用意する。生徒は自らのレベルに合わせて選択し取り組むことで学力に合わせた学習ができる。
- 学んだことを振り返り、他者に伝えさせる。(A・L視点⑤)
 - ・学んだことを踏まえて、他者に伝えさせたり、単元末にパフォーマンス課題に挑戦させたりする。スピーチやインタビューといった表現課題を設定することで、英語を用いて積極的に自分の意見を述べる力を育成する。

<協働性>

- 意図的にペアやグループで話し合いをさせる。(A・L視点⑥)
 - ・他の生徒の考えを聞かせたり、自分の考えを説明させたりすることで、一人では到達できなかった深い思考に到達することができ、生徒同士の協働性を高めることができる。また、疑問に感じたことを教師だけでなく、ほかの生徒に聞いたり教え合ったりすることで、生徒同士の関係性も高める。
- 自分の意見を発表する場を設ける。(A・L視点⑦)
 - ・自分の意見を発表したり、他の生徒の意見を聞いたりする場を多く設けることで、様々な生徒の意見を受け入れる雰囲気を作り、アイデアや発見を得て、さらに考えを深めさせる。

単元の目標と評価規準

<単元の目標>

- ・疑問詞の **who, when, where** や代名詞の目的格である **him** 及び **her** の文構造を理解するとともに、時や場所並びに人物を尋ねる質問を行う事ができる。
- ・聴き取った情報を基に、自分のことに置き換えて文を作ることができる。

<評価規準>

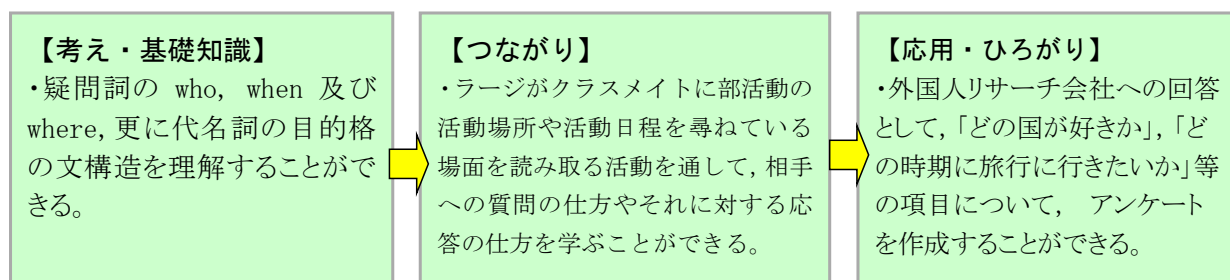
ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
・イントネーションに注意して、ジェスチャー等を用いながら相手に伝えることができ、かつ聞き手はメモを取りながら話し手の情報を聴くことができる。	・用いられた疑問詞に応じて適切に応じたり、正しい文を書いたりすることができる。	・会話文を読んで、その概要や要点を読み取ったり、質問が行われる背景を理解したりすることができる。	・疑問詞や代名詞の目的格の文構造を理解している。

指導と評価の計画

○本単元で身に付けさせたい資質・能力と評価規準

資質・能力	評価規準		
	C	B	A
情報収集力	英文を聞いたり、本文を読んだりすることによって、その概要をキーワードを用いて捉えることができる。	チャンクに注意しながら英文を聞いたり、フレーズ毎に区切って本文を読んだりすることによって、日本語の質問に答えることができる。	チャンクに注意しながら英文を聞いたり、フレーズ毎に区切って本文を読んだりすることによって、代名詞が指し示す内容まで理解することができる。
情報活用力	学習した内容やそのモデルを活用して、語句を替えるなどして相手への質問やその回答を話したり書いたりすることができる。	学習した内容やそのモデルを参考に相手への質問を口頭及び記述することができ、かつその回答に自身の理由を付加することができる。	学習した内容やそのモデルを参考に相手への質問を口頭及び記述することができ、かつその回答に自身の調べたデータ等を踏まえた理由を付加することができる。
表現力	場所や時間を尋ねる英文を相手に伝え、また文としても書くことができる。	場所や時間を尋ねる英文を発音やイントネーションに気を付けながら相手に伝え、また正しいスペルで文としても書くことができる。	場所や時間を尋ねる英文を発音やイントネーションに気を付けながら、ジェスチャー等も用いながら相手に伝え、また正しいスペルで書くことができる。

〔Lesson 5“Our New Friend”の I C Eモデル〕



(全 10 時間)

次	学習内容 (時数)	評 価				資質・能力 (評価方法)
		関	表	理	知	
1	単元の見通しを持たせる 課題の設定					
	・パフォーマンス課題について知る。				○	・リサーチ会社への回答を行う上で、どのような質問項目を盛り込めばよいかを考えることができる。 課題発見力 (ワークシート, 行動観察)
	新出文法, 本文読解 情報の収集					
	・疑問詞whoの文構造を理解する。		○		◎	疑問詞whoを用いて、「こちらは誰ですか。」という文を英語で書くことができる 情報収集力 (ワークシート)

					情報の収集				。(ワークシート))
				○	・質問が行われている背景を読み取る。				メイリンが丘先生に” Who is that boy?”と学校で見かけた見知らぬ男の子の情報を読み取ることができる。(ワークシート)	情報活用力 (ワークシート)
				○	・代名詞の目的格の文構造を理解する。			◎	代名詞の目的格を用いて、人物を尋ねる質問への回答を英語で書くことができる。(ワークシート)	情報収集力 (ワークシート)
2				○	・ラーズが各教科の先生を紹介している場面を読み取る。				代名詞がどの教科の先生のことを指すのかを読み取ることができる。(ワークシート)	情報収集力 (ワークシート)
				○	・疑問詞whenとwhereの文構造を理解する。			◎	whenとwhereを用いた疑問文、及びその回答を書くことができる。(ワークシート)	情報収集力 (ワークシート)
				○	・新出疑問詞であるwhere及びwhenの疑問文の作り方と回答の仕方を、背景ごとに復習する。				Where及びwhenを用いた疑問文の発音方法や答え方を復習することができる。	情報活用力 (ワークシート)
				○	・疑問詞を用いたインタビューを行う。(本時)				・疑問詞を用いてインタビューをし、情報を集めることができる。(ワークシート)	情報活用力 (ワークシート・行動観察)
3				○	パフォーマンス課題 ・インタビューをしたメモを参考にして、アンケートへの回答を書く。パフォーマンス課題				外国人が経営するリサーチ会社の嗜好調査への回答を書くことができる。(ワークシート)	表現力 (ワークシート)

パフォーマンス課題

育てたい資質・能力	情報収集力, 情報活用力, 表現力
教科の評価規準	外国人が経営するリサーチ会社の、中学生の嗜好調査への回答(アンケート)を書くことができる。

パフォーマンス課題のシナリオ

<p>藤井先生の友人である、ピースさんは日本人の文化を調べる会社に勤めています。先日彼女から、「日本の中学生の実態が知りたい」という依頼を受けました。そこで、自分たちでアンケートの質問項目を考え、リサーチ会社にその回答を提出しましょう。</p> <p>ただし、次の条件を入れてください。</p> <p>① 質問項目はこの単元で学んだ疑問詞who, when, whereのうち2つ以上を入れて考えること。</p> <p>② それぞれの質問項目について、3文以上の回答を書くこと。</p>

予備的ルーブリック

尺度 (評点, レベル)	記述語 (パフォーマンスの特徴)
3 理想的	各質問事項について、自身の経験や入手したデータ等を踏まえながら、3文以上で回答を書くことができる。
2 合格	各質問事項について、自身の経験を踏まえながら3文以上で回答を書くことができる。
1 乗り越えさせたい 実態	各質問事項について、主語と動詞を伴った文を用いて回答を書くことができる。

本時の学習

(1) 本時について

本単元末に設定しているパフォーマンス課題に取り組むためには、適切な発音及びイントネーションで相手に質問する力、更に聞き取ったメモを参考に文を書くという力が必要である。本時では、相手へのインタビュー活動を通して、メモを取らせる力及びそのメモを参考に文を書く力を身に付けさせる。

(2) 本時の目標

- ・アンケートを作成し、相手の回答を聞き取り、メモを取ることができる。

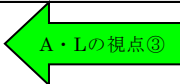
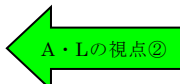
(3) 本時の評価規準

- ・疑問詞を用いて各項目ごとに質問をし、また相手の回答を聴いてメモを取ることができる。

(4) 準備物

- ・教科書、ファイル、ワークシート、スクリーン、パソコン、辞書、ホワイトボード

(5) 本時の展開

学習活動	指導上の留意事項 (◇) ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て	評価規準 (評価方法)	資質・能力 (評価方法)
1 Warm-up [5分]			
<ul style="list-style-type: none"> ・ Vocabulary input を行う。 ・ Showing card activity を行う。 	◇生徒一人一人に発声を行わせることにより、声量やイントネーションを意識させる。 ◆机間指導を行い、適切な発音やイントネーションなどを指示し、繰り返させる。		
2 単元のゴールへの見通しをもつ。 [5分]			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題をみつける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;"> 3 課題の掲示 </div>	◇外国人が経営する日本の文化を調べる会社からの依頼のビデオレターを見せることで、アンケートに回答するための情報を集めなければならないということを意識させる。 ◇外国人からの依頼であるため、英語で回答しなければならないという必然性を持たせる。		
アンケートを作成し、相手の回答を聞き取り、メモを取ることができる。			
4 質問文を考えて書く。 [10分]			
<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケートで行う質問文を4個以上書く。 	◇前時で学習したワークシートを参考に質問文を作らせる。 ◆黒板にwhen, whereを用いた疑問文の例を掲示し、それを見るように指示する。		

5 インタビュー活動を行う。〔15分〕			
<ul style="list-style-type: none"> 作成した質問文を用いて、クラスでインタビュー活動を行う。 インタビューで取ったメモを参考に、文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇疑問文のイントネーションを意識させ、インタビュー活動を行わせる。 ◇聴き取った内容をワークシートにメモするように指示をする。 ◆メモを取る際、日本語で取っても良いと伝える。 ◆机間指導をし、正しい発音を示したり、生徒が情報を伝える上で必要とする単語を助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・疑問詞を用いて各項目ごとに質問をし、また相手の回答を聞いてメモを取ることが出来る。 	情報活用力 (ワークシート, 行動観察)
6 作成した疑問文及びその回答文を発表する。〔10分〕			
<ul style="list-style-type: none"> 作成した疑問文と回答文を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇生徒を数名指名し、英語で疑問文と回答文の両方を言わせる。さらに、他の生徒に日本語訳をさせたり、再度回答文の内容を問う質問を行う。 ◆黒板にモデル文を掲示し、それを参考に自分の言葉で言い換えるよう指示する。 		
7 本時を振り返り、次時につなげる。〔5分〕			
<ul style="list-style-type: none"> 評価シートに分かったことと新たな疑問を記述する。 	◇次時の予告をする。		

板書計画

本時の目標

アンケートに回答するための情報を集めることができる。

復習

Where do you want to go?
いつ
Six people want to go to Kyoto..
動詞

When do you want to eat lunch?
どこで
動詞

Three people want to eat lunch at eleven.

主格	所有格	目的格	再帰代名詞
I	my	me	mine
you	your	you	yours
he	his	him	his
she	her	her	hers
it	its	it	
they	their	them	theirs

検 証

- 平成 28 年度 2 学期期末テスト問題の結果を分析する。
- 平成 28 年度標準学力調査の結果を分析する。

Welcome to Jinsekikogen! ～英語マップで魅力紹介～

本単元で育成する資質・能力

情報収集力, 情報活用力, 表現力

日 時 平成28年9月16日(金) 5校時(14:00～14:50)
 場 所 3A教室
 学年・組 第3学年A組(男子13名, 女子13名, 計26名)

単元について

本単元は、学習指導要領(外国語)の「ウ 読むこと」の指導事項(ウ)「物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。」や「エ 書くこと」の指導事項(エ)「身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書くこと。」をねらいとしており、新出言語材料としては、makeやcallなどを用いた第五文型やIt～(for A) to…が導入されている。

本文では、広島原爆にまつわる情報や原爆の被害にあった佐々木禎子さんの物語が書かれており、小学校や中学校で平和学習をしてきている生徒にとっては身近で考えやすい題材である。また、物語の中から登場人物の情報や物語の流れをつかむことで、要点を読み取る力を身に付けたり、原爆ドームの簡潔な説明文や物語の要約文を書く活動を通して、要点を抜き出し、簡潔にその内容を紹介する力を身に付けたりすることができる。

生徒観

本学年の生徒は「読むこと」と「書くこと」において課題が見られる。平成27年度標準学力調査では、下の英文の内容理解に関する問題において、全体の概要を読み取ることに課題があった。

Mr. and Mrs. White wanted a dog. They liked dogs very much. One day in June, Mr. White gave Mrs. White a little dog. His name was Tiny. Mr. White made a small house for him.

Mrs. White said, "Tiny is very small. He will not eat a lot of food." But he did. In August his house was too small for him.

Mr. White made a new house for him. Tiny was happy, but he wanted a new name, too. Why did he want a new name? Do you know? Tiny means little.

次の英語の文章を読んで、{ }の中から、文章の内容に最もよく当てはまるものをそれぞれ1つずつ選びなさい。

- (1) タイニーは、
- | | | | | |
|---|---|------------------|---|--------|
| { | ア | 小さくて食べ物をあまり食べない | } | 子犬だった。 |
| | イ | 小さいが食べ物をよく食べる | | |
| | ウ | 大きくて食べ物をたくさん食べる | | |
| | エ | 大きい食べ物をあまりほしがらない | | |
- (2) タイニーは、
- | | | | | |
|---|---|-------------------|---|---------------|
| { | ア | 自分の体が大きくなったので | } | 新しい名前がほしくなった。 |
| | イ | 新しい犬小屋に住むようになったので | | |
| | ウ | 今の名前にあきたので | | |
| | エ | 新しい飼い主と住むようになったので | | |

(%)

(1)	正答 (イ)	誤答 (ア)	誤答 (ウ)	誤答 (エ)
	38.4	61.6	0.0	0.0
(2)	正答 (ア)	誤答 (イ)	誤答 (ウ)	誤答 (エ)
	53.9	26.9	7.7	11.5

表から分かるように、英文の要点である「子犬の状態」や「結末の理由」を推測する問題の正答率が低かった。(1)の問題では、誤答であるアを選んでいる生徒が約6割いることからホワイト夫人の台詞である“Tiny is very small. He will not eat a lot of food.”の部分のみを読み取り、その後の“*But he did.*”を読み取れていないことが考えられる。また、(2)においては、イヌの名前 Tiny の意味とその大きさとの関係を推測しきれておらず、新しい小屋に住むという事実のみを読み取り答えている誤答が多い。このように英文の要点や概要を把握すること、さらに文字に現れていない部分の推測に課題があることがわかる。また、情報の中から重要な情報を抜き出し、その情報を簡潔にまとめるという、「読むこと」から「書くこと」にも課題がある。相手を考え、必要な情報を簡潔にまとめる力を身に付けさせたい。

指導改善のポイント

【本校の育成しようとする資質・能力】

- 課題発見力 ○課題解決力 ○情報収集力 ○情報活用力 ○表現力・コミュニケーション力
- 主体性・積極性 ○自らへの自信

■単元学習後の具体的な姿に到達するための指導

生徒が主体的に読んだり、書いたりできるようにするために、日々の授業において、次の(1)～(4)のことに継続して取り組む。

- (1) 帯時間にはインプット活動(単語・文法)をペアで繰り返し行うことで、基礎的・基本的な知識の定着を図る。また、文法のインプットシートには生徒自身が作成したオリジナル文を取り入れることで、英文を書くことへの意欲を高め、生徒のオリジナル文でインプット量を増やす。
- (2) 本文の内容理解においては、事実を問う発問だけでなく、書かれていることから推測して答える発問も取り入れ、深い読みをさせる。
- (3) 生徒にとって身近な場面や興味を持ちそうな場面を設定することで、課題に対する興味ややる気を出させる。また、少しレベルの高いゴールをパフォーマンス課題として設定することで、達成感を味わわせ、自らへの自信へとつなげる。
- (4) 単元始めに単元終わりに目指す姿(パフォーマンス課題)を伝え、単元を通じてパフォーマンス課題を意識させることで、「どのような学習をしていくのか」「自分はこの単元で何を身につけなければならないか」を考えさせ、見通しをもって学習を進めさせる。

■広島版「学びの変革」アクション・プラン(アクティブ・ラーニング)の取組について

<主体性>

- 授業の最後に振り返りを書かせる。(A・L視点①)
 - ・ 生徒が自分自身の成長を感じたり、自分が学んだことの意味を理解したりすることで学ぶことへの主体性を高める。
- 身近な素材や興味を持つ場面設定で興味をもたせる。(A・L視点②)
 - ・ 教科書の学習内容を活用し、生徒にとって身近な場面や「おもしろそう」と興味を持つような場面を設定することにより生徒の主体性を高める。
- 生徒自らのアイデアを生かす。(A・L視点③)
 - ・ 新出文法を学習後にその文法を用いたオリジナル文を書かせ、それをインプットシートに採用する。そうすることで、学んだことを活用し、表現しようとする意欲を高める。

- 生徒自らに選択させる。(A・L視点④)
 - ・ ワークシートにはヒントありとヒントなしの2つのパターンを用意する。生徒は自らのレベルに合わせて選択し取り組むことで学力に合わせた学習ができる。
 - ・ 生徒がいつでも自分で活用できるよう、参考となる資料を用意しておく。
- 学んだことを振り返り、他者に伝えさせる。(A・L視点⑤)
 - ・ 学んだことを踏まえて、他者に伝えさせたり、単元末にパフォーマンス課題に挑戦させたりする。スピーチやインタビューといった表現課題を設定することで、英語を用いて積極的に自分の意見を述べる力を育成する。

<協働性>

- 意図的にペアやグループで話し合いをさせる。(A・L視点⑥)
 - ・ 他の生徒の考えを聞かせたり、自分の考えを説明させたりすることで、一人では到達できなかった深い思考に到達することができ、生徒と生徒の協働性を高めることができる。また、疑問に感じたことを教師だけでなく、ほかの生徒に聞いたり教え合ったりすることで、生徒同士の関係性も高める。
- 自分の意見を発表する場を設ける。(A・L視点⑦)
 - ・ 自分の意見を発表したり、他の生徒の意見を聞いたりする場を多く設けることで、様々な生徒の意見を受け入れる雰囲気を作り、アイデアや発見を得て、さらに考えを深めさせる。

単元の目標と評価規準

<単元の目標>

- ・ **make** や **call** を使った第五文型の文構造と **It ~ (for A) to ...** の文構造を理解するとともに、建物の説明文や少女の物語から要点を読み取る事ができる。
- ・ 外国人観光客に向けて神石高原町の名所を簡潔に紹介する文を作ることができる。

<評価規準>

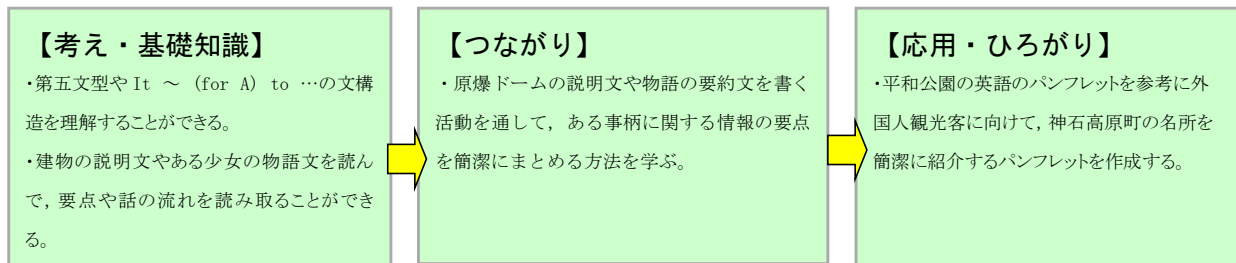
ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・ 辞書を活用するなどして、読み手が理解しやすい英文を書こうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第五文型やIt ~ (for A) to ...の文型を用いて、テーマに合わせた文を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ まとまりのある文章を読んで、その概要や要点を読み取ったり、物語の流れを読み取ったりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第五文型やIt ~ (for A) to ...の文構造を理解している。 ・ 紹介文を書くためにどのような情報が必要か理解している。

指導と評価の計画

○本単元で身に付けさせたい資質・能力と評価規準

資質・能力	評価規準		
	C	B	A
情報収集力	英文の概要を読み取り、要点となるキーワードを抜き出すことができる。	英文の要点や概要を読み取り、その内容に関する日本語の質問に答えたり、YES/NO疑問文に答えたりすることができる。	英文の要点や概要を読み取り、Wh疑問文の質問に文章で答えたり、代名詞が指す内容を読み取ったりすることができる。
情報活用力	学習した内容やそのモデルを活用して、語句を替えるなどして文を書いたり、長文の要点を読み取り、表などにまとめたりすることができる。	学習した内容やそのモデルを参考に与えられたテーマに沿って簡単な文を書いたり、長文から得た情報を教科書の文を抜き出して要約したりすることができる。	学習した内容やそのモデルを参考に自分自身のことについてまとまりのある文章を書いたり、長文から得た情報を自分の言葉で要約したりすることができる。
表現力	紹介する場所を本単元での言語材料を用いて、6文以上の英文で書くことができる。	紹介する場所を本単元での言語材料を用いて、さらに要点を選び、6文以上10文以内で英文を書くことができる。	紹介する場所を本単元での言語材料を用いて、さらに要点を選び、自分の考えを踏まえて6文以上10文以内で英文を書くことができる。

〔Lesson 4 “The Story of Sadako” のICEモデル〕



(全10時間)

次	学習内容 (時数)	評 価		
		関	表	理 知
1	単元の見通しを持たせる	課題の設定		
	・パフォーマンス課題について知る。			○
2	新出文法、本文読解	情報の収集		
	・第五文型の文構造を理解する。		○	◎
	・(Part 1) 原爆ドームに関する説明文を読み取る。			○

	・ It ~ (for A) to …の文構造を理解する。		○	◎	It ~ (for A) to …を使って「自分にとって○○なこと」を英語で説明することができる。(ワークシート)	情報活用力 (ワークシート・行動観察)
	・ (Part 2) 平和記念資料館を見学した後の登場人物たちの感想を読み取る。			○	平和記念資料館を見学して、丘先生とエマはどのように感じたかを読み取ることができる。(ワークシート)	情報収集力 (ワークシート・発表)
Read						
	・ 佐々木禎子さんの物語を読み取る。(1)			○	禎子さんの小学生時代について読み取ることができる。(ワークシート)	情報収集力 (ワークシート)
	・ 佐々木禎子さんの物語を読み取る。(2)			○	千羽鶴が広島に送られる理由を読み取ることができる。(ワークシート)	情報収集力 (ワークシート)
	・ 佐々木禎子さんの物語の流れを整理し、その要約文を書く。(本時)			○	・ 物語の要点を踏まえ、物語の要約文を書くことができる。(ワークシート)	情報活用力 (ワークシート)
神石高原町マップ作成		整理・分析				
3	・ 広島平和記念公園の英語マップからどのような情報が書かれているか読み取る。 ・ 神石高原町の名所を挙げ、その場所についての情報を集める。			○	・ 短い紹介文を書くために必要な情報は何かを平和公園のパンフレットから探し、それを参考に名所に関する必要な情報を集めることができる。(ワークシート)	情報収集力 (ワークシート・行動観察)
パフォーマンス課題		表現・まとめ				
4	・ 集めた情報を基に名所の紹介文を書く。 パフォーマンス課題			○	・ 外国人観光客に向けて、神石高原町の名所を紹介する文を簡潔にわかりやすく書くことができる。(ワークシート)	表現力 (ワークシート)

パフォーマンス課題

育てたい資質・能力	情報収集力, 情報活用力, 表現力
教科の評価規準	神石高原町に住むALTの先生に向けて、神石高原町の名所を紹介する文を簡潔にわかりやすく書くことができる。

パフォーマンス課題のシナリオ

<p>今私たちは、神石高原町への提言を考えています。その中で、神石高原町に住む外国人や外国人観光客に目を向けました。神石高原町に住んでいたり、訪れたりする外国人に自分たちの町の良さを伝え、楽しんでもらうために、みんなで力を合わせて英語で神石高原町のパンフレットを作りましょう。</p> <p>ただし、わかりやすいパンフレットにするために次の条件を入れてください。</p> <p>① 名所のポイントを踏まえ、6～10文の紹介文にする。</p> <p>② この単元で学んだmakeやcall, It ~ (for A) to ... を紹介文に2文以上含め、自分の体験なども踏まえて紹介する。</p>
--

予備的ルーブリック

尺度 (評点, レベル)	記述語 (パフォーマンスの特徴)
3 理想的	紹介する場所を本単元での言語材料を2つ以上用いて、さらに要点を選び、自分なりの表現を使い、6文以上10文以内で英文を書くことができる。
2 合格	紹介する場所を本単元での言語材料を2つ以上用いて、さらに要点を選び、6文以上10文以内で英文を書くことができる。
1 乗り越えさせたい実態	紹介する場所を本単元での言語材料を1つ用いて、6文以上の英文で書くことができる。

本時の学習

(1) 本時について

本単元末に設定しているパフォーマンス課題に取り組むためには、たくさんの情報の中から何が要点かを見つけ出し、その要点を第三者に簡潔に伝えるという力が必要である。本時では、物語の要約文を書くことによって、第三者に要点をまとめて簡潔に伝える力を身に付けさせる。

(2) 本時の目標

- ・物語の要点を踏まえ、物語の要約文を書くことができる。

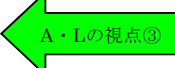
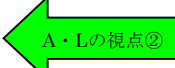
(3) 本時の評価規準

- ・物語の要点を踏まえて要約文を書くことができる。（表現）

(4) 準備物

- ・教科書、ファイル、ワークシート、スクリーン、パソコン、辞書、ホワイトボード、ペン

(5) 本時の展開

学習活動	指導上の留意事項（◇） ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て	評価規準 (評価方法)	資質・能力 (評価方法)
1 Warm-up [8分]			
<ul style="list-style-type: none"> ・1 minute inputを行う。 ・本文を音読する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇音読練習を通して、物語の流れを思い出させる。 ◇口頭で簡単に物語の流れを絵とともに確認する。 ◆前時に使用したワークシートを見ながら物語の流れを思い出させる。 	 A・Lの視点③	
2 単元のゴールへの見通しをもつ。 [5分]			
<ul style="list-style-type: none"> ・課題をみつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇今までの平和学習で生徒が広島に住む者として、平和について伝える使命があることを意識させる。 ◇要約文を書く必然性を持たせるため、長い説明文と短い説明文のどちらがわかりやすいかを考えさせる。 	 A・Lの視点②	
広島に来た外国人に禎子さんのことを説明するために、禎子さんの物語を要約することができる。			
3 要約文を書く。 [12分]			
<ul style="list-style-type: none"> ・物語の流れに沿って要約文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇目指す要約文のレベルを提示し、生徒自身がどのレベルを目指すか考え、取り組ませる。 <レベル> (上級) : 自分の言葉で物語の要点を踏まえ、要約文を書くことができている。 (合格) : 教科書の文を用いて、物語の要点を踏まえ、要約文を書くことができている。		

	◆前時で学習したワークシートを参考に内容を振り返らせる。		
4 班内で話し合う。〔12分〕			
<ul style="list-style-type: none"> ・班内で要約文を交換し、読み合う。 ・各班から出てきた意見を交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇自分が書いたものとクラスメイトが書いたものを比較することで、さらに簡潔で要点を踏まえた要約文に近づけさせるアイデアやアドバイスを生徒同士で行わせ、ホワイトボードに書かせる。 ◆分かりやすい要約文を班内から選び、自分の要約文と何が違うかを見つけさせる。 ◇ホワイトボードに書かせたものを黒板に掲示させ、2班くらいに発表させ、その要点を板書する。 	← A・Lの視点⑥	
5 再度、要約文を書く。〔8分〕			
<ul style="list-style-type: none"> ・再度、話し合いを基に要約文を書く。 	◆早く要約文を書けた生徒はスモールティーチャーとなり、つまづいている生徒の支援をさせる。	物語の要点を踏まえて、要約文を書くことができる。(ワークシート)	情報活用力 (ワークシート)
4 本時を振り返り、次時につなげる。〔5分〕			
<ul style="list-style-type: none"> ・分かったことと新たな疑問を記述する。 	◇次時の予告をする。		

板書計画

広島に来た外国人に禎子さんのことを説明するために、禎子さんの物語を要約することができる。

The Story of Sadako

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">①</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ _____ ・ _____ 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ホ-ド</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ホ-ド</div>	<p><要約文を書くポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつ、どこで、だれが、何を、どうしたというポイントを入れる。 ・ ・ <p><要約文に入れたい語句></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">②</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ _____ ・ _____ 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ホ-ド</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ホ-ド</div>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">③</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ _____ ・ _____ 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ホ-ド</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ホ-ド</div>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">④</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ _____ ・ _____ 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ホ-ド</div>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">⑤</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ _____ ・ _____ 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ホ-ド</div>		

検 証

- 平成 28 年度 2 学期期末テスト問題の結果を分析する。
- 平成 28 年度標準学力調査の結果を分析する。

旅行のプレゼンターになろう！～関係代名詞を利用して～

本単元で育成する資質・能力

情報収集力, 情報活用力, 表現力

日 時 平成 28 年 10 月 31 日 (月) 5 校時 (13 : 00～13 : 50)
 場 所 3 年 A 組 教室
 学年・組 第 3 学年 A 組 (男子 13 名, 女子 13 名, 計 26 名)

単元について

本単元は、学習指導要領（外国語科）の「ウ 読むこと」の指導事項（ウ）「物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。」や「エ 書くこと」の指導事項（オ）「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。」をねらいとした単元であり、新出言語材料としては、関係代名詞（主格・目的格）の *who, which, that* が導入されている。

4 人の登場人物たちが行う「行きたい国とそこでしたいこと」についてのスピーチが書かれており、彼らのスピーチを通して、様々な国や地域の文化、有名なものなどについて学ぶ。また、関係代名詞の学習を通して、人や物をより詳しく説明する方法を身に付けるとともに、スピーチという場面設定から、聞き手や読み手が理解しやすいように順序立てて自分の意見を述べる力の育成を目指している。

生徒観

本学年の生徒は読むことと書くことにおいて課題が見られる。平成 27 年度標準学力調査においては、下の英文の内容理解に関する問題において、全体の概要を読み取ることに課題があった。

Mr. and Mrs. White wanted a dog. They liked dogs very much. One day in June, Mr. White gave Mrs. White a little dog. His name was Tiny. Mr. White made a small house for him.

Mrs. White said, "Tiny is very small. He will not eat a lot of food." But he did. In August his house was too small for him.

Mr. White made a new house for him. Tiny was happy, but he wanted a new name, too. Why did he want a new name? Do you know? Tiny means little.

次の英語の文章を読んで、{ } の中から、文章の内容に最もよく当てはまるものをそれぞれ 1 つずつ選びなさい。

- (1) タイニーは、
- | | | | |
|---|---|---|--------|
| { | ア 小さくて食べ物をあまり食べない
イ 小さいが食べ物をよく食べる
ウ 大きくて食べ物をたくさん食べる
エ 大きい食べ物をあまりほしがらない | } | 子犬だった。 |
|---|---|---|--------|
- (2) タイニーは、
- | | | | |
|---|---|---|---------------|
| { | ア 自分の体が大きくなったので
イ 新しい犬小屋に住むようになったので
ウ 今の名前にあきたので
エ 新しい飼い主と住むようになったので | } | 新しい名前がほしくなった。 |
|---|---|---|---------------|

(%)

(1)	正答 (イ)	誤答 (ア)	誤答 (ウ)	誤答 (エ)
	38.4	61.6	0.0	0.0
(2)	正答 (ア)	誤答 (イ)	誤答 (ウ)	誤答 (エ)
	53.9	26.9	7.7	11.5

表から分かるように、英文の要点である「子犬の状態」や「結末の理由」を推測する問題の正答率が低かった。(1)の問題では、誤答であるアを選んでいる生徒が約6割いることからホワイト夫人の台詞である“Tiny is very small. He will not eat a lot of food.”の部分のみを読み取り、その後の“**But he did.**”を読み取れていないことが考えられる。また、(2)においては、イヌの名前 Tiny の意味とその大きさとの関係を推測しきれておらず、新しい小屋に住むという事実のみを読み取り答えている誤答が多い。このように英文の要点や概要を把握すること、さらに文字に現れていない部分の推測に課題があることがわかる。

また、書くことにおいては、情報を基に英文を書くことや接続詞や代名詞を用いて、つながりのある文を書くことに課題がある。さらに、ただ情報を英文にするだけでなく、相手に内容が効果的に伝わるようにするためにも順序立てて文章を構成する力も身に付けさせたい。

指導改善のポイント

【本校の育成しようとする資質・能力】

- 課題発見力 ○課題解決力 ○情報収集力 ○情報活用力 ○表現力・コミュニケーション力
- 主体性・積極性 ○自らへの自信

■単元学習後の具体的な姿に到達するための指導

生徒が主体的に読んだり、書いたりできるようにするために、日々の授業において、次の(1)～(4)のことに継続して取り組む。

- (1) 帯時間にはインプット活動(単語・文法)をペアで繰り返し行うことで、基礎的・基本的な知識の定着を図る。また、文法のインプットシートには生徒自身が作成したオリジナル文を取り入れることで、英文を書くことへの意欲を高め、生徒のオリジナル文でインプット量を増やす。
- (2) 本文の内容理解においては、事実を問う発問だけでなく、書かれていることから推測して答える発問も取り入れ、深い読みをさせる。
- (3) 生徒にとって身近な場面や興味を持ちそうな場面を設定することで、課題に対する興味ややる気を出させる。また、少しレベルの高いゴールをパフォーマンス課題として設定することで、達成感を味わわせ、自らへの自信へとつなげる。
- (4) 単元始めに単元終了時に目指す姿(パフォーマンス課題)を伝え、単元を通じてパフォーマンス課題を意識させることで、「どのような学習をしていくのか」「自分はこの単元で何を身に付けなければならないか」を考えさせ、見通しをもって学習を進めさせる。

■広島版「学びの変革」アクション・プラン(アクティブ・ラーニング)の取組について

<主体性>

- 授業の最後に振り返りを書かせる。(A・L視点①)
 - ・ 生徒が自分自身の成長を感じたり、自分が学んだことの意味を理解したりすることで学ぶことへの主体性を高める。
- 身近な素材や興味を持つ場面設定で興味をもたせる。(A・L視点②)
 - ・ 教科書の学習内容を活用し、生徒にとって身近な場面や「おもしろそう」と興味を持つような場面を設定することにより生徒の主体性を高める。

- 生徒自らのアイデアを生かす。(A・L視点③)
 - ・ 新出文法を学習後にその文法を用いたオリジナル文を書かせ、それをインプットシートに採用する。そうすることで、学んだことを活用し、表現しようとする意欲を高める。
- 生徒自らに選択させる。(A・L視点④)
 - ・ ワークシートにはヒントありとヒントなしの2つのパターンを用意する。生徒は自らのレベルに合わせて選択し取り組むことで学力に合わせた学習ができる。
 - ・ 生徒がいつでも自分で活用できるよう、参考となる資料を用意しておく。
- 学んだことを振り返り、他者に伝えさせる。(A・L視点⑤)
 - ・ 学んだことを踏まえて、単元末にパフォーマンス課題に挑戦させる。スピーチやインタビューといった表現課題を設定することで、英語を用いて積極的に自分の意見を述べる力を育成する。

<協働性>

- 意図的にペアやグループで話し合いをさせる。(A・L視点⑥)
 - ・ 他の生徒の考えを聞かせたり、自分の考えを説明させたりすることで、一人では到達できなかった深い思考に到達することができ、生徒と生徒の協働性を高めることができる。また、疑問に感じたことを教師だけでなく、ほかの生徒に聞いたり教え合ったりすることで、生徒同士の関係性も高める。
- 自分の意見を発表する場を設ける。(A・L視点⑦)
 - ・ 自分の意見を発表したり、他の生徒の意見を聞いたりする場を多く設けることで、様々な生徒の意見を受け入れる雰囲気を作り、アイデアや発見を得て、さらに考えを広げさせる。

単元の目標と評価規準

<単元の目標>

- ・ 関係代名詞の文構造を理解するとともに、登場人物たちの行きたい場所とそこでしたいことに関するスピーチ文から要点を読み取る事ができる。
- ・ 他者へ紹介したい場所とそのおすすめポイントについて、聞き手が理解しやすいように順序立てて英文を書くことができる。

<評価規準>

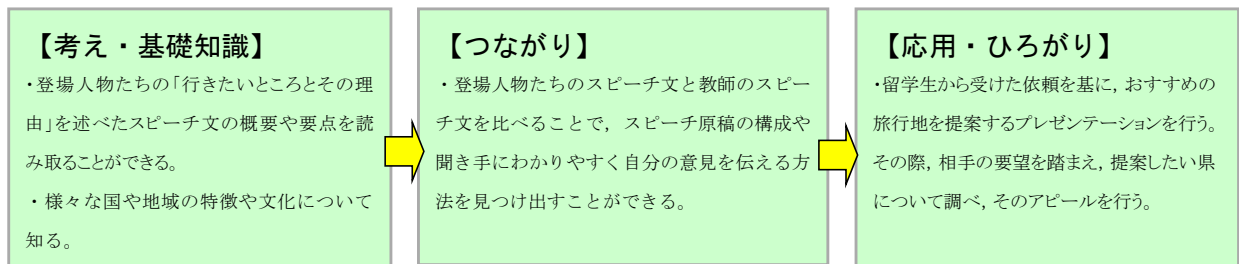
ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・ 辞書を活用するなどして、聞き手が理解しやすい英文を書こうとしている。 ・ 聞き手に内容が伝わるように大きな声ではっきりと自分の意見を述べている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 紹介したい場所やそのおすすめポイントを文のつながりを考えて書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ まとまりのある文章を読んで、その概要や要点を読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係代名詞を用いた後置修飾の文構造を理解している。 ・ 相手を説得させるプレゼンテーションの内容と構成を理解している。

指導と評価の計画

○本単元で身に付けさせたい資質・能力と評価規準

資質・能力	評価規準		
	C	B	A
情報収集力	英文の概要を読み取り、要点となるキーワードを抜き出すことができる。	英文の要点や概要を読み取り、その内容に関する日本語の質問に答えたり、YES/NO疑問文に答えたりすることができる。	英文の要点や概要を読み取り、Wh疑問文の質問に文章で答えたり、代名詞が指す内容を読み取ったりすることができる。
情報活用力	学習した内容やそのモデルを活用して、語句を替えるなどして文を書いたり、スピーチから要点を読み取ったりすることができる。	学習した内容やそのモデルを参考に与えられたテーマに沿って簡単な文を書いたり、スピーチから得た情報の要点を表にまとめたりすることができる。	学習した内容やそのモデルを参考に自分自身のことについてまとまりのある文章を書いたり、スピーチから得た情報を文章でまとめたりすることができる。
表現力	提案したい場所について、そこのおすすめポイントとともに5文以上の英文で書くことができる。	提案したい場所とそのおすすめポイントについて、関係代名詞を用いた文を2文以上含み、10文以上で英文を書くことができる。	提案したい場所とそのおすすめポイントについて、関係代名詞を用いた文を2文以上含み、接続詞や代名詞などを用いて、つながりのある英文を10文以上書くことができる。

Lesson 5 “Places to Go, Things to Do” のICEモデル



(全15時間)

次	学習内容 (時数)	評 価			評 価 規 準 (評価方法)	資質・能力 (評価方法)	
		関	表	理			知
1	単元の見通しを持たせる	課題の設定				提案する上で、どのような力が必要か考えることができる。(ワークシート)	課題発見力 (ワークシート, 行動観察)
	パフォーマンス課題について知る。				○		
2	関係代名詞 (主格)	情報の収集				関係代名詞を用いて、理想の家について説明をすることができる。(ワークシート)	情報活用力 (ワークシート)
	関係代名詞 (主格) の文構造を理解する。		○		◎		
	関係代名詞 (目的格)		○		◎		
	関係代名詞 (目的格) の文構造を理解する。				◎	情報活用力 (ワークシート)	

関係代名詞まとめ		○	◎	関係代名詞を用いて、有名人の紹介文を3文以上で書くことができる。(ワークシート)	情報活用力 (ワークシート)
Part 1					
久美のスピーチを読み取る。			○	久美が行きたい国とその国の特徴を読み取ることができる。(ワークシート)	情報収集力 (ワークシート)
Part 2					
ラージのスピーチを読み取る。			○	ラージが行きたい国とその理由を読み取ることができる。(ワークシート)	情報収集力 (ワークシート)
Part 3					
メイリンのスピーチを読み取る。			○	メイリンが行きたい国とその国でしたいことを読み取ることができる。(ワークシート)	情報収集力 (ワークシート)
Read					
健のスピーチを読み取る。 (その1)			○	健が行きたい国とその理由(1つ目)を読み取ることができる。(ワークシート)	情報収集力 (ワークシート)
健のスピーチを読み取る。 (その2)			○	健がブラジルに行きたい理由(2つ目)を読み取ることができる。(ワークシート)	情報収集力 (ワークシート)
健のスピーチを読み取る。 (その3)			○	健がブラジルに行きたい理由(3つ目)を読み取ることができる。(ワークシート)	情報収集力 (ワークシート)
3	プレゼンテーション準備	整理・分析			
	プレゼンテーションのための情報を集め、どの順番で提案するか考える。		○	提案する場所の情報を集め、提案に必要な情報を整理している。(ワークシート)	情報活用力 (ワークシート)
4	パフォーマンス課題に向けて	まとめ、表現			
	プレゼンテーションの下書きを書く。(その1) (本時)		○	提案する県とそのアピールポイントを英語で書くことができる。(ワークシート)	表現力 (ワークシート, 行動観察)
	プレゼンテーションの下書きを書く。(その2) (2)	○	◎	その県を提案する理由やアピールポイントについてさらに具体的な説明を加え、下書きを完成することができる。(ワークシート)	表現力 (ワークシート)
	プレゼンテーション				
	旅行のプレゼンテーションを行う。 パフォーマンス課題	○		相手に伝わるように、資料を効果的に提示し、声の大きさやスピードなどに注意しながら提案している。(発表)	表現力 (発表)

パフォーマンス課題

育てたい資質・能力	情報活用力, 表現力
教科の評価規準	ある県について順序立てて10文以上の英文で書き, わかりやすくプレゼンテーションすることができる。

パフォーマンス課題のシナリオ

<p>1年生の時にいた留学生Ionaから次のような依頼がありました。</p> <p>“Next January, I will visit Japan with my friends. And I’m thinking about the plan to travel in Japan. So can you give me your idea?”</p> <p>そして, 次のような条件がありました。</p> <p>① 参加人数はIona含めて4人。</p> <p>② 全員が楽しめる最高の思い出ができること。</p> <p>③ 日数は2泊～3泊程度(飛行機の機内泊は除く)</p> <p>これらの条件を踏まえ, 日本のどこかの県を紹介し, アピールするために, 説得力のあるプレゼンテーションを行ってもらいます。また, そのプレゼンテーションをビデオに録り, Ionaに見てもらい, ひとつを選んでもらいたいと思います。</p> <p>プレゼンテーションを説得力あるものにするために, 内容は, 提案する県とそのアピールポイントを2～3点述べるとともに, 関係代名詞を用いた文を2文以上含め, 10文以上の英文を目指してください。</p>
--

予備的ルーブリック

尺度 (評点, レベル)	記述語 (パフォーマンスの特徴)
3 理想的	提案したい場所とそこのおすすめポイントについて, 関係代名詞を用いた文を2文以上含み, 接続詞や代名詞などを用いて, つながりのある英文を10文以上書いている。
2 合格	提案したい場所とそこのおすすめポイントについて, 関係代名詞を用いた文を2文以上含み, 10文以上で英文を書いている。
1 乗り越えさせたい実態	提案したい場所について, そこのおすすめポイントとともに5文以上の英文で書いている。

本時の学習

(1) 本時の目標

- ・ 旅行の提案に向けて, 提案する県とそのアピールポイントを関係代名詞を使った文を1文入れて, 英語で書くことができる。

(2) 本時の評価規準

- ・ 自分の意見を相手に伝えるための内容構成を理解することができる。(知識・理解)
- ・ 提案する県とそのアピールポイントを英語で書くことができる。(表現)

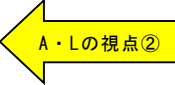

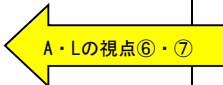
(3) 本時に身に付けさせたい資質・能力

- ・ 表現力

(4) 準備物

- ・ 教科書, ワークシート, スクリーン, パソコン, 辞書

(5) 本時の展開

学習活動	指導上の留意事項 (◇) ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て	評価規準 (評価方法)	資質・能力 (評価方法)
1 単元のゴールへの見通しをもつ。〔8分〕			
<ul style="list-style-type: none"> パフォーマンス課題について確認する。 教師によるパフォーマンス課題のモデルを見て、具体的な内容を確認する。 課題提示 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ ゴールを確認することで、見通しを持たせる。 ◇ モデルを見せることで、場面を想像しやすくする。 <p style="text-align: center;">課題の設定</p>		
旅行の提案に向けて、提案する県とそのアピールポイントを関係代名詞を使った文を1文入れて、英語で書くことができる。			
2 プレゼンテーションの下書きを書く。〔10分〕			
<ul style="list-style-type: none"> 提案する県とそのアピールポイントを書き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 前時に集めた情報を基に、順序などに注意しながら英文を書かせる。 ◆ どう日本語で表せば良いか分からない部分には日本語でメモを書かせて、次の文を考えさせる。 ◆ 教師のモデルを参考に語句を替えるなどして文を書かせる。 		
3 班内で話し合う。〔12分〕			
<ul style="list-style-type: none"> 班内で下書きを交換し、よりよい表現方法を工夫することを目的として、話し合いをする。 <p style="text-align: center;">情報の収集</p> <ul style="list-style-type: none"> 活用しやすい表現を生徒全員に紹介し、その活用方法を教える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 班内で下書きを交換し合い、コメントやアドバイスを記入させていく。 ◇ 教師は机間指導しながら、活用しやすい表現を集め、板書していく。 ◆ 友達の下書きを読んで、参考にしたい表現があった場合は、自分のワークシートに書き写させる。 ◇ ワークシートを早く交換し終えた班は、班内でアドバイスさせる。 ◇ 特に活用しやすい表現には、線を引くなどして目立たせる。 		
<活用しやすい英文例> <ul style="list-style-type: none"> ・ This is the prefecture which I want to introduce you. ・ This prefecture is famous for its hot springs. ・ There are a lot of wonderful things. ・ You can enjoy making a toy there. ・ First, the scenery is beautiful. 			
4 再度、下書きを書く。〔15分〕			
<ul style="list-style-type: none"> 再度、話し合いを基に下書きを書く。 <p style="text-align: center;">整理・分析 まとめ・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇ クラスメイトからのアドバイスや活用しやすい表現を参考に、改めて自分が書いた下書きを推敲し、書き直させる。 ◆ 早く要約文を書けた生徒はスモールティーチャーとなり、つまづいている生徒の支援をさせる。 	提案する県とそのアピールポイントを英語で書くことができる。 (ワークシート)	表現力 (ワークシート)

5 本時を振り返り、次時につなげる。〔5分〕

- ・ 下書きを発表させる。
- ・ 分かったことと新たな疑問を記述する。

- ◇ 清書に向けての参考にさせる。
- ◇ 下書きを書く上で、参考になった表現や気をつけたことなどを書かせる。
- ◇ 次時の予告をする。

A・Lの視点①①

新たな課題の設定に向けて

板書計画

Today's Goal

旅行の提案に向けて、提案する県とそのアピールポイントを英語で書くことができる。

条件

- ① 参加人数はIona含めて4人。
- ② 全員が楽しめる最高の思い出ができること。
- ③ 日数は2泊～3泊程度（飛行機の機内泊は除く）

※10文以上で原稿を書くこと。

※アピールポイントは2～3点。

※関係代名詞を用いた文を2文以上含める。

<活用しやすい英文例>

- ・ This is the prefecture which I want to introduce you.
- ・ I will introduce a prefecture that you will enjoy.
- ・ This prefecture is famous for its hot springs.
- ・ There are a lot of wonderful things.
- ・ You can enjoy making a toy there.
- ・ First, the scenery is beautiful.

検 証

- 平成28年度2学期期末テスト問題の結果を分析する。
- 平成28年度標準学力調査の結果を分析する。

地域探訪Ⅰ【我が町と平和】

本単元で育成する
資質・能力

課題発見力，課題解決力，情報収集力，情報活用力，表現力・コミュニケーション力，主体性・積極性，自らへの自信

日 時 平成28年9月9日（金） 6校時（15:00～15:50）

場 所 1年A組教室

学年・組 第1学年A・B組（男子16名，女子9名，計 25名）

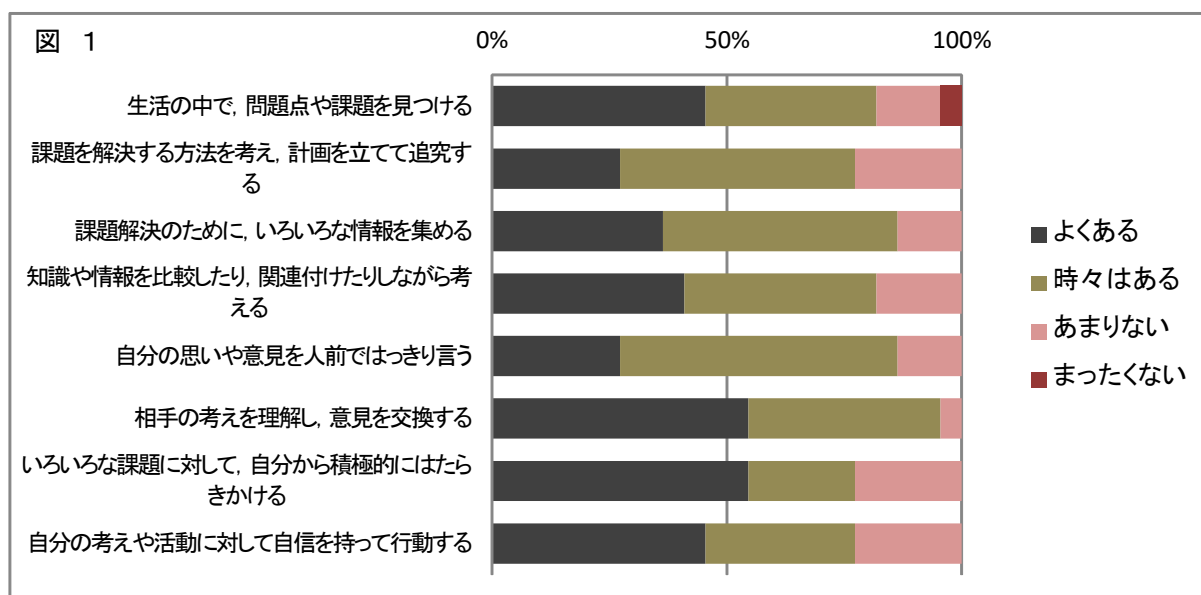
単元について

本単元は，生徒が地域について自主的・主体的に課題を設定し，積極的に情報を集め，協働的に学びを深め，まとめたことを発信することで，育成したい資質・能力を育てる基礎となる単元である

本単元では，本町が舞台である井伏鱒二の小説「黒い雨」を題材として，地域で平和学習に取り組んでおられる様子や，井伏鱒二の書簡や原稿を展示する「歴史と文学の館・志麻利」の活動を調べたり，アンケート調査を行ったりして，人々の平和への思いや，平和に対する社会の意識の変化を調べる活動を行う。こうした活動を通して，探究の方法を学び，課題解決のプロセスを体験的に学習することが期待できる。さらに，地域に対する愛着を深め，地域への関心が高まることが期待される。

生徒観

1学期末の段階で，生徒の実態を調べるためにアンケート調査を行った（図1）。



「日常生活の中で，次の項目のようなことをどの程度していますか。」という問いに，「よくある」，「時々はある」，「あまりない」，「まったくない」の4段階で聞いた。その結果を4段階の点

数に変換して平均を求めると、「課題を解決する方法を考え、計画を立てて追究すること」が3.0で肯定的評価が低く、次に「自分の思いや意見を人前ではっきり言う」で3.1だった。

このことは、日常生活で、見つけた課題をあまり意識していないことや、計画的に物事を実行する体験が少ないこと、さらに人前で意見を表現することがあまりできていないことを意味していると考えられる。

単元の概要

(1) 単元の目標

自主的・主体的に課題を設定し、積極的に情報を集め、協働的に課題解決を図る活動を通して、育成したい資質・能力を育てる。

(2) 単元で育てようとする資質や能力及び態度

【学習方法に関すること】

- ア 適切に課題を設定する。(課題発見力)
- イ 相手や目的、意図に応じて、手段を選択し、情報を収集する。(情報収集力)
- ウ 比較したり関連づけたりして、情報を整理する。(情報活用力)
- エ 相手や意図、目的に応じて表現する。(表現力・コミュニケーション力)

【自分自身に関すること】

- オ 自分の良さに気づく。(自己理解)
- カ 学習活動に積極的に参加し、主体的に課題解決をしようとする。(主体性・積極性)
- キ より良い生き方に気づき、自己の将来を考える。(将来展望)

【他者や社会との関わりに関すること】

- ク 異なる意見や他者の考えを受け入れ、尊重する。(他者理解)
- ケ 互いの特徴を生かし、協同して課題を解決する。(協働)

単元の評価規準

観点	学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会との関わりに関すること
単元の評価規準	①小説「黒い雨」について、シンキングツールを活用して課題を設定している。【ア】 ②必要な情報を、適切に収集している。【イ】 ③集めた情報をグラフや表などにまとめたり、関連づけたりしている。【ウ】 ④集めた情報をもとに、適切な情報を取捨選択している。【ウ】 ⑤プレゼンテーションやビデオにまとめることで、よりわかりやすく伝えようとしている。【エ】	①自信をもって発表している。【オ】 ②積極的に学習に参加し、主体的に課題解決を図っている。【カ】 ③自己や社会について、新たな課題を見いだしている。【キ】	①グループ間やグループ内での意見交換を通じて、他者のアイデアを取り入れたり、より良いものに改善しようとしたりしている。【ク】 ②自他の得意分野をみつけ、それぞれの良さを生かそうとしている。【ケ】

指導と評価の計画

(計35時間)

月	学習活動	時数	評価	
			評価規準 (評価方法)	資質・能力 (評価方法)
課題の設定 (3)				
4	ガイダンス・知識の整理	1		
	平和メッセージ発信方法を決定 (課題設定)	1	学① (ワークシート)	課題発見力 (ワークシート)
	発表内容決定 (担当・役割の決定をする)	1	他② (行動観察)	主体性・積極性 (行動観察)
情報の収集 (10)				
5	地域調べ (書籍・映画「黒い雨」の視聴)	2	自② (行動観察)	主体性・積極性 (行動観察)
	地域調べ (「黒い雨」と神石高原町とのかかわりを調べる)	2	学②, 自② (行動観察)	情報収集力 (行動観察), 主体性・積極性 (行動観察)
6	地域調べ (フィールドワークのための情報整理)	2	学②, 自② (収集した資料, 行動観察)	情報収集力 (行動観察), 主体性・積極性 (行動観察)
	地域調べ (フィールドワーク)	2	自②, 自③ (行動観察, 振り返り)	課題解決力 (行動観察), コミュニケーション力 (行動観察)
	グループ毎に必要な情報を集める	2	学②, 自②, 他① (収集資料)	情報収集力 (収集資料)
	整理・分析 (6)			
7	調べた内容をまとめて資料にする	3	学③, 学④, 他② (発表資料・行動観察)	情報活用力 (発表資料・行動観察), コミュニケーション力 (行動観察)
	完成した資料を交流・検討する	3	他① (行動観察)	主体性・積極性, コミュニケーション力 (行動観察)
まとめ・創造・表現 1 (8)				
	発表作品制作 (交流・検討・評価)	3	学⑤, 自②, 他① (発表資料・行動観察)	表現力・コミュニケーション力 (発表資料・行動観察)

			表資料・行動観察)	ニケーション力 (発表資料), 課題解決力(行動観察)
	発表作品仕上げ(発表準備・交流・検討・評価)	3	学⑤, 他②(発表資料・行動観察)	表現力・コミュニケーション力 (発表資料), 課題解決力(行動観察)
	発表(小説「黒い雨」発祥の地から「平和の心」を伝えよう)	1	自①(発表態度)	表現力・コミュニケーション力 (発表態度)
	発表作品制作の取り組み方・発表後の評価【本時1/1】	1	自②, 他①(ワークシート)	課題発見力(行動観察), 表現力・コミュニケーション力(ワークシート)
まとめ・創造・表現2(8)				
9	発表作品制作(交流・検討・評価)	3	学④, 学⑤, 自②(発表資料, 行動観察)	情報活用力(発表資料), 主体性・積極性(行動観察)
	発表作品仕上げ(発表準備・交流・検討・評価)	3	学⑤, 他①(発表資料, 行動観察)	情報活用力(発表資料), 主体性・積極性(行動観察)
	発表(文化祭)	1	自①(行動観察, 振り返り)	自らへの自信(振り返り)
10	振り返り	1	自③(ワークシート, 発言内容)	課題発見力・自らへの自信(ワークシート, 発言内容)

本時の学習

(1) 本時の目標

- ・シンキングツール(座標軸)を用いて, 発表を振り返り, より良い発表にするための改善策を考えることができる。

(2) 本時の観点別評価規準

- ・志麻利での発表を振り返り, 文化祭に向けて改善点を指摘することができる。【キ】

(3) 準備物

志麻利での発表の様子を記録したビデオ, 電子黒板, ワークシート, クラゲチャート

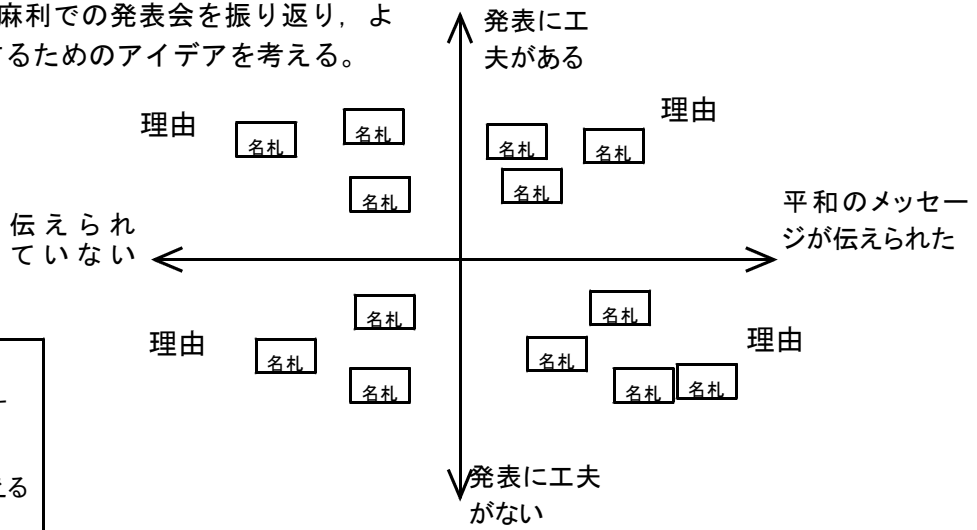
(4) 本時の展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準	資質・能力
------	----------	------	-------

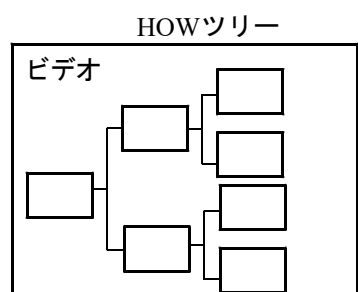
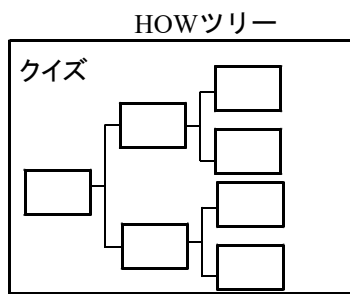
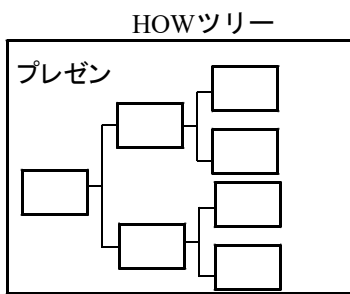
		【評価方法】	【評価方法】
○本時の目標と学習の流れを確認する。 ・本時の目標	◇本時の学習の流れを黒板に示す。 ◇黒板に掲示する。		
志麻利での発表会を振り返り、より良いものにするためのアイデアを考える。			
・学習の流れを知り、見通しをもつ。			
○志麻利での発表を振り返る。 ・VTRを見て「平和のメッセージが伝えられたか」、「発表に工夫が見られたか」の2点で評価し、その理由をワークシートに書く。 ○座標軸に、各自の評価をもとに、名札をはる。	◇VTRを部分的に視聴させ、発表に参加できなかった生徒や、忘れていた生徒に確認させる。 ◇机間巡視し、理由を確認しておく。 ◇黒板に大きな座標軸（縦：発表の工夫があったか、横：平和へのメッセージが伝わったか）を書く。 ◇生徒に自分の名前を書いた名札を配布する。 ◇教師が、名札の貼り方を例示する。 ◇黙ってはらせる。	2つの視点で評価している。 【座標軸・ワークシート】	課題発見力 【行動観察・ワークシート】
○指名された生徒は、なぜそのような評価をしたのか発表する。 ○出された意見をもとに、担当グループごとに改善方法を考える。	◇机間巡視の結果をもとに、ポイントを整理している生徒を指名する。 ◇生徒発言を黒板にメモする。 ◇シンキングツール（ロジックツリー）を使って、意見（座標軸に書かれた「理由」）を整理し、まとめさせる。 ◇活発な話し合いができていないグループには、教師が参加し活性化させる。	振りがえりをして、自分たちの発表を客観的にみて評価している。 自他の意見を整理しながら話し合いをしている。 意見を参考にしながら、改善のための話し合いをして、改善点を指摘することができる。 【ロジックツリー】	表現力・コミュニケーション力 【シンキングツール・ワークシート】
○各グループで出された意見を交流する。 ○本時の振り返り、次時の確認	◇発表者の支援と、視聴者の支援を分担して行う。 ◇他のグループの発表を参考にするために、自分たちの意見と比較しながら聞かせる。 ◇適切なグループ活動が行われたか自己評価をさせる。		

板書計画

本時の目標: 志麻利での発表会を振り返り、より良いものにするためのアイデアを考える。



- 今日の流れ
- 1 発表を思い出す
 - 2 評価する
 - 3 改善方法を考える
 - 4 まとめる



総合的な学習の時間

第1学年

神石高原町立三和中学校

指導者 黒田裕太郎
西江 克信
秋山 美文

単元名

未来の神石高原町に必要な仕事を考えよう（地域探訪Ⅱ）

本単元で育成する
資質・能力

課題発見力，課題解決力，情報収集力，情報活用力，表現力・コミュニケーション力，主体性・積極性，自らへの自信

日 時 平成28年10月31日（月） 5校時（13:00～13:50）
場 所 1年A組教室
学年・組 第1学年A・B組（男子16名，女子9名，計 25名）

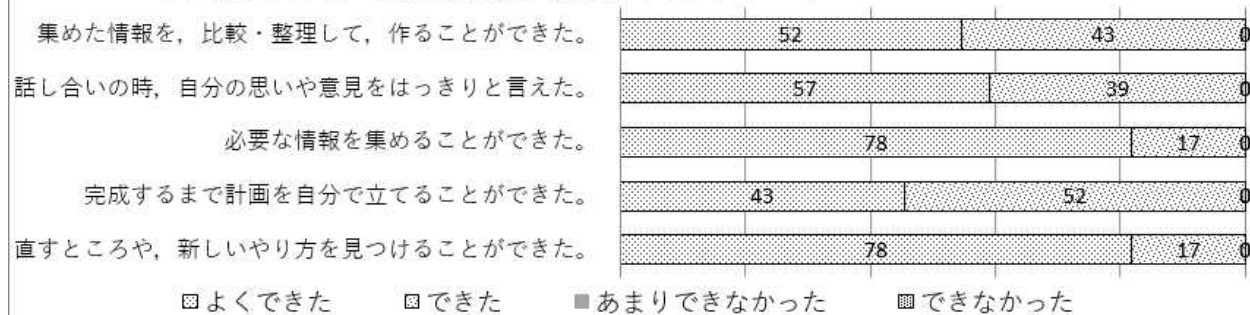
単元について

本単元は，2年生の地域発見Ⅰ【夢の実現プロジェクトⅡ】につながる単元であり，仕事をより身近なものとしてとらえることがねらいである。社会は，様々な職業から成り立っており，それぞれの職業が密接に絡み合って成立している。そのしくみを主体的に学ばせると同時に，神石高原町の仕事の現状を知り，町にとって将来どのような職業が必要とされるのかを考える。その際，保護者の仕事に対する考えと自分たちの考えを比較し，疑問を見出すことから，課題設定を行わせる。この取組を通して，2年生の「職場体験学習」，3年生の「地域への提言」へと学習を発展させる基礎を固めることができる。

生徒観

前期の総合的な学習の時間を終えて，生徒の「学び方」に関する意識を調べるためにアンケート調査を行った。

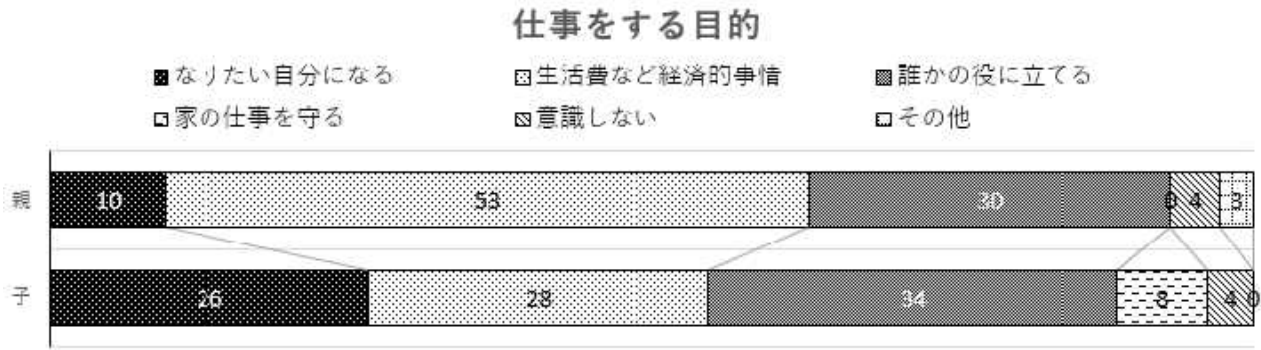
「平和のメッセージfrom神石」を終えてのアンケート



すべての問いに対して肯定的に回答しており，特に「必要な情報を集めることができた」，「直すところや，新しいやり方を見つけることができた」という問いには，「よくできた」と答えている生徒の割合が高いがほとんどである。それに対して，「完成するまで計画を自分で立てることができた」という問いに「よくできた」と答えている生徒の割合は低く，計画的に見通しを持って学習することに課題がある。

また，本単元に入る前に，生徒と保護者の両方に，仕事に対する意識調査を行った。その結果，生徒の意識調査では，「仕事をする目的」について，「誰かの役に立てる」（34%），「生活費など経済的事情」（28%），「なりたい自分になる」（26%）の順に多く，生徒は社会的貢献への意欲が比較的高い

こともわかった。



指導改善のポイント

【本校の育成しようとする資質・能力】

- 課題発見力 ○課題解決力 ○情報収集力 ○情報活用力 ○表現力・コミュニケーション力
- 主体性・積極性
- 自らへの自信

上記の資質・能力を育成するために、この単元では次の工夫をする。

- (1) 保護者のアンケート結果を、生徒のアンケート結果と比較することで、そのずれに疑問を持たせ、課題設定を行わせる。
- (2) 未来の神石高原町に必要な仕事に着目させることで、地域を通して仕事の意味を考えさせる。
- (3) 班での活動としつつも、一人一人の計画立案・計画の見直しのサイクルを充実させ、より課題解決のプロセスを実感させる。

単元の概要

(1) 単元の目標

神石高原町の職業に関する情報を集め、将来必要とされる職業を提案する学習を通して、自主的・主体的に課題を設定し、積極的に情報を集め、協働的に課題解決を図る生徒を育てる。

(2) 単元で育てようとする資質や能力及び態度

【学習方法に関すること】

- ア 適切に課題を設定する。(課題設定)
- イ 相手や目的、意図に応じて、手段を選択し、情報を収集する。(収集・整理)
- ウ 学習を通して課題の事実や関係を把握し、既習事項を活用して考える。(思考・判断)
- エ 相手や意図、目的に応じて表現する。(表現)

【自分自身に関すること】

- オ 自らの生活のあり方を見直し、日常的に実践しようとする。(自己理解)
- カ 自己の将来を考え、夢や希望をもつ。(将来展望)

【他者や社会との関わりに関すること】

- キ 互いの特徴を生かし、協働して課題を解決する。(協働)

ク 知りたいことを質問し、聞き取ることができる。(コミュニケーション力)

単元の評価規準

○本単元で身につけさせたい資質・能力と評価基準

観点	学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会との関わりに関すること
単元の評価規準	①神石高原町の未来に必要な仕事について、本庁の課題を踏まえた仮説を立てることができる。【ア】 ②目的に応じて適切な方法を選択して情報を集めている。【イ】 ③集めた情報をもとに、適切な情報を取捨選択している。【ウ】 ④よりわかりやすいポスターを作ろうとしている。【エ】	①自らの課題をつかみ、目標を設定することができる。【オ】 ②身近な職業について理解し、自分の将来設計について考えながら学習に参加している。【カ】	①協働的な学習をして、課題解決ができる。【キ】 ②知りたいことを質問し、聞き取ることができる。【ク】

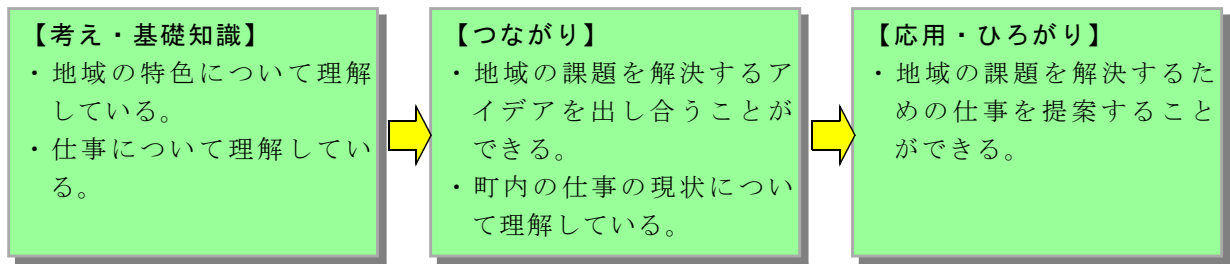
指導と評価の計画

○この単元で身につけさせたい資質・能力と評価基準

資質・能力	評価基準		
	C	B	A
課題設定力	町の課題が理解できている。	町の課題を解決するために必要な条件を説明できる。	町の課題を解決するために必要な仕事を考えている。
課題解決力	課題解決のための、おおまかな計画を立てている。	課題解決のために、どのような情報を集めることが必要かを見通している。	課題解決のために、どのような情報をどこで集めて、どう表現するかを見通している。
情報収集力	単独の情報源に頼って情報を集めている。	複数の情報源をもとに情報を集めている。	複数の情報を、自ら働きかけて集めている。
情報活用力	集めた情報をすべて記録している。	集めた情報を取捨選択して、表やグラフにしている。	集めた情報を、表やグラフ化することにより、分析している。
表現力・コミュニケーション力	活動の内容を、資料としてまとめている。	情報収集のために家族からの聞き取りをしたり、結果を資料にまとめたりできている。	情報収集のために繰り返し家族からの聞き取りをしたり、結果を表にして説明することができる。
主体性・積極性	リーダーの指示に従って活動をしている。	課題を解決するために、他の生徒と協力して活動している。	課題を解決するために、リーダーとして行動したり、リーダーを補助して活動したりしている。
	活動を通して自分がすること	発表資料を作成すること	活動を通して、課題解決の過

自らへの自信	とを理解している。	で、満足感を得ている。	程を理解し、次の課題解決に向けて意欲を持っている。
--------	-----------	-------------	---------------------------

本単元のICEモデル



(全15時間)

次	学習活動	時数	評価	
			評価規準 (評価方法)	資質・能力 (評価方法)
課題の設定 (3)				
1	ガイダンス 神石高原町の現状を、座標軸を使って分析する。	1		
	仕事に関する保護者アンケートと、生徒アンケートを参考にして、神石高原町の未来に必要な仕事について仮説を立てる。(本時2/3)	1	学① (行動観察)	課題設定力 (行動観察)
	神石高原町に関わる職場一覧を参考にして、誰がどんなことを調べるか、役割分担をする。	1	学②, 自① (ワークシート, 行動観察)	課題発見力 (ワークシート)
情報の収集 (3)				
2	現在の神石高原町の職業の実情について、班で設定したテーマおよび役割にもとづいて、情報を収集する。	2	学③, 他① (行動観察, ワークシート)	課題解決力, 情報収集力, 主体性・積極性, 表現力・コミュニケーション力 (ワークシート)
	地域おこし協力隊員の話聞き、これからの神石高原町に必要な仕事が必要なのか、考えをもつ。	1	学③, 他①, 他② (ワークシート)	課題解決力, 情報収集力, (ワークシート)
整理・分析 (4)				
3	未来の神石高原町に必要な仕事を提案するという視座に立ち、思考ツールを用いて、必要な情報を取捨選択する。	2	学④ (行動観察)	情報活用能力 (行動観察)
	取捨選択した情報をもとに、どんな職業が提案できるかを検討する。	2	学④, 他③ (行動観察)	情報活用能力 (行動観察)
まとめ・創造・表現 (5)				
4	「未来の神石高原町に必要な仕事」の提案レポートを作成する。	4	学⑤, 自② (レポート)	表現力・コミュニケーション力, 自らへの自信 (レポート)
	発表会において、班で考えたことについて、ポスターセッションをすることができる。	1	自③	表現力・コミュニケーション力, 自らへの自信 (交流内容)

本時の学習

(1) 本時の目標

- ・ 神石高原町の未来に必要な仕事について、仮説・アイデアを出すことができる。

(2) 本時の観点別評価規準

- ・ 神石高原町の未来に必要な仕事について、本庁の課題を踏まえた仮説を立てることができる。

【ア】

(3) 準備物

電子黒板，模造紙（6枚），付箋

(4) 本時の展開

学習活動	指導上の留意事項（◇） ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導等の手立て	評価規準 （評価方法）	資質・能力 （評価方法）
1 単元の学習内容を確認する。[5分]			
○ 神石高原町の特色を整理する。 ○ 課題を知る。 【本時の目標】	◇ 前時の内容を思い出させ、意識をそろえる。		
神石高原町の未来に必要な仕事について、予想しアイデアを出すことができる。			
2 仮説を立てる。[35分]			
○ 「仕事をする目的」についてのアンケート結果を、親子で比較する。 ・ 親子の回答を比べて、気付いたことを出そう。	◇ 「仕事を選んだ理由」，「仕事をする目的」，「仕事をする上で特に大切だと思うこと」の3つのアンケート結果を提示し、簡単に説明した後，「仕事をする目的」に注目させる。 ◇ 親子とも「誰かの役に立てる」という回答が多いことに注目させる。		
○ 神石高原町の未来に必要な仕事を数多く挙げる。	◇ 一人ずつ付箋に思いつく仕事を自由に挙げる。 ◆ 神石高原町の特色を踏まえて考えているかアドバイスする。		
◎ 考えた仕事を班で出し合い，重要なものから5つランキングをつけ，その理由を整理してまとめる。	◇ 本時の評価規準を示す。 ◇ マトリクスを使って，重要と思うものから順にまとめる。 ◇ 班の近くで話し合いの様子を見ながらアドバイスする。	町の未来に必要な仕事について，仮説を立てている。 （マトリクス）	課題設定力 （マトリクス）
○ 話し合いの結果を発表する。	◇ 「選んだ5つの仕事が町に役立つだろう。」という仮説である。		
3 本時のまとめをする。[10分]			

<p>○次時の学習内容を知る。</p> <p>・仮説を確かめるために必要な情報を集める。</p>	<p>◇活動の様子・話し合いの内容について評価する。</p>		
--	--------------------------------	--	--

板書計画

本時の目標 神石高原町の未来に必要な仕事について、予想しアイデアを出すことができる

神石高原町の現状
人口減少，高齢化，産業がない，
自然が多い，・・・

仮説 神石高原町の未来に役立つ仕事は次の5つである。

重要度	仕事	役立つ相手	理由
1			
2			
3			
4			
5			

本時の流れ
アンケート結果の説明を聞く
アイデアを出す
班でランキングを付ける
発表